

かな や しも べっ しよ い せき B ち てん
金 屋 下 別 所 遺 跡 B 地 点
しお や へい し の みや い せき
塩 谷 平 氏 ノ 宮 遺 跡
しお や しも おお つか い せき E ち てん
塩 谷 下 大 塚 遺 跡 E 地 点

— 県営中山間地域総合整備事業(秋平・阿久原地区)ほ場整備(篠の池下地区)に伴う発掘調査報告書 —

2006

埼玉県本庄市教育委員会

序

本庄市では、現在513箇所の埋蔵文化財包蔵地が確認されています。これらの貴重な文化財を保存し後世に残し伝えてゆくことが、現代社会に生きる私たちの責務であります。しかしながら、産業構造の急速な変化に伴いこれらの埋蔵文化財が失われていくことも抗いがたい事実です。これらは私たちが生活していくうえで致し方ないのかも知れませんが、その証を記録という形で後世に残し、地域の歴史研究や文化の振興に役立てることが必要です。

ここに報告する金屋下別所遺跡・塩谷平氏ノ宮遺跡・塩谷下大塚遺跡の三遺跡は、県営中山間総合整備事業によって失われた、縄文時代・弥生時代・古墳時代に営まれた遺跡であり、当地域の文化の形成と歴史の発展を考えるうえで、大変貴重な埋蔵文化財であったといつてよいでしょう。

本書が、学術的な研究書としてはもちろん、埋蔵文化財についての理解と私たちの郷土の歴史についての関心をより一層深めるために、多くの方々に活用していただければ幸いに存じます。

ここに発掘調査報告書が刊行出来ましたことは、市民の皆様、埼玉県本庄農林振興センターをはじめ関係諸機関のあたたかいご理解とご協力の賜であり、心より感謝する次第でございます。

平成18年3月1日

本庄市教育委員会
教育長 茂木孝彦

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市児玉町金屋（旧児玉郡児玉町大字金屋）に所在する金屋下別所遺跡B地点、同塩谷に所在する塩谷平氏ノ宮遺跡、塩谷下大塚遺跡E地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、県営中山間地域総合整備事業（秋平・阿久原地区）ほ場整備（篠の池下地区）の面工事に先立つ記録保存を目的として、平成14年度に旧児玉町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査は、塩谷平氏ノ宮遺跡を大熊季広が、金屋下別所遺跡B地点と塩谷下大塚遺跡E地点を松澤浩一が担当した。
4. 発掘調査および整理・報告書に要した経費は、町費・国庫補助金（文化庁）・県費補助金（埼玉県教育委員会）および委託金（埼玉県）である。
5. 遺構番号は、金屋下別所遺跡B地点と塩谷平氏ノ宮遺跡が、本地点での番号であり、塩谷下大塚遺跡E地点は、住居番号はA地点からの通し番号であるが、土壌は本地点での番号である。
6. 出土遺物の実測およびトレース、遺物観察表の作成、遺物写真の撮影は、(有)毛野考古学研究所に委託し、その成果に基づいて挿図・観察表・写真図版を作成した。
7. 出土遺物観察表に記した記号は、以下のとおりである。
A－法量、B－成形、C－調整・施文手法、D－胎土、E－色調、F－残存度、G－備考、H－出土層位
8. 本書の執筆・編集は、第Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ章を松澤浩一が執筆し、第Ⅲ章の執筆と本書の編集を恋河内昭彦が行った。
9. 本書に掲載した発掘調査時の写真は、各担当者が撮影した。
10. 発掘調査及び本書作成にあたって下記の方々や機関から御助言・御協力を賜った。記して感謝いたします。（順不同・敬称略）

赤熊浩一、荒川正夫、有山径世、出縄康行、井上慎也、岩瀬 謙、梅沢太久夫、大谷 徹、書上元博、柿沼幹夫、金子彰男、小出輝雄、駒宮史朗、昆 民生、坂本和俊、篠崎 潔、外尾常人、田中広明、田村 誠、利根川章彦、富田和夫、烏羽政之、中沢良一、長滝藏康、中村倉司、長井正欣、丸山 修、宮本直樹、矢内 勲、山口逸弘、山崎 武、埼玉県埋蔵文化財調査事業団、埼玉県教育局生涯学習部生涯学習文化財課、埼玉県本庄農林振興センター

目次

序

例言

目次

第I章	発掘調査に至る経緯	1
第II章	金屋下別所遺跡B地点の発掘調査	3
	第1節 遺跡の概要	3
	第2節 検出された遺構と遺物	5
	1. 土 壙	5
	2. 溝 跡	15
第III章	塩谷平氏ノ宮遺跡の発掘調査	18
	第1節 遺跡の概要	18
	第2節 検出された遺構と遺物	20
	1. 住居跡	20
	2. 土器埋設遺構	56
	3. 土 壙	58
第IV章	塩谷下大塚遺跡E地点の発掘調査	93
	第1節 遺跡の概要	93
	第2節 検出された遺構と遺物	94
	1. 住居跡	94
	2. 土 壙	136
	3. 堀 跡	137
参考文献		144

写真図版

報告書抄録



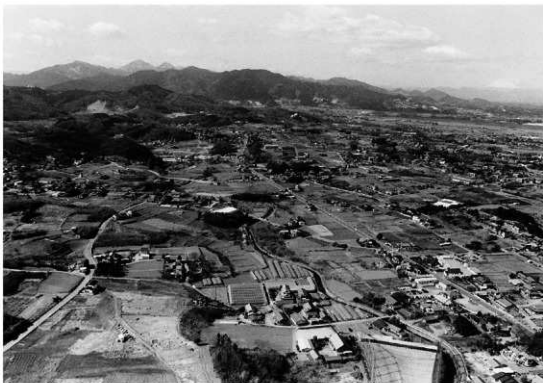
第1図 遺跡の位置

第 I 章 発掘調査に至る経緯

県営中山間地域総合整備事業（秋平・阿久原地区）は、本庄市児玉町（旧児玉郡児玉町）秋平・金屋地区、神川町（旧神泉村）阿久原地区を対象としている。本庄市児玉町分の事業は、平成13年度に高柳池下地区から面工事が実施された。今回報告するのは、平成14年度分工区の篠の池下地区の工事に先立つ埋蔵文化財保存事業として発掘調査を実施した遺跡である。

埋蔵文化財保存については、事業担当の埼玉県本庄農林振興センターより、平成14年5月に、県営中山間地域総合整備事業（秋平・阿久原地区）の工事実施に伴う埋蔵文化財の取り扱いについて、本庄市（旧児玉町）教育委員会に協議があった。これに対して、工区内には周知の埋蔵文化財包蔵地に該当する金屋下別所遺跡（No.54-090）、塩谷平氏ノ宮遺跡（No.54-094）及び塩谷下大塚遺跡（No.54-093）が存在しており、その包蔵地内を土木工事等により現状変更をする場合には、事前に記録保存の措置をとるための発掘調査が必要であること回答した。その後、埼玉県教育局生涯学習文化財課（文化財保護課）、埼玉県農村整備課、埼玉県本庄農林振興センター、及び本庄市（旧児玉町）教育委員会で取り扱い調整会議を行った。その調整・協議に基づいて、やむをえず現状変更をする施工区域については、発掘調査による記録保存の措置をとることになった。

平成14年度の発掘調査にかかわる実施期間は、金屋下別所遺跡は平成14年12月4日から平成15年1月16日、塩谷平氏ノ宮遺跡は平成14年12月4日から平成15年2月28日、塩谷下大塚遺跡は平成15年1月16日から平成15年2月28日である。（事務局）



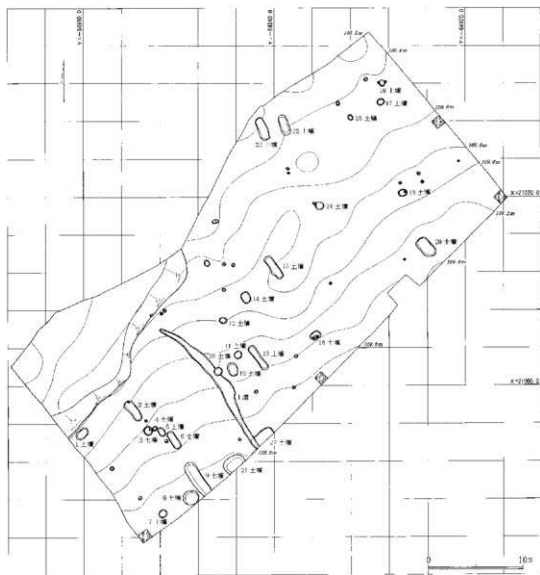


第2図 調査地点位置図

第Ⅱ章 金屋下別所遺跡B地点の発掘調査

第1節 遺跡の概要

本遺跡は、上武山地から北東方向に延びる児玉丘陵の一支丘の侵食されてきた標高108mから110mの北側斜面に占地している。なお、児玉丘陵を構成する支丘群は、北側は急斜面を成しているのに対して南側が緩やかであるという特徴があり、並行して湧水や小河川によって開析された谷田がみられる。



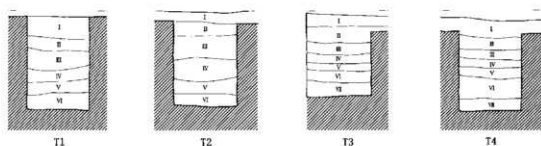
第3図 金屋下別所遺跡B地点全体図

本遺跡に関わる発掘調査は、平成14年度の泉宮中山間地域総合整備事業（藤の池下地区）に先立つ埋蔵文化財保存事業として実施したものである。すでに、民間のアパート造成（A地点）の埋蔵文化財保存事業として発掘調査が実施されている。さらに発掘調査は、ほ場整備事業が施工される範囲の中でも取り分け地山が削平される範囲について限定して実施した。しかし、調査を実施した範囲は、表土が浅かったほか、耕作等が行われていたため、遺構の遺存状態はあまり良好ではなかった。

本遺跡から検出された遺構は、古代の溝状遺構1条、縄文時代の土壇27基である。土壇の形態・規模・長軸方位等が類似したものも見られるが、その性格がわかるものはない。出土遺物は、第2号土壇、第13号土壇から縄文土器片が出土したほか、かわらけや須恵器片などが出土している。

基本土層（第4図）

第4図に示した土層は、調査区南壁及び東壁で観察した基本土層である。本地点においては、開墾も進み、緩い北斜面という立地もあり、上層は浅間山系A軽石が混入する耕作土で、その直下には褐色土であった。更に、ハードローム下には、薄くBP層が部分的に認められるほか、最下層の暗茶褐色は、ローム変移基盤層と考えられ、小礫は含まれていなかった。



第4図 基本土層

基本土層説明

- 第I層：黒褐色土層 現耕作土。浅間山系A軽石、マンガン粒を少量含む。しまりは弱く、粘性はない。
 第II層：暗茶褐色土層 ローム粒子を多量、ロームブロックを均一に、マンガン粒を少量含む。しまりは強いが、粘性はない。
 第III層：黄褐色土層 ハードローム。YP粒を均一、黒褐色土を含む。黒褐色土ブロックを少量含む。
 第IV層：暗黄褐色土層 ハードローム。黒褐色土粒子を少量含む。
 第V層：明黄褐色土層 ハードローム。黒褐色土粒子を少量含む。パサパサとした感じのあるやや粘性が弱い。しまりは強い。
 第VI層：暗黄褐色土層 ハードローム。BP含有。
 第VII層：暗茶褐色土層 ローム変移基盤層。小礫含まず。

第2節 検出された遺構と遺物

1. 土 壙

第1号土壙 (第5図、図版3-1)

本土壙は、調査区の西側に位置している。遺構の遺存状態は、良好ではない。平面形は、各コーナーが丸味を帯びた長方形を呈する。規模は、長軸1.5m、短軸90cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは12cm程度で、底面は比較的平坦である。覆土は、黒褐色土を主体としている。本土壙の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から古代の所産と考えられる。

第2号土壙 (第5図、図版3-2)

本土壙は、調査区の西側に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、各コーナーが丸味を帯びた長方形を呈する。規模は、比較的大きく長軸2.45m、短軸約1mを測る。壁は傾斜をもって立ち上がり、確認面からの深さは20cm程で、底面は平坦である。覆土は、黒褐色土を主体としている。出土遺物は、覆土中から縄文土器片が1点出土している。

本土壙の時期は、覆土の状態や出土遺物から古代の所産と考えられる。

第3号土壙 (第5図、図版3-3)

本土壙は、調査区の西側に位置している。遺存状態はあまり良好ではない。規模は、おおよそ直径90cm程、平面形は円形を呈する。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cm程度である。底面は、中央から北壁よりは窪んでいる。覆土は、暗褐色土を主体としている。

本土壙の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から古代の所産と考えられる。

第4号土壙 (第5図、図版3-4)

本土壙は、調査区の西側に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、稍円形を呈している。規模は長軸55cm、短軸45cmを測る。壁はやや直線的に立ち上がり、確認面からの深さは20cm程で、底面は平坦である。覆土は、褐色土を主体としている。

本土壙の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から古代の所産と考えられる。

第5号土壙 (第5図、図版3-5)

本土壙は、調査区の西側に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、各コーナーが丸味を帯びた長方形を呈している。規模は比較的大きく、長軸1.05m、短軸65cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは25cmで、最深部は30cmである。底面は平坦である。覆土は、暗黒灰色土を主体としている。

本土墳の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から古代の所産と考えられる。

第6号土墳（第5図、図版3-6）

本土墳は、調査区の西側に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、各コーナーが丸味を帯びた長方形を呈している。規模は比較的大きく、長軸2.1m、短軸80cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは20cm～25cm程である。底面はおおむね平坦だが、北壁よりはやや窪んでいる。覆土は、暗茶褐色土を主体としている。

本土墳の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から古代の所産と考えられる。

第7号土墳（第5図、図版3-7）

本土墳は、調査区の西側に位置している。遺構の遺存状態は、あまり良好ではない。平面形は、ほぼ円形を呈している。規模は、直径80cm程である。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cm程である。底面は比較的平坦であるが、東壁付近は窪んでいる。覆土は、暗褐色土を主体としている。

本土墳の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から古代の所産と考えられる。

第8号土墳（第5図、図版3-8）

本土墳は、調査区西側に位置している。南壁に隣接している。遺構の遺存状態は、良好である。平面形は楕円形を呈している。規模は比較的大きく、長軸1.7m、短軸1.5mを測る。壁はやや垂直気味に立ち上がり、確認面からの深さは60cm程である。底面は、平坦である。覆土は、暗茶褐色土を主体としている。

本土墳の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から古代の所産と考えられる。

第9号土墳（第5図）

本土墳は、調査区の西側に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、各コーナーが丸みを帯びた長楕円形を呈している。規模は大きく、長軸3.8m、短軸1.3mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは、区外に接する南側は50cm、北壁よりは40cmである。底面は平坦である。覆土は、暗褐色土を主体としている。

本土墳の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から古代の所産と考えられる。

第10号土壇 (第5図、図版4-1)

本土壇は、調査区の中央付近に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、各コーナーが丸みを帯びた長方形を呈している。規模は、長軸1.45m、短軸1mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは、50cm程である。底面は平坦である。覆土は、暗褐色土を主体としている。

本土壇の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から古代の所産と考えられる。

第11号土壇 (第5図、図版4-2)

本土壇は、調査区の中央付近に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、楕円形を呈している。規模は、長軸85cm、80cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは50cm程で、底面は平坦である。覆土は、褐色土を主体としている。

本土壇の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から古代の所産と考えられる。

第12号土壇 (第5図、図版4-3)

本土壇は、調査区の中央付近に位置している。遺構の遺存状態は、あまり良好ではない。平面形は、楕円形を呈している。規模は、長軸75cm、短軸65cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cmで、底面は平坦である。覆土は、褐色土を主体としている。

本土壇の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から古代の所産と考えられる。

第13号土壇 (第5図、図版4-4)

本土壇は、調査区の中央に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、各コーナーが丸みを帯びた長方形を呈している。規模は大きく、長軸3m、短軸65cm～75cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは30cm程で、底面は比較的平坦である。覆土は、黒褐色土を主体としている。出土遺物は、覆土中から縄文土器片が1点出土している。

本土壇の時期は、覆土の状態や出土遺物から、古代の所産と考えられる。

第14号土壇 (第5図、図版4-5)

本土壇は、調査区の中央に位置している。遺構の遺存状態は、あまり良好ではない。平面形は、各コーナーが丸みを帯びた長方形を呈している。規模は、長軸1.23m、短軸92cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは、15cm程である。底面は平坦である。覆土は、黒褐色土を主体としている。

本土壇の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態より古代の所産と考えられる。

第15号土壙（第5図、図版4-6）

本土壙は、調査区の中央に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、各コーナーが丸味を帯びた長方形を呈している。規模は大きく、長軸2.78m、短軸70cm～90cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは、25cmで、底面は比較的平坦である。覆土は、上層は黒褐色土、下層は褐色土を主体としている。

本土壙の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

第16号土壙（第6図、図版4-7）

本土壙は、調査区の中央に位置している。重複するピットを切っている。遺構の遺存状態は、あまり良好ではない。平面形は、各コーナーが丸味を帯びた長方形を呈している。規模は、長軸1.1m、短軸77cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは12cm程で、底面は平坦である。覆土は、黒褐色土を主体としている。

本土壙の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

第17号土壙（第6図）

本土壙は、調査区の東側に位置している。遺構の遺存状態は、あまり良好ではない。平面形は、円形を呈している。規模は、直径80cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは、10cmで、底面はやや丸みをもつ。覆土は、黒褐色土を主体としている。

本土壙の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

第18号土壙（第6図、図版4-8）

本土壙は、調査区の東側に位置している。重複するピットを切っている。遺構の遺存状態は、あまり良好ではない。平面形は、楕円形を呈している。長軸65cm、短軸55cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、深さは10cm程で、底面は平坦である。覆土は、茶褐色土を主体としている。

本土壙の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

第19号土壙（第6図、図版5-1）

本土壙は、調査区の東側に位置している。遺構の遺存状態は、あまり良好ではない。平面形は、楕円形を呈している。規模は、長軸95cm、短軸78cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは、10cm程で、底面は平坦である。覆土は、灰褐色土を主体としている。

本土壙の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

第20号土壙（第6図、図版5-2）

本土壙は、調査区の東側に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、楕円形を呈している。規模は、長軸2.34m、短軸1.35mである。東壁は緩やかに立ち上がるが、西壁はやや傾斜して立ち上がり、確認面からの深さは、30cmで、底面は平坦である。覆土は、褐色土を主体としている。

本土壙の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

第21号土壙（第6図、図版5-3）

本土壙は、調査区の西側に位置している。土壙の南半分は調査区外のため、全容は不明であるが、遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、調査区内で検出された部分から、楕円形を呈していると思われる。規模は比較的大きく、東西方向は2.4m、南北方向は1.4mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは0.4mで、底面は平坦であるが、東壁付近がいくらか窪んでいる。覆土は、暗褐色土を主体としている。

本土壙の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

第22号土壙（第6図、図版5-4）

本土壙は、調査区の北に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、各コーナーが丸味を帯びた長方形を呈している。規模は、長軸2.2m、短軸90cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは90cmで、底面は平坦である。覆土は、黒褐色土を主体としている。

本土壙の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

第23号土壙（第6図、図版5-5）

本土壙は、調査区の北に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、各コーナーが丸味を帯びた長方形を呈している。規模は比較的大きく、長軸2.5m、短軸1mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは40cmで、底面は平坦である。覆土は、褐色土を主体としている。

本土壙の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から古代の所産と考えられる。

第24号土壙（第6図）

本土壙は、調査区の中央に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。平面形は、円形を呈している。規模は、長軸95cm、短軸85cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは20cmで、底面は平坦であるが、壁沿いが若干窪んでいる。覆土は、褐色土を主体としている。

本土壤の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

第25号土壌 (第6図)

本土壤は、調査区の東側に位置している。遺構の遺存状態は、あまり良好ではない。平面形は、楕円形を呈している。規模は、長軸60cm、短軸55cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは20cm程で、底面は平坦である。覆土は、暗茶褐色土を主体としている。

本土壤の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

第26号土壌 (第6図、図版5-6)

本土壤は、調査区中央付近に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。重複する第1号溝に切られているため、遺構の全容は不明であるが平面形は、楕円形を呈しているようである。規模は、南北方向は0.8mである。壁は垂直気味に立ち上がり、確認面からの深さは0.28m程で、底面は平坦である。覆土は、暗褐色土を主体としている。

本土壤の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

第27号土壌 (第6図、図版5-7)

本遺構は、調査区の中央付近に位置している。遺構の遺存状態は、比較的良好である。遺構の半分が調査区外にかかっており、全容は不明である。また、重複する第1号溝跡に切られている。平面形は、調査区内で検出された部分から、各コーナーが丸味を帯びた長方形を呈すると思われる。規模は比較的大きく、東西2.6m、南北10.5mである。遺存状態は、比較的良好で確認面からの深さは0.2m程で、壁は傾斜をもって立ち上がり、底面は平坦である。覆土は、黒褐色土を主体としている。

本遺構の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

第1号土壌土層説明

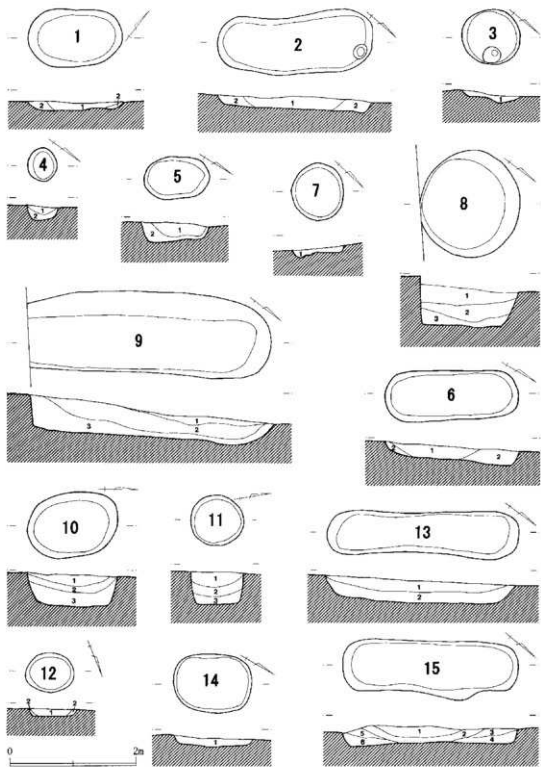
第1層：黒褐色土層 褐色粒子を均一、褐色小ブロックを少量含む。しまりはやや弱い。粘性はやや強い。
第2層：黒褐色土層 褐色粒子を多量、褐色ブロックを少量含む。しまりは弱い。粘性は強い。

第2号土壌土層説明

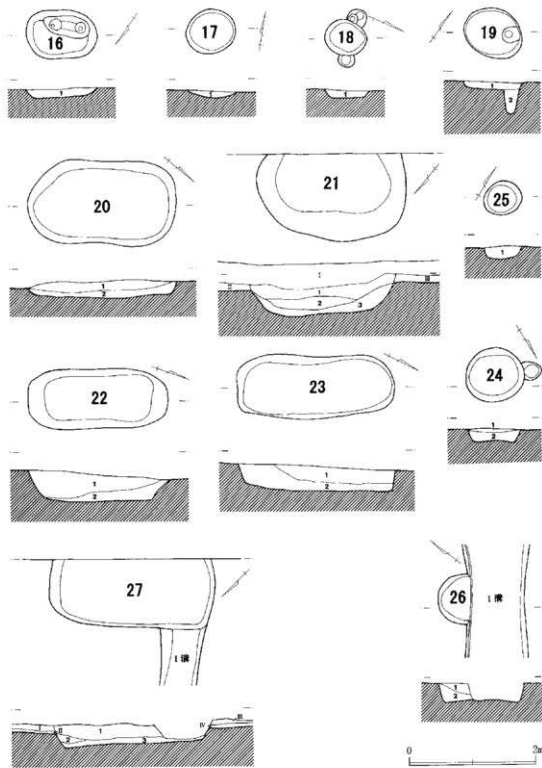
第1層：黒褐色土層 褐色粒子を均一、ローム粒子、ローム小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
第2層：黒褐色土層 ローム粒子、ローム小ブロックを均一、褐色小ブロックを少量、炭化物粒子、同小ブロックを微量に含む。しまり、粘性共に強い。

第3号土壌土層説明

第1層：暗褐色土層 褐色粒子を多量、ローム粒子を均一に含む。しまり、粘性共に強い。



第5圖 土 壙 (1)



第6圖 土 罎 (2)

第4号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 ローム粒子を均一、黒褐色粒子をやや多く、炭化物小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
- 第2層：黒褐色土層 褐色粒子を均一、ローム粒子、ローム小ブロック、炭化物小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に弱い。

第5号土壌土層説明

- 第1層：暗黒灰色土層 ローム粒子、褐色小ブロックを均一、ローム小ブロックを少量含む。褐色粒子を多量に含む。しまり、粘性共にやや強い。
- 第2層：褐色土層 ローム粒子を多量、黒褐色土層粒子を均一に含む。ロームブロック、炭化物小ブロックを少量含む。しまり、粘性共にやや強い。

第6号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 茶褐色土ブロックを多量、茶褐色土小ブロックを均一に、茶褐色土粒子、炭化物粒子を含む。しまり、粘性共にやや強い。
- 第2層：暗黒褐色土層 茶褐色土粒子を均一、ローム小ブロック、炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。

第7号土壌土層説明

- 第1層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロックを少量、炭化物粒子・同小ブロックを微量に含む。しまり、粘性共にやや強い。

第8号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 ローム粒子・黒褐色土ブロック・炭化物小ブロックを多量に、ローム小ブロックを均一に含む。しまり、粘性共にやや弱い。
- 第2層：暗茶褐色土層 ローム粒子・黒褐色土ブロックを多量に、ロームブロックを均一に含む。しまり、粘性やや弱い。
- 第3層：暗褐色土層 ローム粒子を多量に、ロームブロックを少量、炭化物小ブロックを微量に含む。しまり、粘性共にやや弱い。

第9号土壌土層説明

- 第1層：暗黒茶褐色土層 ローム粒子を均一に、ロームブロック・茶褐色ブロックを少量含む。しまり、粘性共にやや弱い。
- 第2層：暗褐色土層 ローム小ブロックを多量、ロームブロックを均一に含む。しまり、粘性共にやや弱い。
- 第3層：茶褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロックを多量、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共に弱い。

第10号土壌土層説明

- 第1層：暗褐色土層 茶褐色土ブロックを均一、ローム小ブロック・炭化物小ブロックを微量に含む。しまり、粘性強い。
- 第2層：暗褐色土層 茶褐色土ブロック、茶褐色小ブロック・ローム粒子を微量に含む。しまり、粘性共に強い。
- 第3層：黒褐色土層 褐色土ブロックを均一、ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。

第11号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層 褐色ブロックを均一、炭化物小ブロックを少量、ローム粒子を微量に含む。しまり、粘性共に強い。
- 第2層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共に強い。
- 第3層：茶褐色土層 ローム粒子を均一、炭化物粒子、ロームブロックを少量含む。しまり、粘性共にやや強い。

第12号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層 褐色小ブロックを少量、褐色粒子を微量に含む。しまり、粘性共にやや弱い。
- 第2層：暗褐色土層 褐色ブロックを少量、褐色粒子をやや疎らに、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共にやや弱い。

第13号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層 褐色小ブロックを均一、褐色粒子を微量に含む。しまり、粘性共にやや弱い。
- 第2層：暗褐色土層 褐色ブロックを均一、褐色粒子をやや疎らに、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共にやや弱い。

第14号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層 ローム粒子を少量、炭化物粒子、ロームブロックを微量に含む。しまり、粘性共にやや強い。

第15号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層 ローム小ブロックを均一に、炭化物粒子を微量含む。しまり、粘性やや弱い。
 第2層：黒褐色土層 ロームブロックを均一に、ローム小ブロックを少量含む。しまり、粘性やや強い。
 第3層：黒褐色土層 ロームブロック・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性やや強い。
 第4層：黒褐色土層 ロームブロックを均一に、ローム小ブロックを少量含む。しまり、粘性やや強い。
 第5層：暗褐色土層 ローム粒子を多量、ローム小ブロックを均一に含む。しまり、粘性やや弱い。
 第6層：暗褐色土層 ローム小ブロックを多量、ローム粒子を均一、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性やや強い。

第16号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層 ローム小ブロックを均一、ローム粒子をやや少量含む。しまり、粘性共にやや弱い。

第17号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層 ローム粒子を多量、ロームブロックを疎らに含む。しまり、粘性共にやや弱い。

第18号土壌土層説明

- 第1層：茶褐色土層 黒褐色土ブロックを多量、ローム粒子を少量、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性やや強い。

第19号土壌土層説明

- 第1層：灰褐色土層 ローム粒子を均一、ロームブロックを少量、ローム小ブロックを疎らに、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共にやや弱い。

第20号土壌土層説明

- 第1層：茶褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロックを疎ら、ロームブロックを微量に含む。しまり、粘性共にやや弱い。
 第2層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、ロームブロックを疎ら、ローム小ブロックを多量に含む。しまり、粘性共にやや弱い。

第21号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 ローム粒子・ローム小ブロックを少量、炭化物粒子を均一に含む。しまり、粘性やや弱い。
 第2層：暗褐色土層 黒灰色土粒子を均一、ローム小ブロック・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共にやや弱い。
 第3層：暗褐色土層 ロームブロックを均一に、ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。

第22号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層 褐色粒子が多量、マンガン粒を均一に、ローム小ブロックを微量に含む。しまり、粘性共に強い。
 第2層：暗褐色土層 ローム小ブロックを均一、褐色粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。

第23号土壌土層説明

- 第1層：黒灰色土層 ロームブロックを少量、ローム小ブロックを微量、マンガン粒を少量含む。しまり、粘性共に強い。
 第2層：褐色土層 ロームブロックを均一、ローム粒子を多量に、ローム小ブロック・マンガン粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。

第24号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層 白色粒子を少量含む。しまり、粘性共にやや弱い。
 第2層：褐色土層 ローム小ブロックを均一、白色粒子を少量、マンガン粒子を微量に含む。しまり、粘性共にやや強い。

第25号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 黒褐色土を多量、ローム小ブロック・白色粒子・マンガン粒を微量に含む。しまり、粘性やや強い。

第26号土壌土層説明

- 第1層：暗褐色土層 ローム小ブロックを少量、炭化物粒子・ローム粒子を微量に含む。しまり、粘性共にやや強い。
 第2層：暗褐色土層 炭化物粒子を少量、ローム粒子を均一に含む。しまり、粘性やや強い。

第27号土壌土層説明

- 第1層：暗褐色土層 ローム粒子を少量、ローム小ブロックを均一、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共にやや強い。
 第2層：暗黒灰色土層 ローム粒子、炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共にやや弱い。

2. 溝 跡

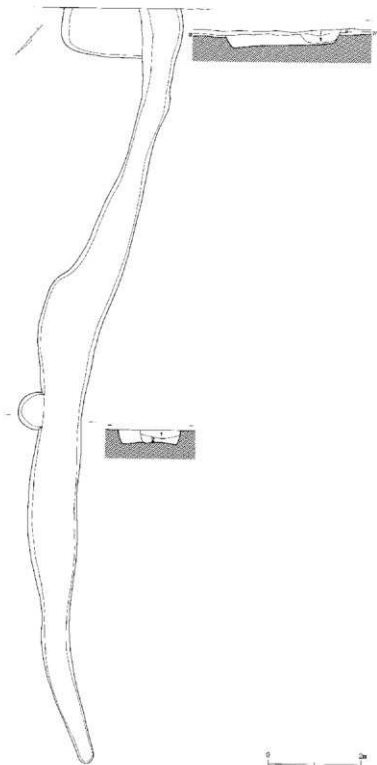
第1号溝跡 (第7図、図版5-8)

調査区の中央付近に位置し、調査区内でほぼ南北方向に向けてやや蛇行した流露を取っている。溝跡の南端部は途切れており、北端部は調査区外に延びている。形態は、溝跡の上幅が60cm～1mの比較的均一な幅であるが、一部最大幅が1.15mと広がる部分がある。断面は逆台形を呈している。壁は傾斜しつつ立ち上がり、確認面からの深さは30cm程度である。底面は、広く平坦である。覆土は、ローム粒子を均一、ローム小ブロックを含む暗褐色土を主体とするが、流水の痕跡は見られない。本遺構の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から、古代の所産と考えられる。

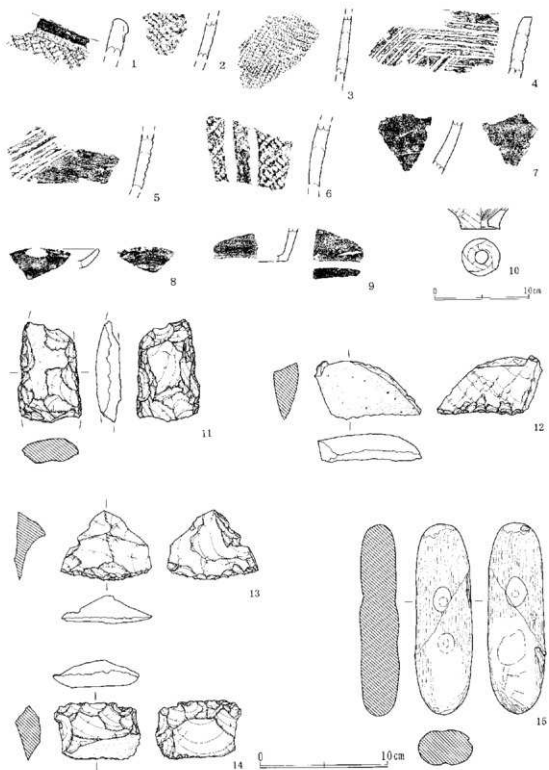
第1号溝土葬説明

第1層：黒褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロックを少量、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共にやや強い。

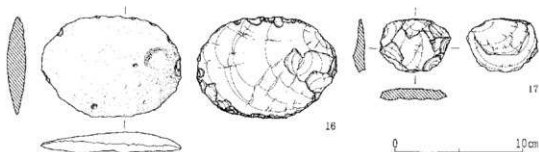
第2層：暗茶褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒子、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共にやや強い。



第7図 第1号溝跡



第8圖 金屋下別所遺跡B地点出土遺物(1)



第9図 金屋下別所遺跡B地点出土遺物(2)

金屋下別所遺跡B地点出土遺物観察表

1	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面単節縄文(R L)施文後横位沈線。内面ナデ。D.黒色鉱物、チャート。E.内外一明赤褐色。F.口縁部破片。H.第2号土壘覆土。
2	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面単節縄文(R L)施文。内面ナデ。D.繊維、チャート。E.外一黄褐色、内一黄褐色。F.破片。H.第13号土壘覆土。
3	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文による羽状縄文。D.繊維、チャート。E.内外一黒褐色。F.破片。H.第22号土壘覆土。
4	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面ナデ、内面丁寧なミガキ。文様は、半截竹管状工具による平行沈線で菱形の文様を描出。内面丁寧なミガキ。D.繊維、チャート。E.内外一褐色。F.口縁部破片。H.調査区内。
5	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面ナデ、内面丁寧なミガキ。文様は、半截竹管状工具による平行沈線で菱形の文様を描出。内面丁寧なミガキ。D.繊維、チャート。E.内外一褐色。F.口縁部破片。H.調査区内。
6	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面単節縄文(R L)→縦位沈線→沈線間の縄文を帯消。内面ナデ。D.黒色鉱物、チャート。E.内外一明赤褐色。F.破片。H.調査区内。
7	須恵器甕	B.粘土紐積み上げロクロ成形。C.内外面ナデ。D.白色粒。E.内外一灰色。F.破片。G.還元焰焼成。H.調査区内。
8	かわらけ	B.ロクロ成形。C.内外面回転ナデ。D.白色粒。E.内外一橙色。F.破片。H.調査区内。
9	内耳鍋	B.粘土紐積み上げ。C.内外面ナデ。D.白色粒。E.内外一褐色。F.破片。H.調査区内。
10	小形瓶	A.底径4.0。B.粘土紐積み上げ。C.外面篋ナデ、内面ミガキ。D.角閃石、チャート。E.内外一赤褐色。F.底部のみ。H.調査区内。
11	打製石斧	A.残存長8.0、幅4.9、厚さ2.0、重さ94.5g。C.直接打撃による両面調整。一部に磨耗痕。片面に自然面を残す。D.頁岩。F.1/2。H.調査区内。
12	スクレイパー	A.長さ8.2、幅4.6、厚さ2.0、重さ82.6g。C.縦長剥片の一個縁に加工を施して刃部とする。自然面を残す。D.安山岩。F.完形。H.第1号土壘覆土。
13	スクレイパー	A.長さ5.5、幅7.2、厚さ2.3、重さ41.4g。C.縦長剥片の一個縁に両面加工を施して刃部とする。D.頁岩。F.完形。G.石造の未製品の可能性あり。H.調査区内。
14	スクレイパー	A.長さ4.6、幅6.8、厚さ2.1、重さ61.0g。C.縦長剥片の二個縁を直接打撃による両面調整。自然面を残す。D.頁岩。F.完形。H.調査区内。
15	凹石	A.長さ15.1、幅4.6、厚さ3.1、重さ340.8g。C.表2穴・裏1穴。表裏面の下半部で顕著な磨耗痕。上端部に敲打痕。D.片岩。F.完形。H.調査区内。
16	スクレイパー	A.長さ8.0、幅11.0、厚さ1.5、重さ148.8g。C.礫皮を打面とする縦長剥片の周縁に微細剥離痕。自然面を残す。D.砂岩。F.完形。H.調査区内。
17	R F	A.長さ4.2、幅5.3、厚さ0.9、重さ23.4g。C.礫皮を打面とする薄型剥片の縁辺に加工痕。D.頁岩。F.完形。H.調査区内。

(松澤浩一)

第三章 塩谷平氏ノ宮遺跡の発掘調査

第1節 遺跡の概要

本遺跡は、上部山地から北東方向に半島状に細長く延びる兎玉丘陵の一支丘上に立地している。標高は120mを測り、同一支丘上の北東側丘陵先端部には塩谷下大塚遺跡が隣接している。本遺跡が立地する丘陵の北側斜面は急峻になっているが、その斜面下に広がる低台地上には在地産初期須恵器の出土で有名なミカド遺跡(坂本1981)が立地している。

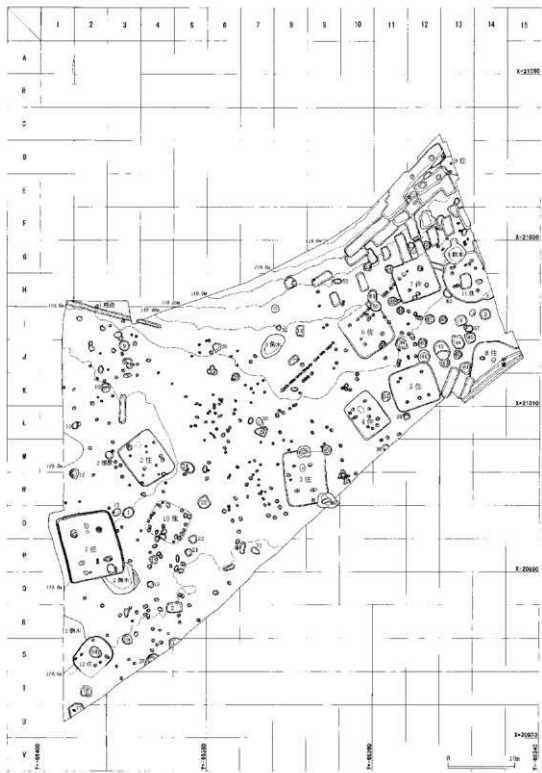
調査区内から検出された主な遺構は、縄文時代中期の住居跡3軒・土器埋設遺構2、土城29、倒木痕3、弥生時代後期の住居跡5軒、古墳時代前期の住居跡4軒である。

縄文時代中期の住居跡は、同時期ではなく概ね中頃と終末の2時期に大別される。住居跡はいずれの時期も密集せずに散在した分布の様相が窺え、比較的小規模な集落の一部と思われる。

弥生時代後期の住居跡は、いずれも後期初頭の樽式土器をもつ住居で、その住居構造の類似性や出土土器からみて、比較的近時した時期の集落と思われる。

古墳時代前期の住居跡は、調査区の北東側に密集して分布している。その近接したあり方からすべてが同時期に存在したとは考えられないが、比較的近時した時期と思われる。これらの住居跡から出土した土器は、外来系土器とともに在地の吉ヶ谷式系土器を出土するものが多く、その様相は北側の旧赤根川(現女堀川)を挟んで対峙する真鏡寺後遺跡(恋河内1991)と類似している。





第10圖 塩谷平氏ノ宮遺跡全体圖

第2節 検出された遺構と遺物

1. 住居跡

第1号住居跡(第11～12図、図版8-1)

OPQ～1・2・3グリットに位置し、重複する縄文時代中期の第2号倒木痕を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は南北方向7.98m、東西方向6.72mを測る。住居の主軸方位は、N-13°-Wをとる。確認面から床面までの深さは、20cm程度である。

炉は、住居長軸線上の北側支柱穴P1・P2間に位置し、形態は直径32cm程度の円形を呈している。床面を4cmほど掘り窪めた地皿炉で、直上からはNo2の臺の胴部大形破片が敷かれたような状態で出土している。壁溝は、南側壁下以外の各壁下に見られるが、住居北西コーナー部下は途切れている。規模は上幅が16cm～23cmあり、深さは3cm程度で全体的に浅い。ピットは、住居跡内から6ヶ所検出されている。P1～P4は支柱穴で、住居の対角線上に配置されている。いずれも長軸60cm程度の楕円形で、深さは70cm前後ある。P5は、直径30cm弱の円形を呈し、深さは38cmある。P6は、その位置や形態からいわゆる貯蔵穴と考えられるもので、南側半分の縁辺には灰白色粘土を盛り上げた馬蹄形状の周堤を伴う。形態は140cm×118cmの南北方向に長い楕円形で、深さは33cmある。住居床下の掘り方(第11層)は、住居床下を比較的浅く掘り窪める形態のものであるが、住居の中央部だけで壁際には及ばない形態である。

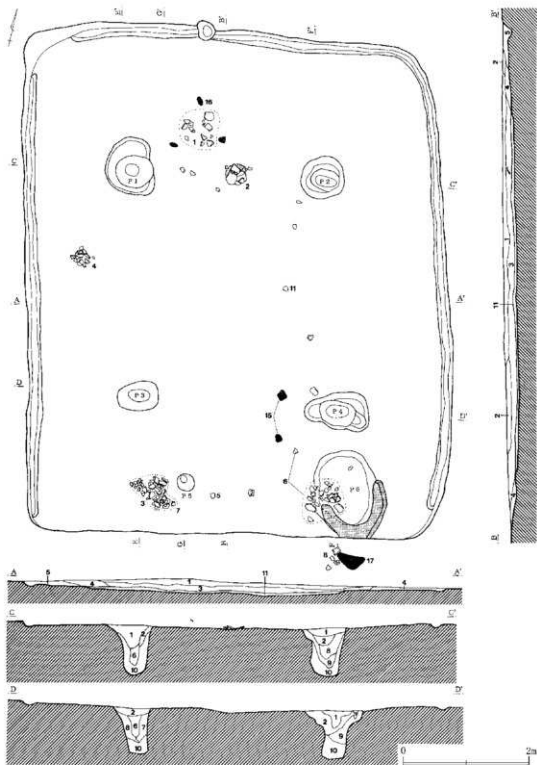
出土遺物は、土器と石器がある。土器は、壺・甕・高環などの良好な一括資料が出土している。いずれも住居周辺部の床面付近から出土しているが、いずれも原形を留めず多くの破片になって出土している。石器は、大形の台石状の砥石(No15・17)や楕円状の磨石(No16)の他に、床下掘り方内より、粘板岩製の有孔磨製石鏃(No18)が1点出土している。

第1号住居跡土層説明

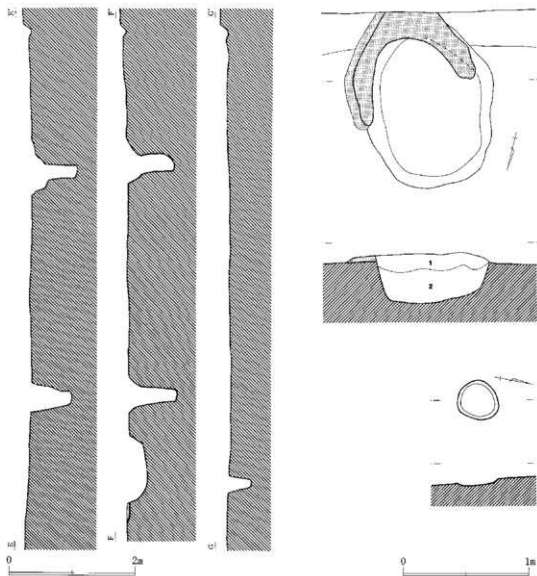
- 第1層：黒褐色土層 黒褐色土を主とし、明黄褐色粒(～0.1mm)、明黄褐色小塊(～4mm風化状)を少量含む。しまり軟らかく、粘性普通。
- 第2層：明黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、明黄褐色小塊(～4cm風化)を少量含む。しまり軟らかく、粘性普通。
- 第3層：明褐色土層 明褐色土を主体とし、明黄褐色ローム小塊(～5cm風化状)を少量含む。しまり軟らかく、粘性ややあり。
- 第4層：暗褐色土層 暗茶褐色ローム土(縄文覆土状)及び明黄褐色小塊(～2cm)を斑状に含む。しまりやや軟らかく、粘性ややあり。
- 第5層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、明黄褐色粒(～0.1mm)を少量含む。しまり軟らかく、粘性普通。
- 第6層：明褐色土層 明茶褐色粒子・明黄褐色粒子(～0.1mm)を主体とする。しまり軟らかく、粘性高い。
- 第7層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、明黄褐色土粒子(～0.1mm)を中量含む。しまり軟らかく、粘性高い。
- 第8層：暗茶褐色土層 明茶褐色度を主体とし、明黄褐色粒子(～0.1mm)、同小塊(～5cm未風化)を少量含む。しまり軟らかく、粘性高い。
- 第9層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊(～3cm未風化)を主体とし、暗茶褐色粒子(～0.1mm)を少量含む。しまりやや軟らかく粘性高い。
- 第10層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊(4cm未風化)を主体とし、暗茶褐色粒子(～0.1mm)を微量含む。しまりやや軟らかく、粘性高い。
- 第11層：明黄褐色土層 明黄褐色度小塊(～5cm未風化)を主とし、ローム粒子・暗茶褐色粒子(～0.1mm)を斑塊状に含む。しまり硬く粘性ややあり。

第1号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、灰白色粘土粒子(～0.1mm)を中量含む。しまりやや軟らかく、粘性やや高い。
- 第2層：暗褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、暗褐色・明黄褐色小塊(～2cm)を少量含む。しまりやや軟らかく、粘性やや高い。



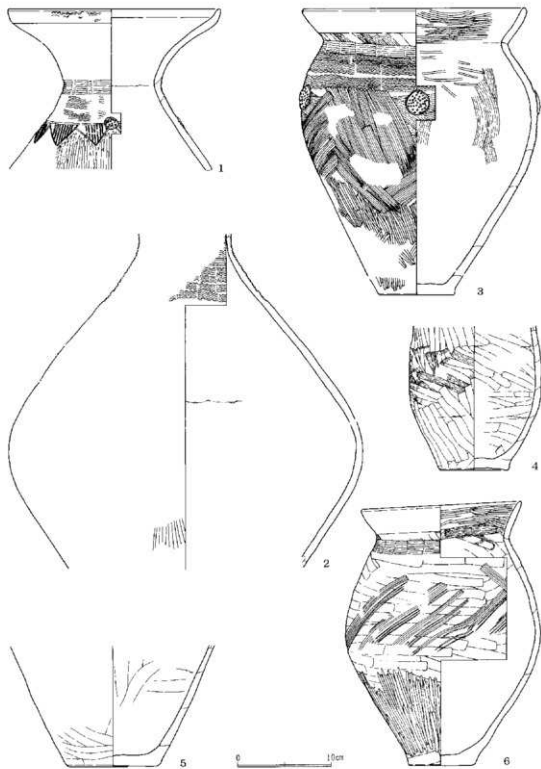
第11图 第1号住居跡(1)



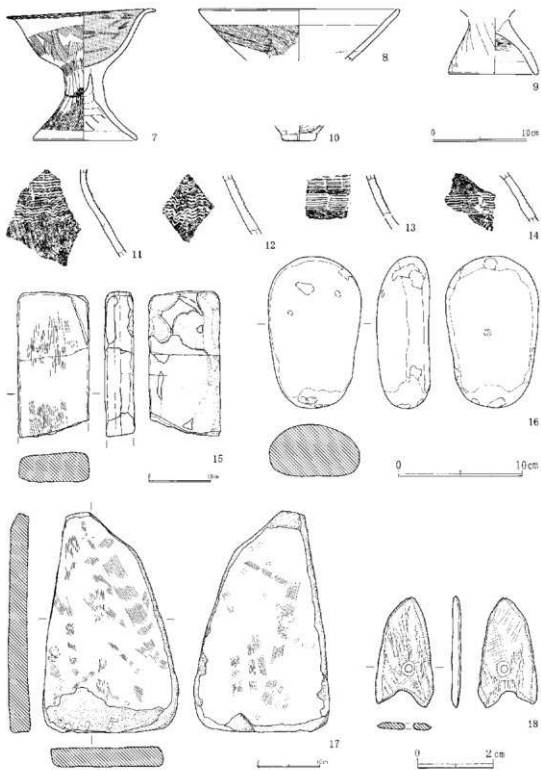
第12図 第1号住居跡(2)

第1号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A.口径(22.4)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ミガキ。胴部外面文様施文後ミガキ、内面ナデ。文様は、頸部に8本歯の櫛描による2連止簾状文、口縁部と胴部上半に同一工具による櫛描波状文、胴部波状文下に尾描鋸歯文と、刺突を伴う円形浮文を施す。D.角四石、チャート。E.外-明赤褐色、内-褐色。F.口縁部~胴部上半のみ。H.床面付近。
2	壺	B.粘土紐積み上げ。C.外面ミガキ、内面観察不能。文様は、頸部に等間隔止櫛描簾状文、胴部上半櫛描波状文。D.角四石、茶褐色粒。E.外-暗褐色、内-黄褐色。F.1/3。H.炉上面。
3	甕	A.口径23.7、器高30.3、底径7.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ハケの後ミガキ。胴部外面ハケの後下位ミガキ。内面ハケの後上半ミガキ。文様は、頸部に6本歯の等間隔止櫛描簾状文、胴部上半3段の櫛描波状文、中に櫛歯状工具による密集した縦走羽状文、その間に刺突を伴う大形の円形浮文を施す。D.片岩、角四石。E.外-黄褐色、内-赤褐色。F.2/3。H.床面付近。



第13图 第1号住居跡出土遺物(1)



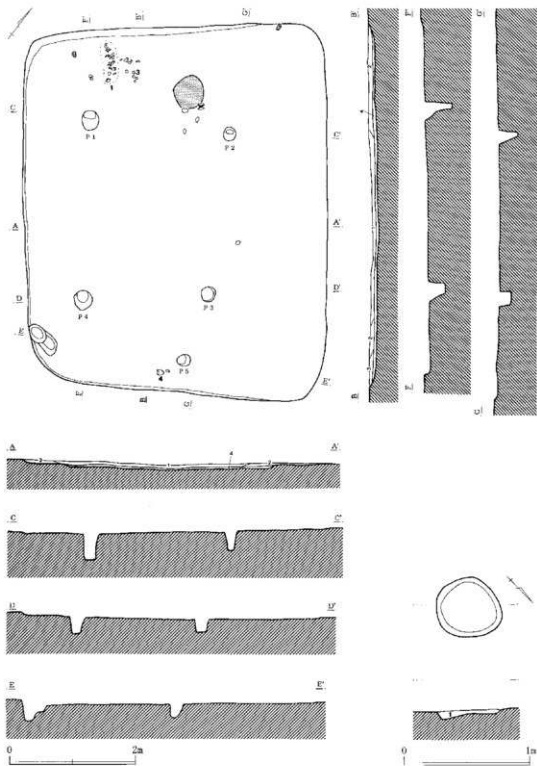
第14图 第1号住居跡出土遺物(2)

4	甕	A.底径7.2。B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面木口状工具によるナデの後篋ナデ、内面篋ナデ。底部外面篋削り、内面ナデ。D.角四石、チャート。E.外-明赤褐色、内-黒褐色。F.1/2。H.床面直上。
5	甕	A.底径9.8。B.粘土紐積み上げ。C.胴部内外面篋ナデ。D.角四石、チャート。E.外-褐色、内-灰褐色。F.胴部下のみ。H.床面直上。
6	甕	A.口径16.9。器高27.9。底径6.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ハケの後ミガキ。胴部外面篋ナデの後施文、その後下位ミガキ。内面篋ナデ。文様は、頸部に8本歯の等間隔止櫛描縲状文、胴部上半櫛描による雑な格子状文を施す。D.角四石、チャート。E.外-黄褐色、内-赤褐色。F.3/4。G.外面煤付着。H.P6野藏穴内。
7	高 坏	A.口径(15.7)。器高14.0。底径(11.2)。B.粘土紐積み上げ。C.坏部外面ハケの後上半ヨコナデ、内面ミガキ。脚部外面木口状工具によるナデ、内面篋ナデ。脚端部内外面ヨコナデ。D.角四石、チャート。E.内外-黄褐色。F.1/2。G.坏部内面赤彩。H.床面直上。
8	高 坏	A.口径(21.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面木口状工具によるナデ、内面ナデ。D.チャート。E.外-黄褐色、内-灰褐色。F.1/4。H.住居外。
9	高 坏	A.底径(9.5)。B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面篋ナデ、内面ハケ。脚端部内外面ヨコナデ。D.角四石、白色粒。E.外-黄褐色、内-灰黄色。F.2/3。H.覆土。
10	小形土器	A.底径(3.6)。B.粘土紐積み上げ。C.内外面ナデ。D.チャート。E.外-褐色、内-黒褐色。F.底部のみ。H.覆土。
11	壺	B.粘土紐積み上げ。C.頸部に9本歯の等間隔止櫛描縲状文の後、その下に同一工具による櫛描波状文を施す。内面篋ナデ。D.片岩、チャート。E.外-褐色、内-黄褐色。F.破片。H.床面付近。
12	壺	B.粘土紐積み上げ。C.胴部に8本歯の櫛描波状文を施す。内面厚減顕著。D.黒色粒、白色粒。E.外-褐色、内-黄褐色。F.破片。H.覆土。
13	壺	B.粘土紐積み上げ。C.胴部に8本歯の等間隔止櫛描縲状文を2段施す。内面ナデ。D.黒色粒、チャート。E.内外-褐色。F.破片。H.覆土。
14	壺	B.粘土紐積み上げ。C.外面に9本歯の櫛描波状文とその下に篋描の鋸歯文を施す。内面厚減。D.片岩、角四石。E.内外-褐色。F.破片。H.覆土。
15	砥 石	A.残存長22.9、幅11.0、厚さ4.7、重さ1815.1g。C.表裏面は磨耗により平滑。裏面上部に浅い溝状の擦痕。D.砂岩。F.2/3。H.床面付近。
16	磨 石	A.長さ12.0、幅7.3、厚さ4.1、重さ593.1g。C.表裏面に磨耗痕。側縁に敲打痕。D.安山岩。F.完形。H.床面直上。
17	砥 石	A.長さ35.4、幅17.9、厚さ3.0、重さ3430g。C.板状。表裏面に磨耗により平滑。浅い溝状の擦痕が見られる。D.砂岩。F.完形。H.住居外。
18	磨製石礫	A.長さ2.9、幅1.6、厚さ0.25、重さ1.17g。C.板状。表裏面とも研磨。D.粘板岩。F.完形。G.基部に穿孔あり。H.床下掘り方内。

第2号住居跡 (第15図、図版B-3)

LMN～3・4グリットに位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は北西～南東5.77m、南西～北東4.80mを測る。住居の主軸方位は、N-36°-Wをとる。確認面から床面までの深さは、8cm程度である。

炉は、住居長軸線上にあり、北西側主柱穴P1・P2間より外側の壁寄りに位置する。形態は、長さ50cm前後の円形さみで、床面を6cmほど掘り窪めた地皿炉である。残存する各壁下には壁溝は見られない。ピットは、住居跡内より6ヶ所検出されているが、住居に伴うと考えられるものは、P1～P5の5ヶ所である。P1～P4は、その位置から主柱穴と考えられるもので、ほぼ住居の対角線上に配置されている。いずれも直径20cm～30cmの円形を呈し、深さは20cm～40cmある。



第15图 第2号住居跡

P5は、直径22cmの円形を呈し、深さは19cmある。住居の掘り方(第4層)は、住居床下を比較的浅く掘り深める形態のものであるが、住居南西側と北東側の壁際には及ばない。

出土遺物は、比較的少量であるが、土器と石器がある。土器は、住居北西側壁際の床面上よりNo1の甕が破片になって出土している。石器は、住居南東側壁際の床面上よりNo4の磨石が1点出土しているだけである。

第2号住居跡土層説明

第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、黒褐色土粒子(～0.1mm)を少量、明黄褐色土粒子(～0.1mm)、同風化小塊(～4mm)を中量含む。しまり軟らかく、粘性やや高い。

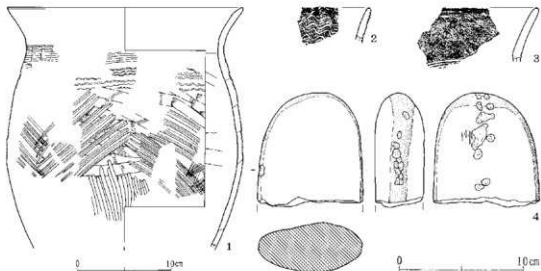
第2層：明茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、明黄褐色土粒子(～0.1mm)、同風化小塊(～4mm)を中量含む。しまり軟らかく、粘性やや高い。

第3層：暗褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、明褐色土小塊(～3cm未風化)を少量含む。しまり軟らかく、粘性やや高い。

第4層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊(5cm未風化)、暗茶褐色粒子(～0.1mm)を斑塊状に微量含む。しまりやや硬く、粘性やや高い。

第2号住居跡炉土層説明

第1層：暗褐色土層 暗褐色土を主体とし、明黄褐色小塊(～1cm)、明黄褐色粒子(～0.1mm)を少量含む。



第16図 第2号住居跡出土遺物

第2号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口径(25.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ココナテ。胴部外面瓦ナデ後下半ミガキ、内面瓦ナデ。文様は、頸部に9本歯の等間隔止櫛描簾状文、胴部上半に同一工具による櫛描波状文、中位に櫛歯状工具による縦走羽状文を施す。D.片岩、チャート。E.内外-黄褐色。F.1/3。H.床面付近。
2	甕	B.粘土組織み上げ。C.口縁部外面ナテの後櫛描波状文を施す。内面ミガキ。D.片岩、チャート。E.内外-明赤褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
3	甕	B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ココナテの後内面ミガキ。頸部に櫛描簾状文を施す。D.片岩、チャート。E.内外-明赤褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
4	磨石	A.長さ(9.0)、幅8.4、厚さ3.9、重さ413.8g。C.表裏面に磨耗痕。側縁に敲打痕。D.安山岩。F.1/2。H.床面付近。

第3号住居跡 (第17～18図、図版8-5)

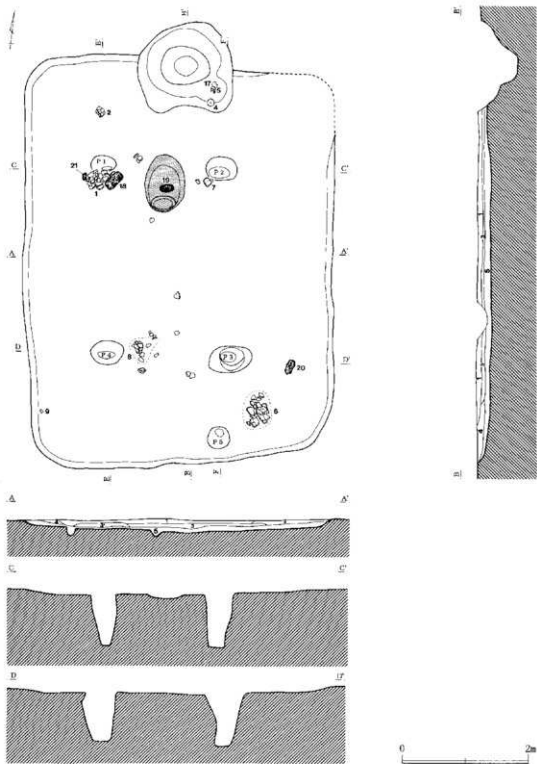
MN～8・9グリットに位置し、重複する第35号土壇と第60号土壇を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は南北方向7.30m、東西方向4.86mを測る。主軸方位は、N-5°-Wをとる。確認面から床面までの深さは、最高で23cmを測る。

炉は、住居長軸線上の北側主柱穴P1・P2間に位置する。形態は、63cm×90cmの楕円形を呈し、床面を5cm程度掘り窪めた地皿炉である。炉の南端に楕円形の小ピットがあり、中央部に縄文時代の凹石を再利用した炉石を伴う。残存する各壁下には壁溝は見られない。ピットは、住居跡内より5ヶ所検出されている。P1～P4は、その位置から主柱穴と考えられるもので、ほぼ住居の対角線上に配置されている。いずれも楕円形を呈し、深さは70cm～80cmある。P5は、直径35cmの円形を呈し、深さは65cmある。

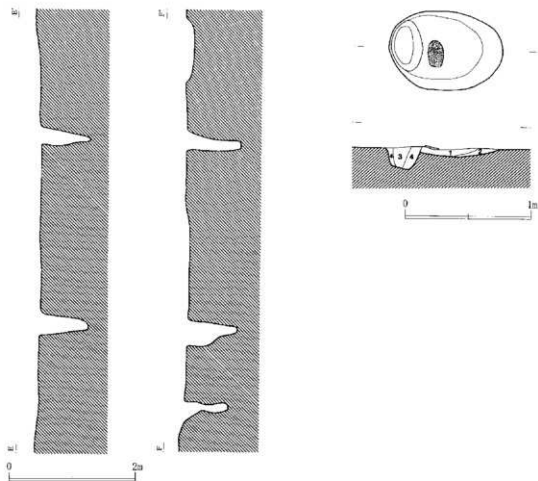
出土遺物は、土器と石器がある。土器は、弥生時代後期初頭頃のもの(No1・2・6・9・10・11・13・14)と古墳時代前期初頭以降のもの(No4・5・7・8・17)の2時期が見られるが、本住居跡に伴うのは前者の土器群で、後者の土器群は攪乱内や覆土中から出土したものが大半である。石器は、大形で板状の台石(No18)、炉石に再利用された凹石(No19)、扁平な自然石を利用した砥石(No20・21)などが出土している。

第3号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A. 底径9.8。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面瓦ナデ。底部内外面ナデ。D. 片岩、チャート。E. 外-褐色、内-黄褐色。F. 胴下半のみ。H. 床面付近。
2	鉢	A. 口径(21.2)、器高7.8。底径(7.2)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部外面ヨコナテ。体部外面瓦ナデ。底部外面ナデ。内面瓦ナテの後ミガキ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-黄褐色、内-暗赤褐色。F. 1/5。H. 床面付近。
3	甕	A. 底径(5.8)。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面瓦ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-褐色、内-赤褐色。F. 底部破片。H. 覆土。
4	器台	A. 口径(9.1)。B. 粘土紐積み上げ。C. 器受部内外面ミガキ。器部外面ミガキ、内面ナデ。D. 角四石、白色粒。E. 内外-明黄褐色。F. 1/2。H. 攪乱内。
5	台付甕	A. 底径9.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ハケ、内面ナデ。台部内外面ハケ。D. 雲母、黒色粒。E. 内外-黄褐色。F. 台部のみ。H. 攪乱内。
6	壺	A. 底径10.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面瓦ナテの後ミガキ、内面瓦ナデ。D. 片岩、チャート。E. 外-褐色、内-灰褐色。F. 胴下半のみ。H. 床面直上。
7	埴	A. 口径(12.6)、器高4.8。底径(5.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナテ。体部ナテの後部分的に瓦ケズリ、内面ナデ。底部内外面ナデ。D. 角四石、チャート。E. 内外-褐色。F. 2/3。H. 覆土。
8	壺	A. 底径7.6。B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ミガキ、内面摩滅のため観察不能。底部外面瓦ケズリ。D. 片岩、黒色粒。E. 内外-赤褐色。F. 胴下半のみ。H. 覆土。
9	甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナテ。胴部内外面瓦ナデ。文様は頸部に櫛描縞状文を施す。D. 片岩、角四石。E. 内外-灰褐色。F. 口縁部破片。H. 床面直上。
10	壺	B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面瓦ナデ。文様は頸部に9本歯の櫛描縞状文、胴部に櫛描波状文を施す。D. 黒色粒。E. 外-黄褐色、内-黄褐色。F. 破片。H. 覆土。
11	壺	B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面ナデ。文様は頸部に9本歯の櫛描縞状文を複数段施す。D. 角四石、チャート。E. 外-褐色、内-赤褐色。F. 破片。H. 覆土。
12	甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面瓦ナデ。文様は6本歯の櫛描波状文を施す。D. 黒色粒、チャート。E. 外-赤褐色、内-明赤褐色。F. 破片。H. 覆土。



第17图 第3号住居跡 (1)



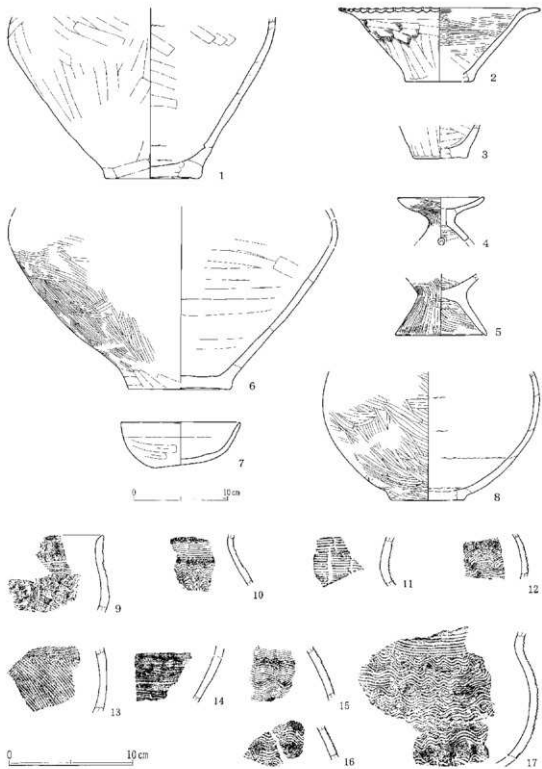
第18図 第3号住居跡(2)

第3号住居跡土層説明

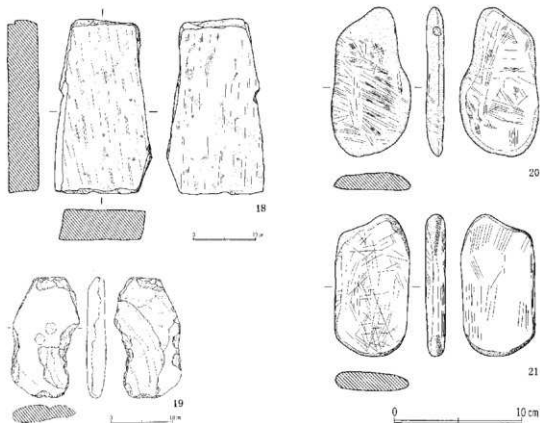
- 第1層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、明黄褐色土粒子(～0.1mm)を中量、風化小塊(～1cm)を微量含む。し
まり軟らかく粘性やや高い。
- 第2層：暗褐色土層 暗褐色土を主体とし、明黄褐色土小塊(～1cm)を微量含む。しまり軟らかく、粘性やや高い。
- 第3層：暗褐色土層 暗褐色土を主体とし、風化小塊(～3cm)を少量斑状に含む。しまり軟らかく、粘性やや高い。
- 第3'層：暗褐色土層 暗褐色土を主体とし、風化・未風化小塊(～3cm)を少量斑状に含む。しまり軟らかく、粘
性やや高い。
- 第4層：明褐色土層 暗褐色土を主体とし、明黄褐色土粒子(～0.1mm)を中量含む。しまりやや硬く、粘性やや高い。
- 第5層：明黄褐色土層 暗黄褐色土小塊(～1cm)を主とし、明黄褐色土粒子(～0.1mm)を斑塊状に含む。しまり軟ら
かく、粘性やや高い。

第3号住居跡炉土層説明

- 第1層：暗赤褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、焼土粒子(～2mm)を多量、焼土小塊(～2cm)を少量含む。しまり軟
らかく、粘性普通。
- 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、明黄褐色土粒子(～0.1mm)を中量含む。しまり軟らかく、粘性や
や高い。
- 第3層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、ローム粒子(～2mm)を少量含む。しまり軟らかく、粘性やや高い。
- 第4層：明黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、ローム小塊(～1cm)を斑状に含む。しまりやや硬く、粘性やや高い。



第19图 第3号住居跡出土遺物(1)



第20図 第3号住居跡出土遺物(2)

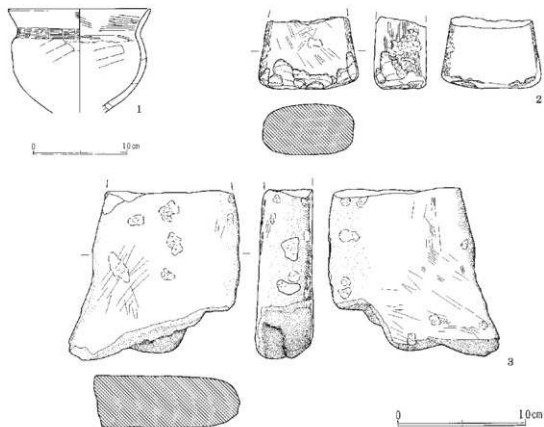
13	甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデ、内面ミガキ。文様は櫛播波状文の後、櫛歯状工具による密集した縦走羽状文を施す。D. 角閃石、チャート。E. 外-橙色、内-赤褐色。F. 破片。H. 覆土。
14	甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ハケの後ナデ、内面ナデ。D. 黒色粒、チャート。E. 外-橙色、内-黄褐色。F. 破片。H. 覆土。
15	甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面ナデ。文様は10本歯の櫛播波状文を施す。D. 角閃石、片岩。E. 外-黄褐色、内-灰褐色。F. 破片。H. 覆土。
16	甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面ナデ。文様は6本歯の櫛播波状文を施す。D. 黒色粒、チャート。E. 内外-赤褐色。F. 破片。H. 覆土。
17	甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部内外面ナデ。文様は胴部櫛播波状文の後に、頸部に8本歯の櫛播波状文を施す。D. 片岩、チャート。E. 外-明赤褐色、内-赤褐色。F. 破片。H. 覆乱内。
18	台石	A. 長さ27.8、幅15.4、厚さ4.7、重さ4340.0g。C. 板状。表裏面全体に磨耗痕。D. 結晶片岩。F. 完形。H. 床面直上。
19	凹石	A. 長さ19.2、幅10.7、厚さ2.8、重さ847.0g。C. 表面に2穴。表裏面及び側縁に調整割離(二次加工)。D. 片岩。F. 完形。G. 炉石として再利用。H. 炉内。
20	砥石	A. 長さ11.8、幅6.3、厚さ1.4、重さ136.5g。C. 表面は溝状の研ぎ面多数。裏面は磨耗により平滑。D. 砂岩。F. 完形。H. 上下端は赤く変色。H. 床面付近。
21	砥石	A. 長さ11.2、幅5.9、厚さ1.6、重さ148.4g。C. 表裏・左側縁は磨耗により平滑。両面に擦痕あり。D. 砂岩。F. 完形。H. 床面直上。

第4号住居跡 (第22図、図版8-7)

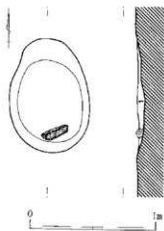
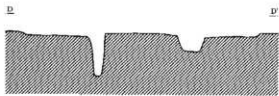
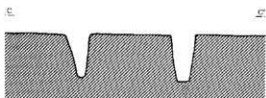
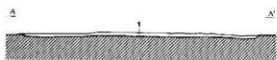
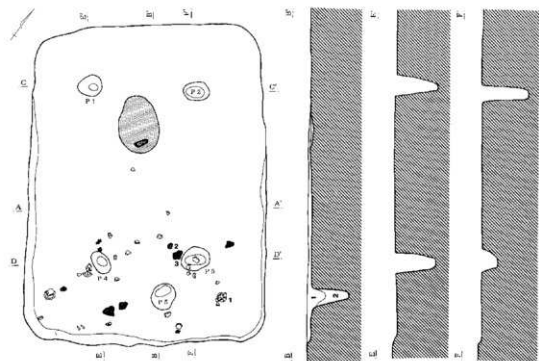
KL~10・11グリットに位置する。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は北西~南東方向5.80m、南西~北東方向3.73mを測る。主軸方位は、N-37°-Wをとる。確認面から床面からの深さは、6cm程度である。

炉は、住居長軸線上にあり、北西側支柱穴P1・P2間より内側に位置する。形態は、64cm×90cmの楕円形を呈し、床面を10cm程度掘り溜めた地皿炉である。炉の住居中央側寄りには、棒状の炉石を伴う。残存する各壁下には、壁溝は見られない。ピットは、住居跡内から5ヶ所検出されている。P1~P4は、その位置から支柱穴と考えられるもので、住居の対角線上に配置されている。いずれも長軸40cm程度の楕円形かみみの形態で、深さはP3が26cmと他に比べて極端に浅い他は、いずれも60cm~70cmある。P5は、42cm×40cmの円形かみみの形態で、深さは60cmある。

出土遺物は、少量ながら土器と石器がある。土器は、櫛歯文系の小形の台付甕(No1)が床面付近から出土しているだけである。石器は、支柱穴P3西側の床面直上から、No2の磨石(礫石)とNo3の砥石(台石)が出土している。



第21図 第4号住居跡出土遺物



第22图 第4号住居跡

第4号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層 暗褐色土を主体とし、明黄褐色土粒子(～0.1mm)・明黄褐色小塊(～1cm未風化)を少量含む。しまり軟らかく粘性やや高い。

第2層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊を主体とし、暗茶褐色土粒子を微量含む。しまり軟らかく粘性やや高い。

第4号住居跡炉土層説明

第1層：暗赤褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、焼土粒子(～2mm)を中量含む。しまり軟らかく粘性低い。

第4号住居跡出土遺物観察表

1	台付甕	A.口径(15.0)。B.粘土継積み上げ。C.口縁部外面ココナテ、内面ミガキ。胴部内外面罫ナテ。文様は、頸部に8本歯の等間隔止帯縞麻状文を施す。D.黒色粒、白色粒。E.外一褐色、内一灰褐色。F.1/3。H.床面付近。
2	磨石 (敲石)	A.長さ(5.7)、幅7.9、厚さ4.0、重さ314.0g。C.表裏両側面に磨耗痕。下端部・両側縁に敲打痕。D.安山岩。F.上部折損。H.床面直上。
3	砥石 (台石)	A.長さ(13.3)、幅13.4、厚さ4.6、重さ1056.8g。C.表裏面に磨耗により平滑。表面・右側縁に敲打痕。裏面上部に溝状の研ぎ面あり。D.砂岩。F.上部折損。H.床面直上。

第5号住居跡(第23図、図版9-1)

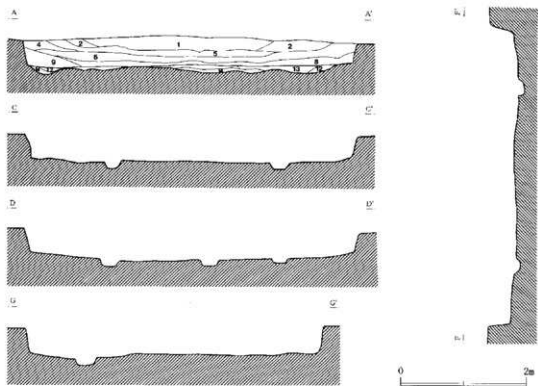
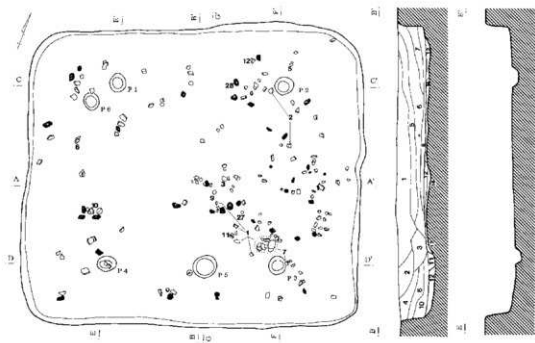
JKL～11・12グリットに位置し、重複する第41号土壌を切っている。平面形は隅丸方形を呈し、規模は南北方向4.75m、東西方向5.32mを測る。主軸方位は、N-19°-Wをとる。確認面から床面までの深さは40cm程度あり、壁は直線的に立ち上がる。

住居跡内からは、ピット以外のがや壁溝等の住居内施設は検出されなかった。ピットは、住居跡内から6ヶ所検出されている。P1～P4は、主柱穴と考えられるもので、住居のほぼ対角線上に配置されている。いずれも直径30cm程度の円形を呈し、深さは20cm前後と揃っているが、全体的に浅い。P5は、南側主柱穴P3・P4間のほぼ真中に位置する。直径38cmの円形を呈し、深さは24cmある。P6は、主柱穴P1西側のコーナー部に位置する。直径26cm程度の円形を呈し、深さは10cmある。住居床下の掘り方(第12層～第14層)は、住居中央部を浅く周辺部をやや深く掘削するドーナツ状の形態である。

出土遺物は、土器・土製品と石器があるが、これらはすべて住居跡の覆土中から出土したもので、本住居跡に直接伴うものではない。土器は、いずれも破片資料であるが壺・甕・鉢・高坏などの器種があり、東海西部系を主とする外来系と、樽式・吉ヶ谷式の系譜を引く在地系のものが見られる。土製品は、直径8cm弱の比較的大形の紡錘車(No27)が、覆土中より1点出土している。石器は、長さ11.2cmの楕円形の自然石を利用した完形の磨石(敲石No28)が、覆土中より1点出土しているだけである。

第5号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口径(16.6)。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ココナテ。胴部外面罫ナテ後一部ミガキ、内面罫ナテ。D.片岩、チャート。E.外一褐色、内一灰黄褐色。F.1/3。H.覆土。
2	鉢	A.底径4.3。B.粘土継積み上げ。C.胴部外面罫ナテの後ミガキ、内面罫ナテ。底部内面ハケの後ミガキ。D.チャート、茶褐色粒。E.内外一黄褐色。F.胴部下半のみ。H.覆土。
3	甕	A.底径(7.5)。B.粘土継積み上げ。C.外面ハケの後ナテ、内面罫ナテ。D.チャート、黒色粒。E.外一赤褐色、内一黄褐色。F.底部破片。H.覆土。

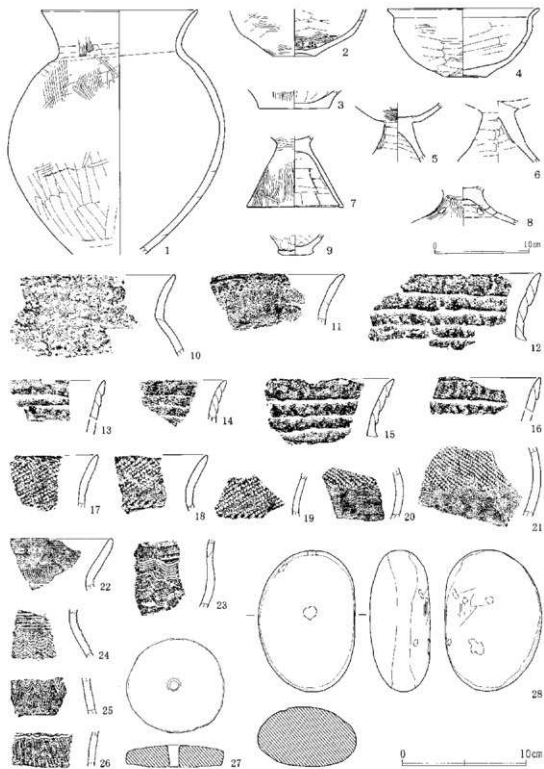


第23圖 第5号住居跡

第5号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、明茶褐色土小塊（～1cm）を層下位に斑状に混在する。しまりやや軟らかく粘性やや高い。
- 第2層：明黒褐色土層 黒褐色土・暗茶褐色土小塊（～2cm）が斑状に混在する。明黄褐色土小塊（～5mm）を微量含む。しまり軟らかく、粘性やや高い。
- 第3層：明黒褐色土層 黒褐色土・暗茶褐色土小塊（～7cm）が斑状に混在し、明黄褐色土小塊（～5mm）、同粒子（～1mm）を少量含む。しまり軟らかく、粘性やや高い。
- 第4層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、黒褐色土小塊（～1cm）が微量斑状に混在する。明黄褐色土粒子（～1mm）を少量含む。しまりやや軟らかく、粘性やや高い。
- 第5層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、黒褐色土小塊（～1cm）が少量斑状に混在する。明黄褐色土粒子（～1mm）を少量含む。しまりやや軟らかく、粘性やや高い。
- 第6層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、黒褐色土・明黄褐色土小塊（未風化～1cm）が微量斑状に混在する。明黄褐色土粒子（～1mm）を少量、焼土粒子（～2mm）を微量含む。しまりやや軟らかく、粘性高い。
- 第7層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、黒褐色土小塊（～1cm）を少量含む。明黄褐色土小塊（～5mm）、同粒子（～1mm）を微量含む。しまりやや軟らかく、粘性やや高い。
- 第8層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土・明黄褐色土小塊（風化～3cm）を主体とし、明黄褐色土小塊（未風化～5mm）を中量含む。しまりやや軟らかく、粘性高い。
- 第9層：明褐色土層 明黄褐色土（未風化～7cm）、暗茶褐色土小塊（～2cm）を主体とし、明黄褐色粒子（～3mm）を多量含む。しまり軟らかく、粘性高い。
- 第10層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、黒褐色土小塊（～1cm）が微量斑状に混在する。明黄褐色土粒子（～1mm）を微量含む。しまりやや軟らかく、粘性やや高い。
- 第11層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、黒褐色土小塊（～5mm）・明黄褐色土小塊（～1cm）を少量含む。しまりやや軟らかく、粘性やや高い。
- 第12層：明茶褐色土層 暗茶褐色土小塊（～2cm）が斑状に混在する。しまりやや硬く粘性やや高い。
- 第13層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土・黒褐色土・明黄褐色土小塊（～2cm）が斑状に混在する。しまり硬く粘性やや高い。
- 第14層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊（～1cm）を主体とし、暗茶褐色土粒子（～1mm）を微量含む。しまり硬く粘性やや高い。

4	鉢	A.口径(16.0)、器高7.3、底径4.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部外面ナテ後ミガキ、内面ナテ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一褐色。F.1/4。H.覆土。
5	高 環	B.粘土紐積み上げ。C.环部外面ミガキ、内面ナテ。脚部外面ナテ後ミガキ、内面ナテ。D.黒色粒、チャート。E.外一橙色、内一黄色。F.1/5。H.覆土。
6	高 環	B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面ナテ、内面ナテ。D.角閃石、チャート。E.内外一橙色。F.脚部のみ。H.覆土。
7	高 環	A.脚端部径10.2。B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面ミガキ、内面ナテ。D.黒色粒、チャート。E.内外一黄褐色。F.脚部のみ。H.覆土。
8	高 環	B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面ミガキ、内面ナテ。D.片岩、チャート。E.外一褐色、内一黄褐色。F.脚部のみ。G.脚部に穿孔をもつ。H.覆土。
9	小形土器	A.底径2.7。B.手捏ね。C.外面ナテの後指押さえ、内面ナテ。D.片岩、黒色粒。E.外一黄褐色、内一黄褐色。F.底部のみ。H.覆土。
10	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面厚減により観察不能。口縁部内面ヨコナテ、胴部内面ナテ。D.片岩、チャート。E.外一明赤褐色、内一褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
11	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。D.黒色粒、チャート。E.内外一黄褐色。F.破片。H.覆土。
12	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナテ、内面ミガキ。D.黒色粒、チャート。E.外一明赤褐色、内一明褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
13	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナテ、内面ミガキ。D.黒色粒、チャート。E.外一黄褐色、内一灰黄褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
14	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナテ、内面ナテ。D.黒色粒、チャート。E.外一褐色、内一灰褐色。F.口縁部破片。H.覆土。



第24图 第5号住居跡出土遺物

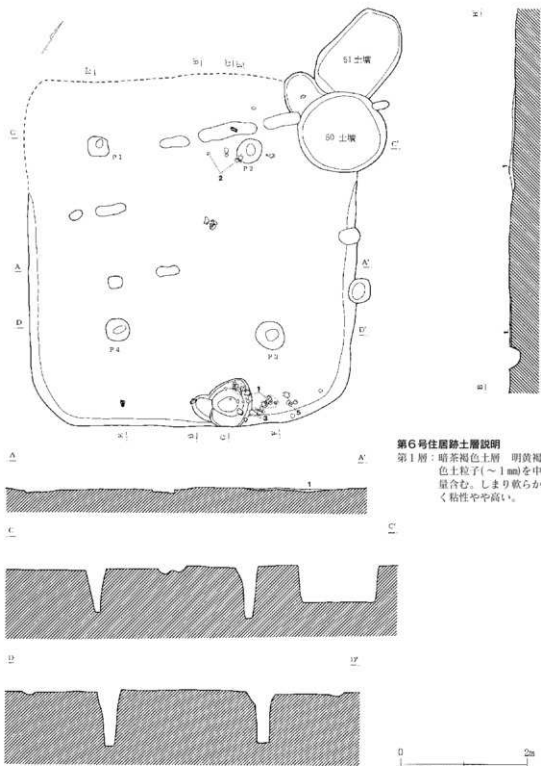
15	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。D.片岩、チャート。E.外-明赤褐色、内-褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
16	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ナデ。D.黒色粒、チャート。E.外-明赤褐色、内-褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
17	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデの後縄文(L,R)、内面ミガキ。D.黒色粒、チャート。E.内外-暗褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
18	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデの後縄文(L,R)、内面ミガキ。D.角四石、チャート。E.外-褐色、内-黄褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
19	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面ナデの後縄文(L,R)、内面ミガキ。D.黒色粒、チャート。E.内外-暗褐色。F.破片。H.覆土。H.覆土。
20	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデの後縄文(R,L)、内面ナデ。D.角四石、チャート。E.外-灰黄褐色、内-黄褐色。F.破片。H.覆土。
21	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデの後縄文(R,L)、内面ミガキ。D.黒色粒、チャート。E.内外-黄褐色。F.破片。H.覆土。
22	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ミガキ。D.黒色粒、チャート。E.外-灰褐色、内-黄褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
23	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面ナデの後飾描波状文、内面莚ナデ。D.黒色粒、チャート。E.外-明赤褐色、内-褐色。F.破片。H.覆土。
24	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面ナデの後、頸部飾描波状文と胴部飾描波状文を施す。内面ミガキ。D.角四石。E.内外-褐色。F.破片。H.覆土。
25	壺	B.粘土紐積み上げ。C.外面ハケの後飾描波状文、内面ナデ。D.黒色粒、チャート。E.内外-黄褐色。F.破片。H.覆土。
26	壺	B.粘土紐積み上げ。C.外面ハケの後飾描波状文、内面莚ナデ。D.黒色粒、チャート。E.内外-赤褐色。F.破片。H.覆土。
27	土製 紡錘車	A.直径7.9×7.5、厚さ1.7、重さ109.83g。C.全面ナデ。D.角四石、チャート。E.褐色。F.完形。H.覆土。
28	磨石 (砥石)	A.長さ11.2、幅7.7、厚さ4.7、重さ603.4g。C.全体に磨耗痕。裏面は磨耗により平滑。D.砂岩(礫岩)。F.完形。H.覆土。

第6号住居跡(第25～26図、図版9-3)

H I J～9・10・11グリッドに位置し、重複する第50号土壇と第51号土壇を切っている。平面形は隅丸方形を呈するものと思われ、規模は南北方向5.61m、東西方向5.20mを測る。主軸方位は、N-31°-Wをとる。確認面から床面までの深さは、最高で4cm程度である。住居の北側はすでに削平されており、遺構の遺存状態は極めて悪い。

炉・壁溝などピット以外の住居内施設は検出されなかった。ピットは、攪乱によるものが多く見られるが、本住居跡に伴うものはP1～P4と貯蔵穴の5ヶ所だけである。P1～P4は、その位置関係から支柱穴と考えられるもので、住居のほぼ対角線上に配置されている。長さ30cm～40cmの隅丸方形や円形の形態を呈し、深さは70cm～90cmある。貯蔵穴は、住居南側壁下の中央からやや東側寄りの位置にある。93cm×76cmのやや規模の大きな楕円形ぎみの形態を呈し、深さは28cmで二段に深くなっている。

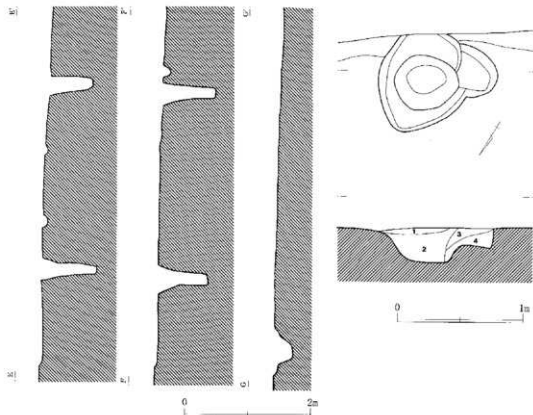
出土遺物は、少量ながら床面上より土器が出土している。甕が主体であるが、ナデ調整甕(No2)の他に口縁部に輪積装飾を持つ甕(No1)や縄文施文の甕(No5)など、いわゆる吉ヶ谷式系の甕などが見られる。



第6号住居跡土層説明

第1層：暗茶褐色土層 明黄褐色土粒子(～1mm)を中量含む。しまり軟らかく粘性やや高い。

第25図 第6号住居跡(1)



第26図 第6号住居跡(2)

第6号住居跡貯蔵穴土層説明

第1層：暗茶褐色土層 煖土粒子(～1cm)を中量含む。しまりやや軟らかく粘性やや高い。

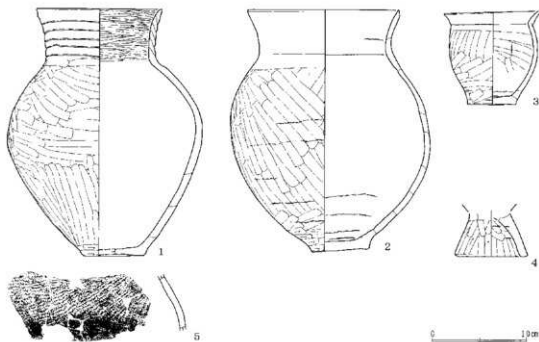
第2層：暗茶褐色土層 煖土粒子(～0.5mm)を少量含む。しまり軟らかく粘性やや高い。

第3層：明茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、明黄褐色土粒(～5mm)を中量含む。しまり軟らかく粘性やや高い。

第4層：明茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、明黄褐色土小塊(～1cm)、同小粒(～5mm)を中量含む。しまりやや軟らかく粘性やや高い。

第6号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口径(13.1)、器高26.0、底径(6.1)。B.粘土紐積み。C.口縁部内外面ヨコナデ。口縁部外面ナデ、内面ミガキ。胴部外面窠ナデ後下端ケズリ、内面窠ナデ。底部外面窠ケズリ、内面ナデ。D.角閃石、チャート。E.内外-赤褐色。F.2/3。G.口縁部～頸部に5段の輪積み装飾。H.床面直上。
2	甕	A.口径16.1、器高26.0、底径6.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面窠ナデ後下端ケズリ、内面窠ナデ。底部外面窠ケズリ、内面窠ナデ。D.片岩、チャート。E.外-暗褐色、内-灰褐色。F.2/3。H.床面直上。
3	小形甕	A.口径(10.1)、器高10.0、底径5.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部及び底部内外面窠ナデ。D.赤褐色粒、チャート。E.外-橙色、内-灰褐色。F.3/4。H.床面直上。
4	台付甕	A.台端部径(7.7)。B.粘土紐積み上げ。C.台部外面窠ケズリの後上半ナデ、内面窠ナデ。D.黒色粒、チャート。E.外-黄色、内-黄褐色。F.台部のみ。H.覆土。
5	甕	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面縄文(LR)施文後下半ミガキ、内面ミガキ。E.内外-暗灰黄色。F.胴部破片。H.床面直上。



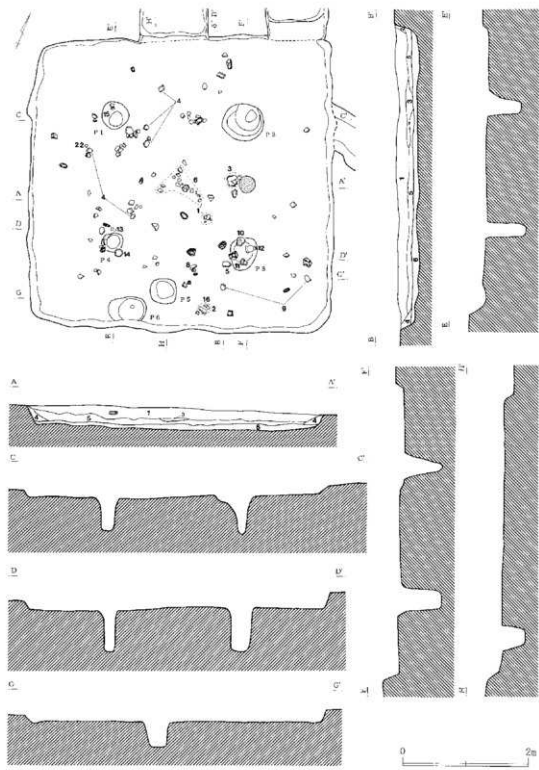
第27図 第6号住居跡出土遺物

第7号住居跡 (第28図、図版9-5)

GH～11・12グリットに位置し、重複する第54号土壌を切っている。平面形は隅丸方形を呈し、規模は北西～南東方向4.71m、南西～北東方向4.83mを測る。主軸方位は、N-24°-Wをとる。確認面から住居床面までの深さは28cmある。

炉は、住居の主軸線上ではなく、それと直交する副軸線上の主柱穴P2・P3間に位置する。形態は、床面が焼けているだけの地床炉で、直径26cmの円形を呈している。各壁下には壁溝は見られない。ピットは、住居跡内より6ヶ所検出されている。P1～P4が主柱穴で、住居跡の対角線上に配置されている。直径30cm～60cmの円形ぎみの形態で、深さは50cm～70cmある。P5は、住居南東側壁の壁寄りに位置する。42cm×40cmの隅丸方形ぎみの形態で、深さは40cmある。P6は、住居南東側壁下の中央からやや南側寄りに位置する。形態は60cm×38cmの楕円形を呈し、深さは34cmある。その位置や形態から見て、P6は貯蔵穴と思われる。住居床下の掘り方(第6層)は、床下全体を5cm～10cm程度掘り窪める形態で、凹凸が顕著である。

出土遺物は、土器と石器があるが、これらはすべて住居跡の覆土中から出土したもので、本住居跡に直接伴うものはない。土器は、いずれも覆土中から出土した破片資料であるが、壺・甕・器台・塊などの器種がある。このうち甕は、平底と台付があり、平底甕には口縁部に輪積み装飾を残すものや外面に縄文を施すいわゆる吉ヶ谷式系のもも見られる。器台(No13)は、大形の高環形のもので、口縁部にやや大きな円孔を施したものである。石器は、縄文時代の磨製石斧(No21)と塊状耳飾(No22)の破片が覆土中から出土している。塊状耳飾の破片には、補修孔の可能性もある穿孔が見られるが、破片の形状からするとあるいは勾玉などの垂飾品に再利用した可能性も窺える。



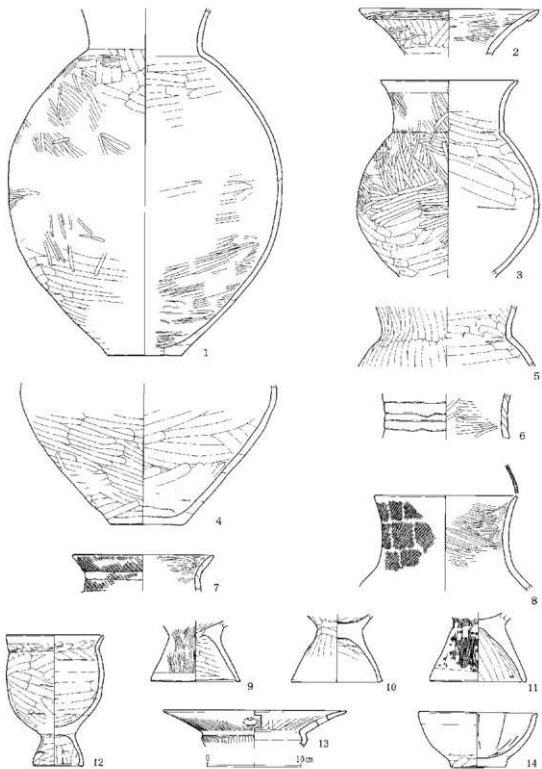
第28图 第7号住居跡

第7号住居跡土層説明

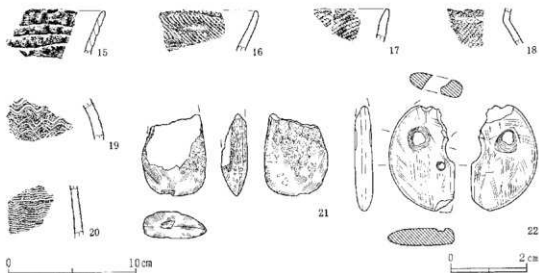
- 第1層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、暗褐色土粒子(～1mm)・明黄褐色土粒子(～1mm)を少量含む。しまりやや軟らかく粘性やや高い。
- 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、明黄褐色土粒子(～2mm)を中量、同小塊(～1cm)を少量含む。しまりやや軟らかく粘性やや高い。
- 第3層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、明黄褐色土粒子(～1mm)を少量、焼土粒子(～2mm)を中量含む。しまりやや軟らかく粘性やや高い。
- 第4層：明黄褐色土層 明黄褐色土粒子(～0.1mm)を主体とし、暗茶褐色土小塊(～1cm)を斑状に含む。しまりやや軟らかく粘性やや高い。
- 第5層：暗茶褐色土層 第3層に準ずる。焼土粒子を含まない。しまりやや軟らかく粘性やや高い。
- 第6層：暗黄褐色土層 明黄褐色土小塊・明黄褐色土粒子を多量含む。しまり硬く粘性やや高い。

第7号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A.底径7.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ナデの後ミガキ。内面篋ナデの後下半ミガキ。D.黒色粒、チャート。E.外-赤褐色、内-褐色。F.1/4。G.器形は岡上復元による。H.覆土。
2	壺	A.口径(18.9)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ナデの後ミガキ。D.片岩、チャート。E.内外-橙色。F.口縁部1/4。H.覆土。
3	甕	A.口径(14.5)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。頸部外面篋ナデの後ミガキ。内面篋ナデ。胴部外面篋ナデの後、上半ミガキ・下半篋ズリ。内面篋ナデ。D.片岩、チャート。E.内外-黄褐色。F.1/3。H.覆土。
4	壺	A.底径7.8。B.粘土紐積み上げ。C.胴部内外面篋ナデ。底部外面篋ズリ。内面ナデ。D.角閃石、チャート。E.外-黄褐色、内-黄褐色。F.胴部下半のみ。H.覆土。
5	甕	B.粘土紐積み上げ。C.内外面篋ナデ。D.片岩、チャート。E.内外-赤褐色。F.1/3。H.覆土。
6	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ミガキ。D.片岩、チャート。E.外-明赤褐色、内-橙色。F.1/4。H.覆土。
7	甕	A.口径(14.8)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデの後単節縄文(R/L)、内面ミガキ。D.黒色粒、チャート。E.内外-灰黄褐色。F.口縁部1/4。H.覆土。
8	甕	A.口径(15.2)。B.粘土紐積み上げ。C.外面及び口唇部ナデの後単節縄文(R/L)、内面ミガキ。D.チャート。E.外-灰褐色、内-黒褐色。F.口縁部1/3。H.覆土。
9	台付甕	A.台端部径(9.5)。B.粘土紐積み上げ。C.台部外面ハケ、内面篋ナデ。台端部内外面ヨコナデ。D.片岩、チャート。E.外-黄褐色、内-明赤褐色。F.台部のみ。H.覆土。
10	台付甕	A.台端部径9.6。B.粘土紐積み上げ。C.台部内外面篋ナデ。D.黒色粒、チャート。E.外-赤褐色、内-明赤褐色。F.台部のみ。H.覆土。
11	台付甕	A.台端部径(9.5)。B.粘土紐積み上げ。C.台部内外面ハケの後内面篋ナデ。台端部内外面ヨコナデ。D.角閃石、チャート。E.内外-黄褐色。F.台部のみ。H.覆土。
12	台付甕	A.口径10.3、器高13.9、台端部径5.3。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部及び台部内外面篋ナデ。D.片岩、チャート。E.外-淡黄色、内-黄褐色。F.完形。H.覆土。
13	器台	A.口径(19.2)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ミガキ、内面篋ナデ後ヨコナデ。器受部外面ミガキ、内面篋ナデ。D.黒色粒、チャート。E.外-暗褐色、内-灰黄褐色。F.口縁部1/4。H.覆土。
14	埴	A.口径12.5、器高5.9、底径5.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、体部外面ナデ。内面篋ナデ。底部外面篋ズリ。D.黒色粒、チャート。E.内外-橙色。F.ほぼ完形。H.覆土。
15	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデ、内面ミガキ。D.黒色粒、チャート。E.外-褐色、内-暗褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
16	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面及び口唇部無節縄文(R)、内面篋ナデ。D.黒色粒、チャート。E.内外-暗赤褐色。F.口縁部破片。H.覆土。



第29图 第7号住居跡出土遺物(1)



第30図 第7号住居跡出土遺物(2)

17	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面単節縄文(L,R)、内面ナデ。D.白色粒、チャート。E.外一橙色、内一暗橙色。F.口縁部破片。H.覆土。
18	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面単節縄文(L,R)、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一橙色。F.破片。H.覆土。
19	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面ナデの後縁描波状文、内面ナデ。D.黒色粒、片岩。E.内外一暗赤褐色。F.破片。H.覆土。
20	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面ナデの後縁描波状文、内面隠ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一赤褐色、内一暗褐色。F.破片。H.覆土。
21	磨製石片	A.残存長6.4、幅5.0、厚さ2.1、重さ95.29g。C.刃部・両側縁に研磨痕。D.緑色岩類。F.1/2。H.覆土。
22	塊状耳飾	A.残存長2.8、残存幅1.7、厚さ0.4、重さ3.58g。C.表裏面とも丁寧な研磨。両面穿孔による補修孔あり。D.滑石。F.1/2。H.覆土。

第8号住居跡(第31～32図、図版9～7)

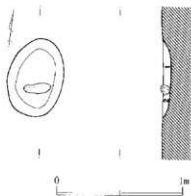
J K～13・14・15グリットに位置し、重複する第1号溝跡に切られている。調査区内で検出されたのは住居跡の北西側半分だけであるため、本住居跡の全容は不明である。規模は、東西方向が5.60mまで、南北方向が5.20mまで測れる。主軸方位は、N-4°-Wをとる。確認面から住居跡床面までの深さは26cmある。

炉は、おそらく住居長軸線上にあり、北側主柱穴のP1・P2間に位置する。床面を6cm程度掘り窪めた地皿炉で、平面形は46cm×60cmの楕円形を呈している。炉の住居中央側寄りには、長さ25cm位の棒状の片岩を使用した炉石を伴う。検出された各壁下には、壁溝は見られない。ピットは、P1とP2の2ヶ所が検出されている。P1とP2は、その位置や形態から本住居跡の主柱穴の一部と考えられる。形態は、P1が55cm×43cm、P2が48cm×28cmのいずれも楕円形を呈し、深さはそれぞれ64cmと54cmある。

出土遺物は、比較的少なく、覆土中から土器の破片が少量出土しただけである。



第31圖 第8号住居跡



第32図 第8号住居跡炉

第8号住居跡土層説明

- 第1層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、暗茶褐色土小塊(～1cm)を小斑状、明黄褐色土小塊(～3cm風化)を微量含む。しまりやや軟らかく粘性やや高い。
- 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、煖土粒子(～1mm)を少量含む。しまり軟らかく粘性低い。
- 第3層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、明黄褐色土小塊(～5mm風化・未風化)、同粒子(～1mm)を少量含む。しまりやや軟らかく粘性やや高い。
- 第4層：明茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、明黄褐色土小塊(～2cm)、同粒子(～5mm)を中量含む。しまり軟らかく粘性高い。

第8号住居跡炉土層説明

- 第1層：黒褐色土層 煖土粒子(～0.1mm)を中量含む。しまり軟らかく粘性普通。
- 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、黒褐色土・煖土粒子(～0.1mm)を少量含む。しまり軟らかく粘性低い。



第33図 第8号住居跡出土遺物

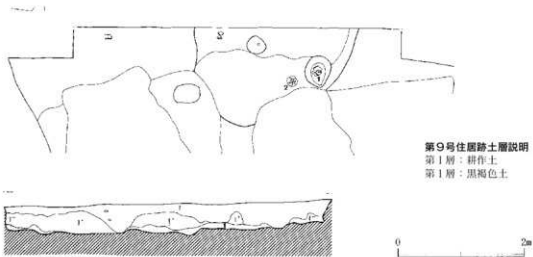
第8号住居跡出土遺物観察表

1	高 坏	A. 脚端部径(8.4)。B. 粘土紐積み上げ。C. 脚部内外面瓦ナデ。D. 角閃石。E. 外-黄褐色、内-赤褐色。F. 脚部のみ。H. 覆土。
2	甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面6本歯の等間隔止帯縞縞状文の後、同一工具による縞波状文を施す。内面瓦ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 外-暗褐色、内-明黄褐色。F. 破片。H. 覆土。
3	甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面木口状工具によるナデの後、櫛歯状工具による斜行文を施す。胴部内面瓦ナデ。D. 黒色粒、チャート。E. 外-明赤褐色、内-黄褐色。F. 破片。H. 覆土。
4	甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデの後縄文(LR)施文、内面ミガキ。D. 黒色粒、片岩。E. 外-赤褐色、内-暗赤褐色。F. 破片。H. 覆土。
5	甕	B. 粘土紐積み上げ。C. 胴部外面ナデの後縄文(LR)施文、内面瓦ナデ。D. 片岩、チャート。E. 外-灰黄褐色、内-暗褐色。F. 破片。H. 覆土。

第9号住居跡 (第34図、図版10-1)

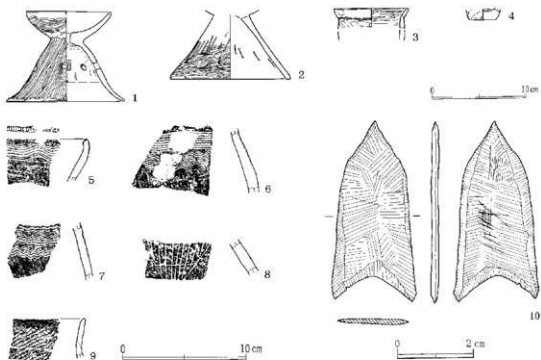
D～13グリットに位置する。調査区内で検出されたのは、住居跡のこく一部だけであり、また西側の大半を掘乱土壌に切られているため、本住居跡の全容は不明である。規模は、東西方向は1.60mまで、南北方向は2.30mまで測れる。

炉・壁溝等の住居内施設は検出されていない。ピットは、壁際から1箇所検出されている。形態は、50cm×42cmの隅丸方形きみで、深さは22cmある。中からはNo 1の器台が正位で出土している。



第34図 第9号住居跡

出土遺物は、土器と石器があるが、その出土状態から本住居跡に伴うと考えられるのは、古墳時代前期の器台(No1)と高坏(No2)だけである。石器は、完形の磨製石鏃(No10)が1点あるが、覆土中からの出土である。



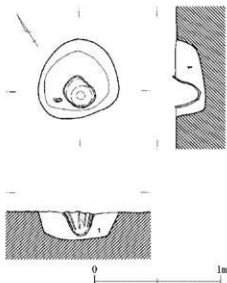
第35図 第9号住居跡出土遺物

第9号住居跡出土遺物観察表

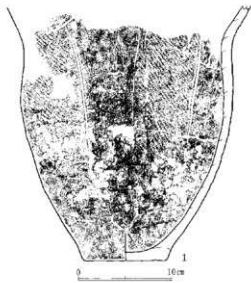
1	器台	A.口径8.8、器高9.7、脚端部径12.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナデの後ミガキ、内面ナデ。脚部外面ミガキ、内面ナデ。脚端部ヨコナデ。D.片岩、チャート。E.外-黄褐色、内-黄褐色。F.2/3。H.ピット内。
2	高坏	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ミガキ、内面鏡ナデ。D.雲母、チャート。E.内外-灰黄褐色。F.脚部のみ。H.床面付近。
3	小形甕	A.口径(7.9)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナデ、内面ミガキ。胴部外面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外-黄褐色、内-黄色。F.口縁部破片。H.覆土。
4	小形土器	A.底径2.7。B.手捏ね。C.胴部内外面ナデ。底部内外面ナデ。D.白色粒、角閃石。E.内外-赤褐色。F.底部のみ。H.覆土。
5	壺	B.粘土紐積み上げ。C.口唇部キサミ。口縁部外面ヨコナデの後6本歯の櫛描波状文を施す。内面鏡ナデの後ミガキ。D.白色粒。E.外-黄褐色、内-黒褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
6	甕	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ハケの後施文部外ミガキ、内面鏡ナデの後ミガキ。文様は、頸部に8本歯の櫛描波状文、その下に同一工具による櫛描波状文を1帯施す。D.角閃石、チャート。E.外-灰黄褐色、内-黄褐色。F.胴部破片。H.覆土。
7	甕	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ハケ、内面ナデ。文様は、5本歯の櫛描波状文を施す。D.角閃石、チャート。E.内外-黄褐色。F.胴部破片。H.覆土。
8	壺	B.粘土紐積み上げ。C.外面鏡描鋸歯文、内面ナデ。D.黒色粒、チャート。E.内外-明黄褐色。F.胴部破片。G.外面赤色塗彩。H.覆土。
9	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口唇部内外面ヨコナデ。外面縄文(LR)施文、内面ナデ。D.角閃石、チャート。E.内外-明褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
10	磨製石鏝	A.長さ4.8、幅2.3、厚さ0.2、重さ2.12g。C.表裏面とも研磨。D.粘板岩。F.完形。H.覆土。

第10号住居跡 (第38図、図版10-3)

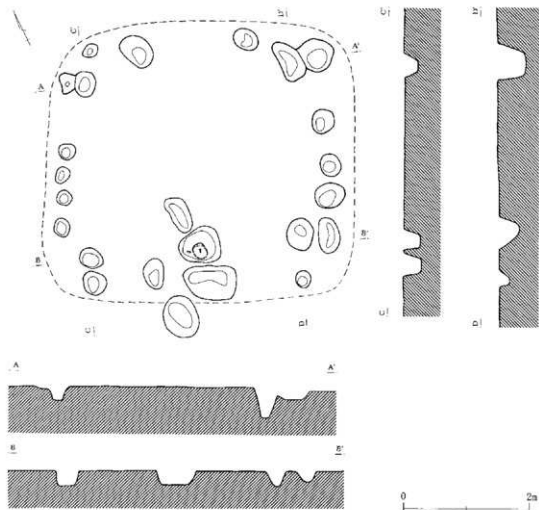
N・O・P～4・5グリットに位置する。本住居跡は、すでに掘平されており、住居の壁柱穴と推測されるピット群の配列や埋裏の存在によって、住居跡と推測されたものである。平面形は、壁



第36図 第10号住居跡埋裏出土状態



第37図 第10号住居跡出土遺物



第38図 第10号住居跡

第10号住居跡出土遺物観察表

1	深鉢	A. 底径8.4. B. 粘土組織み上げ. C. 外面は棒状工具による縦位の単沈線。沈線間は交互に無文と単節縄文(L,R)を施す。D. 石英、チャート、黒色鉱物。E. 内外一暗赤褐色。F. 口縁部欠損。H. 埋喪。
---	----	---

柱穴と推測されるピット群の配列から、隅丸方形ぎみの形態であったものと思われる。規模は、東西・南北方向とも5m程度と推測される。炉や壁溝等の住居内施設は検出されていない。

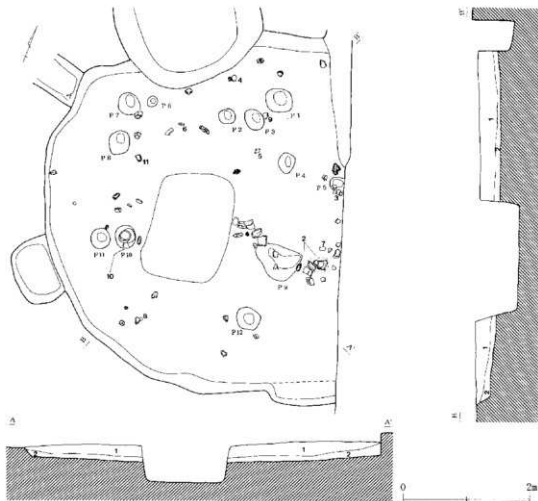
埋喪は、住居の南側に位置する。おそらく住居の南側壁際の中央付近にあたると思われるため、入口部の施設と関係するものであろう。形態は、長さ70cm程度の不整円形を呈する土塊状の掘り込みに、深鉢(No 1)が正位に埋められたものである。

出土遺物は、埋喪として埋設されたNo 1の深鉢だけである。

第11号住居跡 (第39図、図版10-5)

G・H～13・14グリットに位置し、重複する第6号土壇や攪乱土壇によって住居跡の一部を切られている。調査区内で検出されたのは、住居跡の西側半分だけであるため、遺構の全容は不明である。平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、円形か楕円形ぎみの形態と思われる。規模は、南北方向5.80m・東西方向は4.70mまで測れる。確認面から住居床面までの深さは、32cmある。

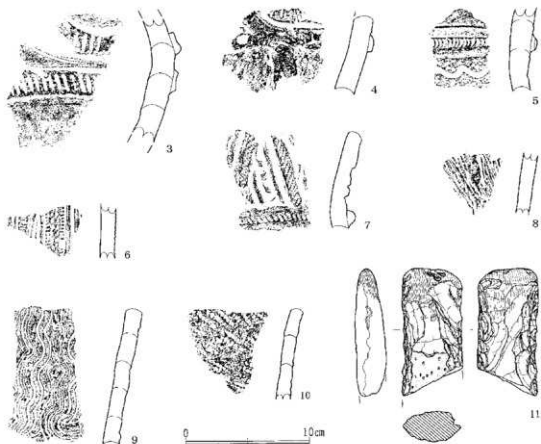
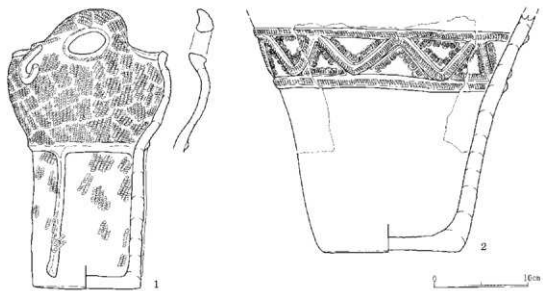
調査区内では、炉や壁溝等の施設は検出されなかった。ピットは、住居跡内からP1～P12の12ヶ所が検出されているが、主柱穴等の住居の上屋構造と関係するピットの配列は明確ではない。



第39図 第11号住居跡

第11号住居跡土層説明

第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主とし、明黄褐色土粒子(～2mm)を少量含む。しまり硬く粘性普通。
 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主とし、明黄褐色土小塊(～2cm)を中量含む。しまり硬く粘性普通。



第40图 第11号住居跡出土遺物

P9以外は、いずれも直径30cm～40cm程度の円形ぎみの形態で、深さも20cm～30cm程度のものが主体である。

出土遺物は、土器と石器があるが、そのほとんどは覆土中から出土した破片資料である。本住居跡に確実に伴う遺物は、P12内から出土した埋甕の深鉢(No1)だけである。

第11号住居跡出土遺物観察表

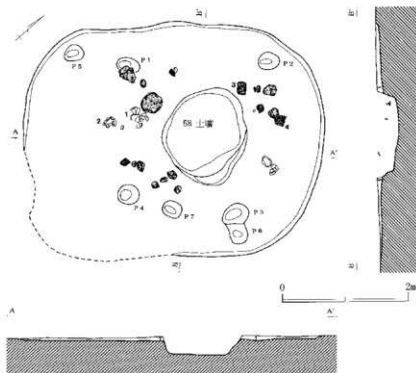
1	深鉢	A.口径16.3、器高29.6、底径11.3。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部に環状把手。把手からは腕手状の隆帯が張生する。口縁部と胴部を横位隆帯により画す。胴部は垂下隆帯により4分割される。単節縄文(R.L)を全面に施文。D.片岩、チャート。E.赤褐色。F.完形。H.P10内。
2	深鉢	A.底径14.0。B.粘土紐積み上げ。C.胴部は連続爪形文を有する横位・波状の隆帯により三角形の交互配列で区画。区画内には単沈線・連華文が施される。D.片岩、チャート、黒色鉱物。E.内外一明赤褐色。F.1/3。H.覆土。
3	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.キザミの施された横位隆帯及び弧状の隆帯で区画。隆帯脇に単沈線。弧状隆帯の区画内には単節縄文(L.R)を施す。D.石英、片岩、チャート、黒色鉱物。E.内外一赤褐色。F.破片。H.覆土。
4	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.横位・縦位・弧状の隆帯で区画。弧状隆帯の区画内には隆帯脇に単沈線及び縦位の単沈線。D.片岩、チャート、黒色鉱物。E.内外一赤褐色。F.破片。H.覆土。
5	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.連続爪形文の施された横位隆帯及び隆帯脇の単沈線で文様帯区画。D.片岩、チャート、黒色鉱物。E.内外一赤褐色。F.破片。H.覆土。
6	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.連続爪形文の施された縦位隆帯一半径竹管状工具による平行沈線→平行沈線間に棒状工具による縦位の連続刺突→縦位の連続爪形文。D.石英、片岩、チャート、黒色鉱物。E.内外一明赤褐色。F.破片。H.覆土。
7	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(R.L)が施された隆帯で区画。区画内には半径竹管状工具による平行沈線を施す。部分的に平行沈線施文後に交互刺突を施す。D.チャート、黒色鉱物。E.内外一灰褐色。F.破片。H.覆土。
8	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.櫛歯状工具による縦位の条線→縦位の隆帯。D.片岩、チャート、黒色鉱物。E.内外一暗黄褐色。F.破片。H.覆土。
9	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.蛇行する縦位の単沈線→蛇行する縦位の櫛歯状工具による条線。D.チャート、片岩。E.内外一暗赤褐色。F.破片。H.覆土。
10	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(R.L)を横位施文。D.チャート、片岩、黒色鉱物。E.内外一褐色。F.破片。H.覆土。
11	打製石斧	A.残存長(10.1)、幅4.8、厚さ2.5、重さ151.5g。C.直接打撃による両面調整。左側縁の一部に敲打痕。基部周辺に顕著な磨耗痕。片面に自然面を残す。D.ひん岩。F.刃部折損。H.覆土。

第12号住居跡(第41図、図版10-7)

R・S～2・3グリットに位置し、重複する第58号土壌に住居跡の中央部を切られている。平面形は、壁の丸みが強い隅丸長方形ぎみの形態を呈している。規模は、北西～南東方向は3.68m、北東～南西方向は4.71mを測る。住居跡の長軸方向は、N-43°-Wをとる。確認面から住居床面までの深さは7cm程度であり、住居跡の南側コーナー部付近は掘平されている。

炉や壁溝などの住居内施設は検出されなかった。ピットは、住居跡内から7ヶ所検出されているが、住居の上層構造と関係する主柱穴等の配列は明確ではない。いずれも30cm～40cmの円形か楕円形ぎみの形態を呈している。深さは、P4・P6・P7が10cm代で、他はすべて20cm代である。

出土遺物は、土器と石器がある。これらはいずれも住居の床面近くから出土しており、本住居跡に伴うものと考えられる。土器は、深鉢が2個体(No1・2)ある。いずれもある程度原形を保って、



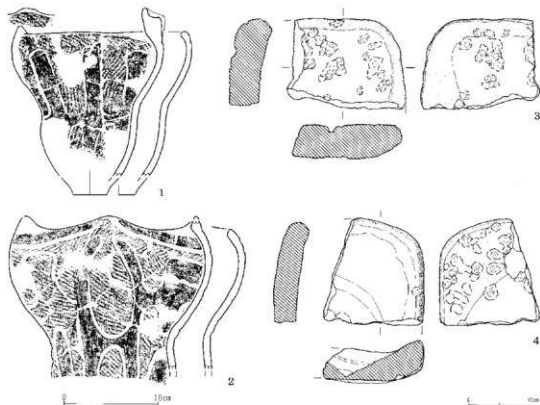
第12号住居跡土層説明
 第1層：暗茶褐色土層
 YPを多量に、炭化物粒を微量含み、ローム風化土を若干混入する。しまり強く粘性は弱い。

第41図 第12号住居跡

横転した状態で床面上から出土している。石器は、石皿の破片が2個床面上から出土している。この他では、住居跡中央部の床面上から、比較的大きな自然石が多く出土している。

第12号住居跡出土遺物観察表

1	深鉢	A.口径14.7、器高19.8、底径(3.6)。B.粘土細積み上げ。C.外面単節縄文(RL)横位施文一蛇行する横位単沈線→交互に磨消を上下2段に行う。内面丁寧なミガキ。円筒状把手は表面に一部単節縄文(RL)を施す。D.石英、チャート、片岩、黒色鉱物。E.黄褐色。F.2/3。H.床面直上。
2	深鉢	A.口径(18.0)。B.粘土細積み上げ。C.口縁部は横位の単沈線で区画される。体部には単節縄文(LR)を横位・縦位に施文→単沈線でU字状、逆U字状に区画し、区画内は磨消。内面丁寧なミガキ。D.石英、チャート、片岩、黒色鉱物。E.黄褐色。F.1/3。H.床面付近。
3	石皿	A.残存長(14.6)、残存幅(19.2)、厚さ6.8、重さ1958.8g。C.表裏面に凹穴多数。表裏面は摩滅により平滑。D.安山岩。F.破片。H.床面直上。
4	石皿	A.残存長(17.2)、残存幅(16.1)、厚さ6.8、重さ1433.2g。C.表面は顕著な摩滅痕。裏面は凹穴多数。右側面に被熱痕。D.砂岩。F.破片。H.床面付近。



第42図 第12号住居跡出土遺物

2. 土器埋設遺構

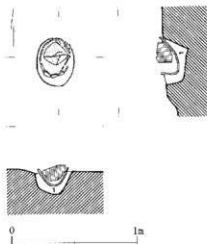
第1号土器埋設遺構 (第44図)

調査区北西端のH・1～2グリッドに位置する。単体の深鉢が埋設されたもので、平面形が楕円形を呈するピット状の掘り込みを伴う。ピット状の掘り込みの規模は、長さ38cm・幅29cm・深さ18cmであるが、上半部はすでに削平されている。

埋設土器は、30cm以上の中形品で、ピットの底面より若干浮いた状態で、北側に傾けて斜位に据えられている。土器の中からは、長さ16cm・幅16cmで厚さ10cmの自然石が1個出土している。この石は、その出土状態から見て、もともと土器の中に入れていたものか明確ではなく、あるいは蓋か埋設土器の指標として使用されていたものが、土器の陥没により中に入った可能性もある。



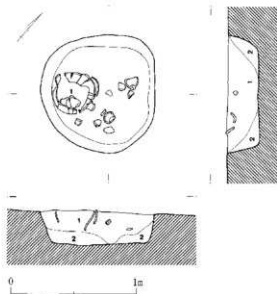
第43図 第1号土器埋設遺構出土土器



第44図 第1号土器埋設遺構

第1号土器埋設遺構土層説明

第1層：暗茶褐色土層 明黄褐色土小塊(～1cm)を微量、同粒子(～0.1mm)を中量含む。しまり硬く粘性やや高い。



第45図 第2号土器埋設遺構

第2号土器埋設遺構土層説明

第1層：暗茶褐色土層 明黄褐色土小塊(～5mm)を微量、同粒子(～1mm)を少量含む。しまり硬く粘性低い。
第2層：暗茶褐色土層 明黄褐色土小塊(～2cm)を少量、同粒子(～1mm)を中量含む。しまり硬く粘性低い。

第1号土器埋設遺構出土遺物観察表

1	深 鉢	A.底径8.3。B.粘土紐積み上げ。C.棒状工具による斜位の単沈線で器面状に区画し、区画内には単節縄文(L,R)を充填。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.褐色。F.2/3。
---	-----	--

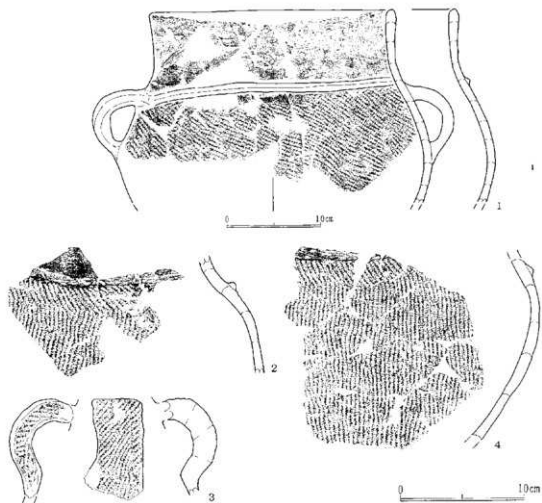
第2号土器埋設遺構 (第45図)

調査区西側のM～3グリットに位置する。平面形が90cm×93cmの不整円形を呈する土壌で、確認面からの深さは25cmある。底面は、広く平坦である。

埋設土器は、土壌南西側の底面より10cmほど浮いた位置で、No1の両耳壺が口縁を下にした状態で逆位に埋設されて出土している。この他、土壌の覆土中からは、No1とは別個体の両耳壺の破片も多く出土しており、最低でも2個体以上の両耳壺が土壌内にあったものと推測される。

第2号土器埋設遺構出土遺物観察表

1	鉢	A.口径25.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部と胴部は横位隆帯により区画。把手と胴部は単節縄文(L,R)を横位施文。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗褐色。F.1/3。
2	鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部と胴部は横位隆帯により区画。胴部はO段多条R L縄文を横位施文。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。G.No3・4と同一個体。
3	鉢	B.粘土紐貼り付け。C.外面にO段多条R L縄文を横位施文。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.把手破片。G.No2・4と同一個体。
4	鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部と胴部は横位隆帯により区画。胴部はO段多条R L縄文を横位施文。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。G.No2・3と同一個体。



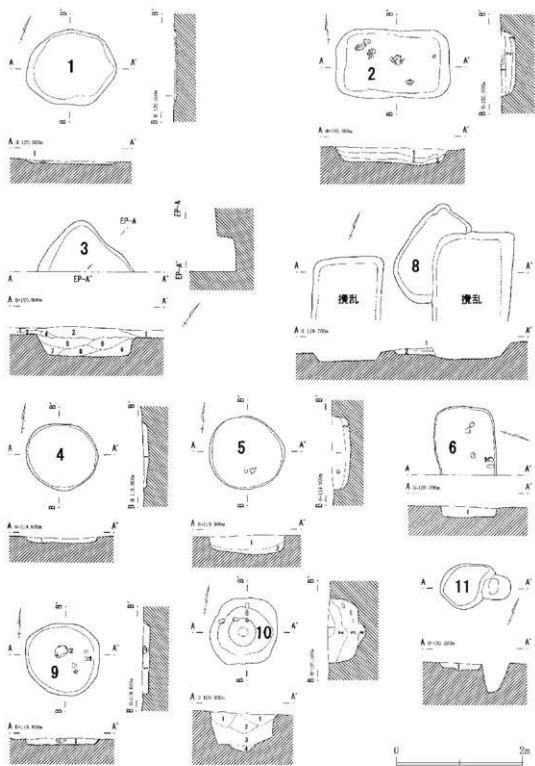
第46図 第2号土器埋設遺構出土遺物

3. 土 壙

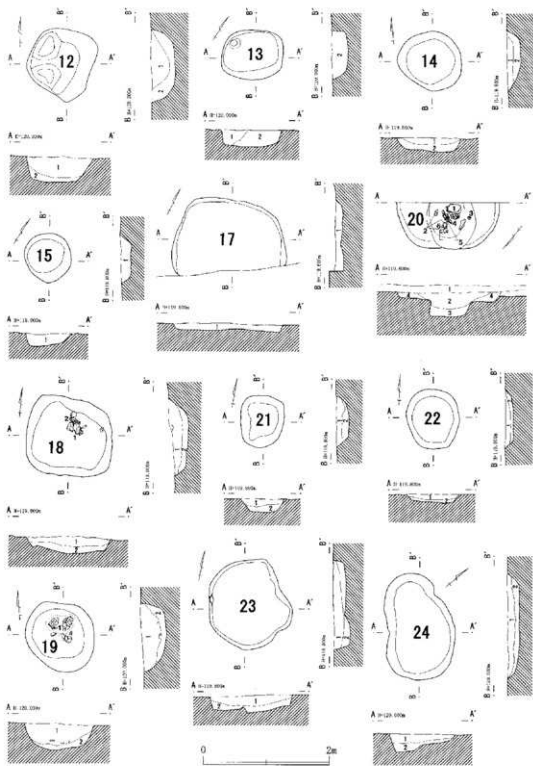
(単位: cm)

土器番号	形 態	規 模	深 さ	時 期	出 土 遺 物	備 考
1	不 整 円 形	144×120	4	縄文中期	土器片少量	
2	隅丸長方形	180×104	26	"	土器片少量	
3	(隅丸長方形)	110×(70)	36	"	磨製・打製石斧	
4	円 形	116×106	9	"	土器片少量	
5	円 形	120×119	30	不 明		
6	(隅丸長方形)	(110)×90	18	縄文中期	土器片少量	13住を切る
7						欠番
8	(隅丸長方形)	153×(90)	12	不 明		
9	不 整 円 形	118×114	10	縄文中期	土器片・凹石	
10	不 整 円 形	106×104	66	不 明		
11	不 整 形	74×(68)	44	"		
12	不 整 方 形	116×106	42	"		

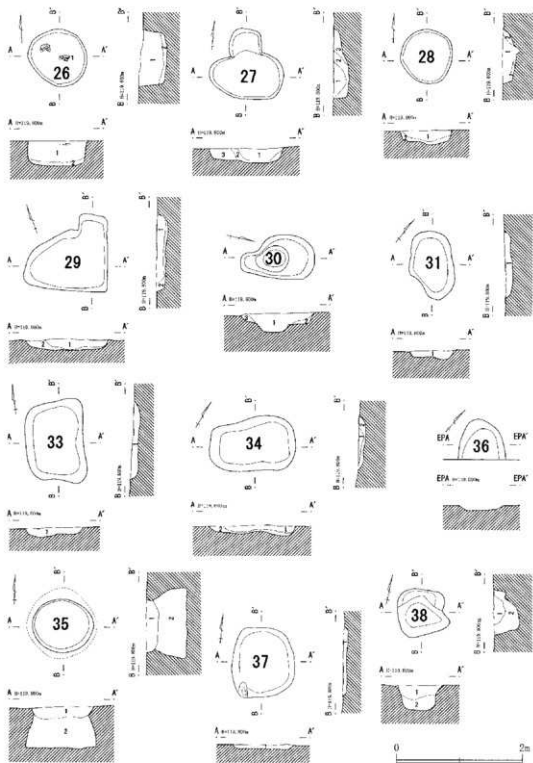
土器番号	形 態	規 模	深さ	時 期	出 土 遺 物	備 考
13	不 整 円 形	98×78	28	縄文中期	土器片少量	
14	不 整 円 形	104×96	22	不 明		
15	不 整 円 形	78×64	20	"		
16						欠番
17	(不 整 方 形)	172×(120)	14	縄文中期	土器片少量	
18	隅 丸 方 形	135×122	34	"	土器・打製石斧	
19	不 整 円 形	110×110	42	縄文中期	土器片	
20	(不 整 円 形)	164×(68)	38	"	土器	
21	不 整 楕 円 形	83×70	21	不 明		
22	不 整 円 形	94×86	14	"		
23	不 整 円 形	142×132	28	"		
24	不 整 楕 円 形	170×108	30	"		
25						欠番
26	円 形	94×92	44	縄文中期	土器片	
27	楕 円 形	118×112	26	不 明		
28	円 形	86×82	28	"		
29	隅 丸 三 角 形	132×124	18	"		
30	不 整 楕 円 形	118×70	30	"		
31	不 整 楕 円 形	110×72	14	"		
32						欠番
33	隅 丸 台 形	134×92	14	不 明		
34	隅 丸 長 方 形	138×86	16	"		
35	円 形	98×84	66	"		
36	(楕 円 形)	(70)×66	8	"		
37	不 整 方 形	110×98	8	"		
38	不 整 形	80×78	42	"		
39	不 整 方 形	153×104	44	縄文中期	土器片	
40	不 整 円 形	106×96	32	"	土器片少量	
41	不 整 形	170×148	64	"	土器片	15住に切られる。
42	楕 円 形	214×162	78	"	土器片少量	
43	円 形	100×98	36	"	土器片	
44	不 整 形	166×136	27	"	土器片	
45	不 整 円 形	124×118	24	"	土器片・打製石斧	
46	不 整 円 形	94×90	17	"	土器片少量	
47	円 形	116×108	36	(縄文早期)	土器片少量	
48	不 整 円 形	84×76	16	不 明		
49	不 整 円 形	138×98	36	縄文中期	土器片	
50	不 整 円 形	158×134	32	"	土器片	51土壘と6住に切られる。
51	隅 丸 長 方 形	162×102	26	"	土器片少量	6住に切られる。
52	不 整 楕 円 形	104×54	10	不 明	スクレイパー	
53	不 整 形	(108)×90	12	縄文中期	土器・凹石	
54	不 整 円 形	98×92	24	"	土器片・打製石斧	7住を切る。
55	不 整 楕 円 形	84×70	26	不 明		
56	(不 整 方 形)	100×(68)	18	"		
57	不 整 隅 丸 方 形	78×74	19	縄文中期	土器片	
58	不 整 楕 円 形	156×136	34	"	土器片	12住を切る。
59						欠番



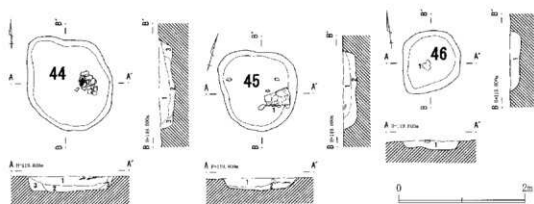
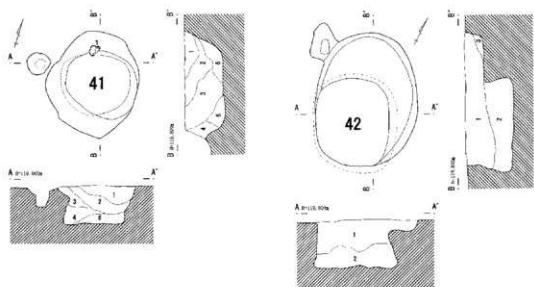
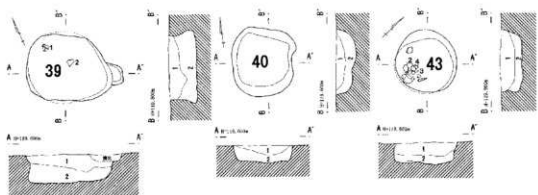
第47圖 土 壺 (1)



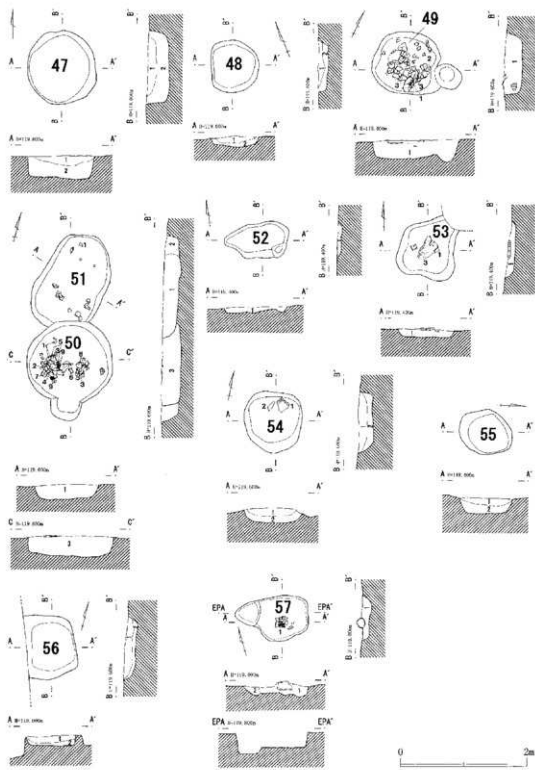
第48圖 土 壺 (2)



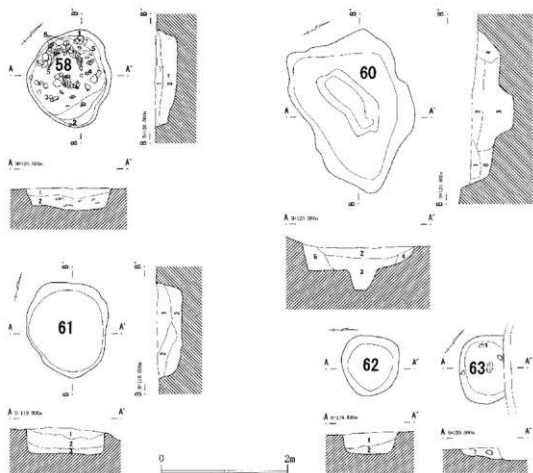
第49圖 土 壺 (3)



第50圖 土 壩 (4)



第51圖 土 壙 (5)



第52図 土 坑 (6)

土坑番号	形 態	規 模	深 さ	時 期	出 土 遺 物	備 考
60	不 整 形	262×182	68	不 明		3住を切る
61	不 整 楕 円 形	150×124	40	"	石 錐	
62	不 整 円 形	96×88	34	縄 文 中 期	磨 石・凹 石	
63	楕 円 形	110×70	18	不 明	ス ク レ イ バ ー	

第1号土層説明

第1層：明黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、明黄褐色ローム粒子(～0.1cm)を中量、同小塊(風化・未風化～1cm)を少量含む。しまりは軟らかく、粘性は普通。

第2号土層説明

第1層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、明黄褐色粒子(～0.1mm)、同未風化小塊(～2cm)を少量含む。しまり軟らかく粘性低い。

第2層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、明黄褐色粒子・同風化小塊(～4cm)を微量含む。しまり軟らかく粘性低い。

第3層：黒褐色土層 第1層に準ずる。

第3号土層説明

第1層：暗褐色土層 暗褐色土を主体とし、As-A(～1mm)を中量含む。しまりは軟らかく、粘性は普通。

第2層：暗褐色土層 暗褐色土が斑状に混在する層。未風化のローム小塊(～2cm)を少量含む。しまり軟らかく、粘性普通。

- 第3層：暗褐色土層 暗褐色土を主体とし、暗茶褐色土小塊(～1cm)を少量含む。しまり軟らかく、粘性普通。
- 第4層：暗褐色土層 第3層に準ずるが、黒褐色土小塊および未風化のローム小塊(～1cm)を微量含む。
- 第5層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、ローム粒子(～2mm)中量、ローム小塊および暗茶褐色土小塊(未風化～2cm)を少量含む。しまりは軟らかく、粘性普通。
- 第6層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、ローム粒子(～2mm)、同小塊(未風化～1cm)を少量含む。しまりは軟らかく、粘性は普通。
- 第7層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、ローム粒(～2mm)を少量含む。しまり軟らかく粘性は普通。
- 第8層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、ローム粒(～2mm)を少量、暗茶褐色小塊(～3mm)を微量含む。しまり軟らかく、粘性普通。
- 第9層：黒褐色土層 黒褐色土を主体とし、ローム粒(～2mm)、同小塊(～4cm)を少量含む。しまり軟らかく、粘性普通。

第4号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層 ローム粒子風化小塊(～1cm)を少量含む。しまり軟らかく粘性やや高い。

第5号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層 ローム粒子(～1mm)を少量含む。しまり軟らかく粘性普通。
- 第2層：黒褐色土層 ローム粒風化小塊(～1cm)を少量含む。しまり軟らかく粘性やや高い。

第6号土壌土層説明

- 第1層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊を主体とし、暗茶褐色土小塊(～1cm)を微量含む。しまり硬く粘性低い。

第8号土壌土層説明

- 第1層：黒褐色土層 明黄褐色粒子(～1mm)を少量含む。しまり軟らかく粘性やや高い。
- 第2層：黒褐色土層 明黄褐色土小塊(未風化～3cm)を少量、同粒子(～2mm)を中量含む。しまり軟らかく粘性やや高い。

第9号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 明黄褐色土小塊(～1cm)を微量、炭化物粒子(～1mm)を少量含む。しまり硬く粘性低い。

第10号土壌土層説明

- 第1層 明黄褐色土層 明黄褐色土小塊(～4cm)を主体とし、暗茶褐色土小塊(～1cm)を少量現状に含む。しまり硬く粘性低い。
- 第2層 明黄褐色土層 明黄褐色粒子(～2mm)を主体とし、同小塊及び暗茶褐色土小塊(～1cm)を微量含む。しまり硬く粘性やや高い。
- 第3層：暗茶褐色土層 明黄褐色土小塊(～1cm)を微量、同粒子(～1mm)を少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第4層：明黄褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、明黄褐色粒子(～0.1mm)を中量含む。色調はやや明るい。しまり硬く粘性高い。

第11号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 明黄褐色粒(～1mm)を少量含む。しまり硬く粘性低い。

第12号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 明黄褐色粒(～2mm)を少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第2層：暗茶褐色土層 明黄褐色小塊(～2cm)を少量、明黄褐色粒(～2mm)を中量含む。しまり硬く粘性低い。

第13号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 明黄褐色粒子(～2mm)を少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第2層：暗茶褐色土層 明黄褐色土小塊(～2cm)を少量、同粒子(～1mm)を中量含む。しまり硬く粘性低い。

第14号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 明黄褐色粒子(～1mm)を少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第2層：暗茶褐色土層 明黄褐色土小塊(～2cm)を少量現状に、同粒子(～2mm)を中量含む。しまり硬く粘性普通。

第15号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 明黄褐色土小塊(～1cm)を微量、同粒子(～2mm)を少量含む。しまり硬く粘性低い。

第17号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土小塊を主とし、明茶褐色土小塊(～1cm)を少量含む。しまり硬く粘性低い。

第18号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土小塊を主とし、明茶褐色土小塊(～1cm)を少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第2層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊を主とし、暗茶褐色土小塊(～1cm)を微量含む。しまり硬く粘性低い。

第19号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土小塊を主とし、明茶褐色土小塊(～1cm)を少量含む。しまり硬く粘性低い。

- 第2層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊を主とし、暗茶褐色土小塊（～1cm）を微量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第20号土壌土層説明**
- 第1層：黒褐色土層 明黄褐色粒子（～0.1mm）を少量含む。しまり軟らかく粘性低い。
- 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土小塊を主体とし、明茶褐色土小塊（～1cm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第3層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊を主体とし、暗茶褐色土小塊（～1cm）を微量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第4層：黄褐色土層 黄褐色土を主体とし、ローム粒子を含む。
- 第21号土壌土層説明**
- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土小塊を主体とし、明茶褐色土小塊（～1cm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第2層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊を主体とし、暗茶褐色土小塊（～1cm）を微量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第22号土壌土層説明**
- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土小塊を主とし、明茶褐色土小塊（～1cm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第2層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊を主とし、暗茶褐色土小塊（～1cm）を微量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第23号土壌土層説明**
- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土小塊を主とし、明茶褐色土小塊（～1cm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第2層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊を主とし、暗茶褐色土小塊（～1cm）を微量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第24号土壌土層説明**
- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土小塊を主体とし、明茶褐色土小塊（～1cm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第2層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊を主体とし、暗茶褐色土小塊（～1cm）を微量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第26号土壌土層説明**
- 第1層：暗茶褐色土層 明黄褐色土小塊（～2cm）を微量、同粒子（～2mm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第2層：暗茶褐色土層 明黄褐色粒子（～0.1mm）を中量、同小塊（～5mm）を少量含む。しまり硬く粘性やや高い。
- 第27号土壌土層説明**
- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土小塊を主体とし、明茶褐色土小塊（～1cm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第2層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊を主体とし、暗茶褐色土小塊（～1cm）を微量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第3層：明黄褐色土層 明黄褐色土を主体とし、暗茶褐色風化粒（～1cm）を微量含む。しまり軟らかく粘性低い。
- 第28号土壌土層説明**
- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土小塊を主体とし、明茶褐色土小塊（～1cm）を斑状に少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第2層：明黄褐色土層 明黄褐色土小塊を主体とし、暗茶褐色土小塊（～1cm）を微量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第29号土壌土層説明**
- 第1層：暗茶褐色土層 YP・ローム粒を少量、炭化物粒を微量含む。しまり良く、粘性は弱い。
- 第2層：茶褐色土層 ローム粒・ロームブロックを多量に、YPを少量含む。しまり良く粘性を有する。
- 第30号土壌土層説明**
- 第1層：明黒褐色土層 ロームブロック、YPを多量に、炭化物粒を微量含む。しまり、粘性共に有する。
- 第2層：茶褐色土層 ロームブロックを多量に含む。しまり、粘性共に有する。
- 第3層：褐色土層 ローム粒・YPを少量含む。しまり、粘性共に有するが弱い。
- 第31号土壌土層説明**
- 第1層：暗茶褐色土層 ローム粒・ロームブロックを多量に、YP・炭化物粒を少量含む。しまり、粘性共に有する。
- 第33号土壌土層説明**
- 第1層：茶褐色土層 YP・ローム粒を少量、ロームブロックを微量含む。しまり、粘性共に有する。
- 第34号土壌土層説明**
- 第1層：明黒褐色土層 YP・ローム粒を少量、ロームブロック・炭化物粒を微量含む。しまり、粘性共に有するが弱い。
- 第2層：明褐色土層 ローム粒・ロームブロックを多量に、YPを若干含む。しまり、粘性共に有する。
- 第35号土壌土層説明**
- 第1層：明黒褐色土層 YP・ローム粒を少量含む。良くしまっており粘性は弱い。
- 第2層：黒褐色土層 YP・ローム粒を少量、炭化物粒・ロームブロックを微量含む。硬くしまっており粘性を有する。
- 第37号土壌土層説明**
- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土小塊を主体とし、明茶褐色土小塊（～1cm）を斑状に少量含む。しまり硬く粘性低い。
- 第38号土壌土層説明**
- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム小塊（～1cm）を微量含む。
- 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム粒（～2mm）を少量含む。

第39号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム小塊（～1cm）を微量含む。
 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム粒（～2mm）を少量含む。

第40号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム小塊（～1cm）を微量含む。
 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム粒（～2mm）を少量含む。

第41号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム小塊（～1cm）を微量含む。
 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム粒（～2mm）を少量含む。

第42号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム小塊（～2cm）を中量、ローム粒子（～1mm）を少量含む。
 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム粒子（～2mm）を少量含む。
 第3層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム小塊（～1cm）を少量含む。

第43号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム小塊（～1cm）を微量含む。
 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム粒（～2mm）を少量含む。

第44号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 暗褐色土を主体とし、暗茶褐色粒子（～1mm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。
 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、暗茶褐色粒子（～2mm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。
 第3層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、ローム小塊（～1cm）を少量、同粒子（～2mm）を中量含む。しまり硬く粘性低い。

第45号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、暗茶褐色粒子（～1mm）を少量含む。
 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、暗茶褐色土小塊（～4cm）を少量、同粒子（～1mm）を微量含む。

第46号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、暗茶褐色粒子（～1mm）を少量含む。

第47号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 ローム粒子（～2mm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。
 第2層：暗茶褐色土層 ローム小塊（～2cm）を少量、同粒子（～1mm）を中量含む。しまり硬く粘性低い。

第48号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 ローム粒子（～2mm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。
 第2層：暗茶褐色土層 ローム小塊（～2cm）を少量、同粒子（～1mm）を中量含む。しまり硬く粘性低い。

第49号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 ローム粒子（～2mm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。

第50・51号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 明黄褐色粒子（～3mm）・炭化粒子（～5mm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。
 第2層：暗茶褐色土層 明黄褐色粒子（～2mm）を中量含む。しまり硬く粘性低い。
 第3層：暗茶褐色土層 明黄褐色粒子（～1mm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。

第52号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 ローム粒・ロームブロックを均一に、YPを少量含む。しまり、粘性共に有する。

第53号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 ローム粒・YPを少量、炭化物粒・ロームブロックを微量含む。しまり良く粘性を有する。

第54号土壌土層説明

第1層：茶褐色土層 ローム粒・ロームブロック・YPを少量含む。硬くしまっており粘性を有する。
 第2層：暗茶褐色土層 ローム粒・ロームブロックを少量、YPを微量含む。良くしまっており粘性を有する。

第55号土壌土層説明

第1層：明黒褐色土層 ローム粒・YPを少量、炭化物粒を微量含む。良くしまっており粘性を有する。
 第2層：明黒褐色土層 ローム粒・ロームブロック・YPを少量含む。硬くしまっており粘性を有する。

第56号土壌土層説明

第1層：暗茶褐色土層 YPを少量、ローム粒を微量含む。硬くしまっており粘性は弱い。
 第2層：茶褐色土層 ローム粒・ロームブロックを多量に、YPを少量含み、ローム風化土が混入する。しまり強く粘性を有する。

第57号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 明黄褐色粒子（～1mm）を少量含む。しまりは硬く粘性低い。
 第2層：暗褐色土層 暗褐色土を主体とし、明黄褐色土小塊（～2cm）を少量含む。しまり硬く粘性低い。

第58号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 YP・炭化物微粒を少量、ローム粒を極微量含む。しまり強く粘性は弱い。
 第2層：明黒褐色土層 YP・炭化物微粒を微量、ロームブロック（1cm以下）を最下層に若干含む。しまり強く粘性は弱い。

第60号土壌土層説明

- 第1層：暗褐色土層 ローム粒を少量、YP・炭化物粒を微量含む。しまり、粘性共に弱い。
 第2層：暗茶褐色土層 ローム粒・ロームブロック・YPを多量に含む。良くしまっており粘性を有する。
 第3層：明黒褐色土層 YP・炭化物粒を少量、ローム粒・ロームブロックを微量含む。良くしまっており粘性を有する。
 第4層：明茶褐色土層 ローム粒・ロームブロックを多量に、YP・炭化物粒を微量含むしまりは有するが粘性は弱い。
 第5層：茶褐色土層 YP・ローム粒・炭化物粒を少量含む。良くしまっており粘性を有する。
 第6層：暗褐色土層 ローム粒・YPを少量含む、ローム風化土が極少量混入する。しまり強く、粘性を有する。

第61号土壌土層説明

- 第1層：暗褐色土層 明黄褐色土小塊（～2cm）、As-Aを少量含む。しまり軟らかく粘性やや高い。
 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、暗茶褐色粒子（～1mm）を少量含む。
 第3層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、暗茶褐色土小塊（～4cm）を少量、同粒子（～1mm）を微量含む。

第62号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、暗茶褐色粒子（～1mm）を少量含む。
 第2層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、暗茶褐色土小塊（～4cm）を少量、同粒子（～1mm）を微量含む。

第63号土壌土層説明

- 第1層：暗茶褐色土層 暗茶褐色土を主体とし、暗茶褐色粒子（～1mm）を少量含む。

第1号土壌出土物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面は縦位の沈線を施す。D.石英、チャート、片岩、黒色鉱物。E.橙色。F.破片。
---	-----	--

第2号土壌出土物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口唇部に連続爪形文。口唇部下には半截竹管状工具による刺突。D.石英、チャート。E.明褐色。F.口縁部破片。
---	-----	---

第3号土壌出土物観察表

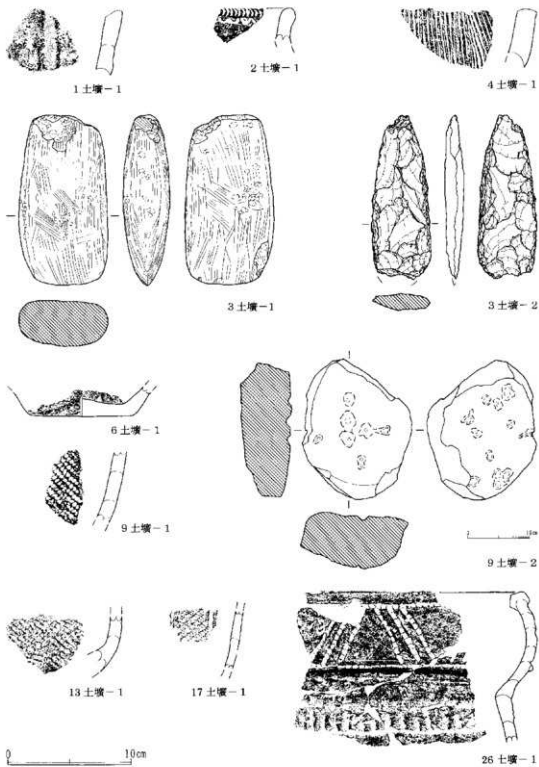
1	磨製石斧	A.長さ13.5、幅7.0、厚さ3.7、重さ609.6g。C.全体に良く研磨されている。左側面に敲打痕が多く残存。D.緑色岩類。F.完形。
2	打製石斧	A.長さ12.9、幅4.5、厚さ1.3、重さ115.3g。C.直接打撃による両面調整。D.ひん岩。F.刃部先端欠損。

第4号土壌出土物観察表

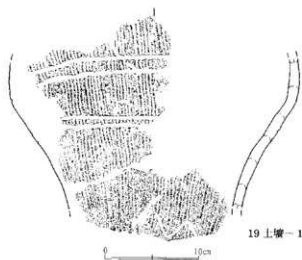
1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面はLの摺糸文を縦位に施す。D.黒色鉱物、チャート。E.灰黄褐色。F.破片。
---	-----	---

第6号土壌出土物観察表

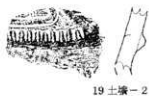
1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面は丁寧なミガキ。D.石英、褐色粒、黒色鉱物、チャート。E.暗黄褐色。F.底部破片。
---	-----	---



第53圖 土壤出土遺物 (1)



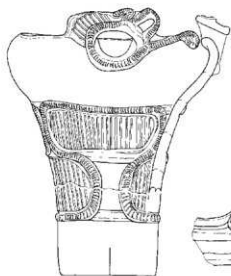
19 土壙-1



19 土壙-2



19 土壙-3



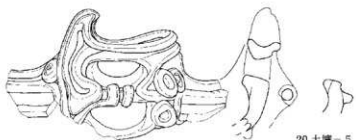
20 土壙-1



20 土壙-3



20 土壙-4



20 土壙-5



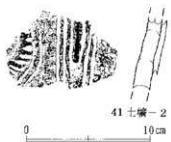
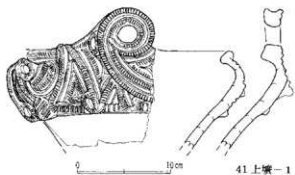
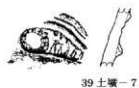
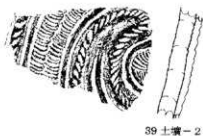
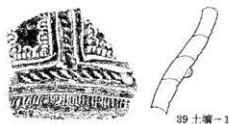
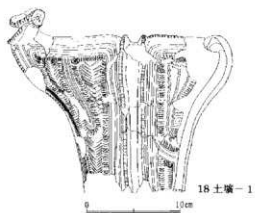
20 土壙-2



20 土壙-6



第54圖 土壙出土遺物(2)



第55图 土壤出土物(3)



42 土壙-1



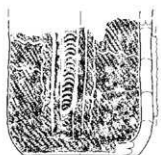
42 土壙-2



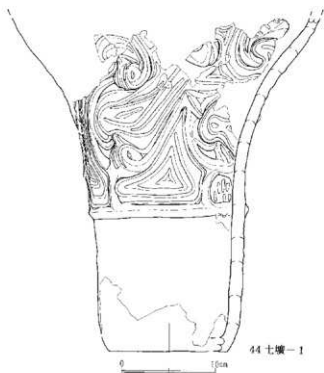
43 土壙-1



43 土壙-2



43 土壙-3



44 土壙-1



43 土壙-4



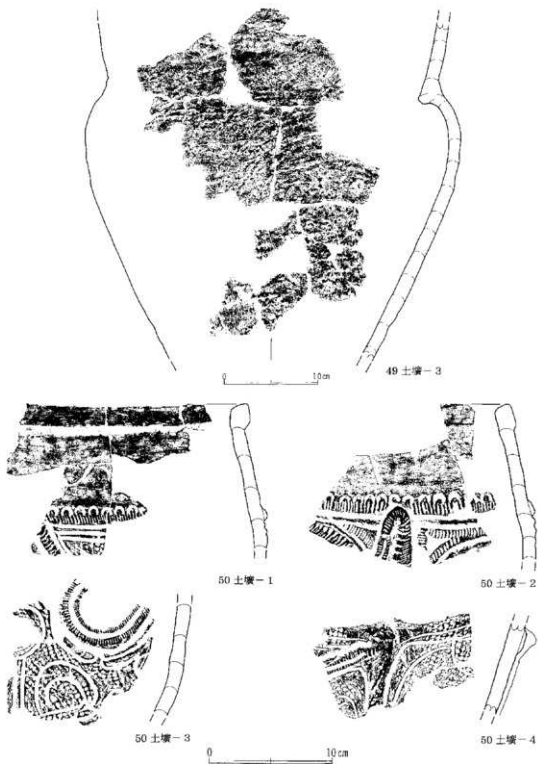
44 土壙-2



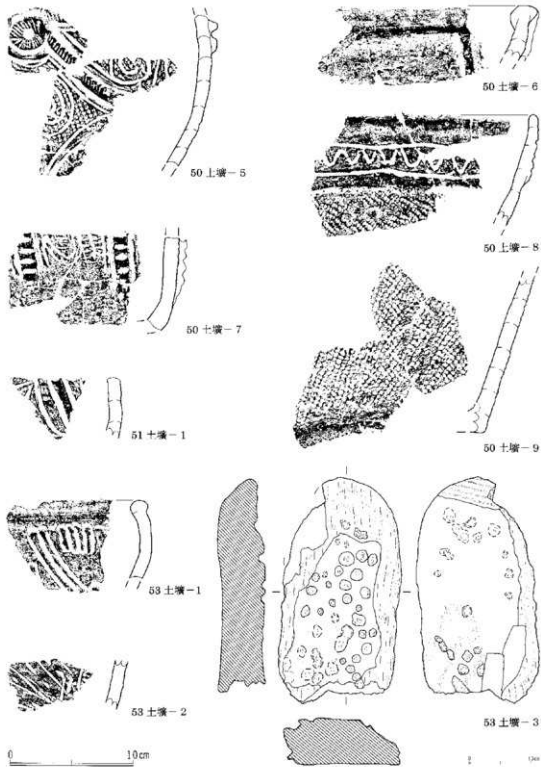
第56圖 土壙出土遺物(4)



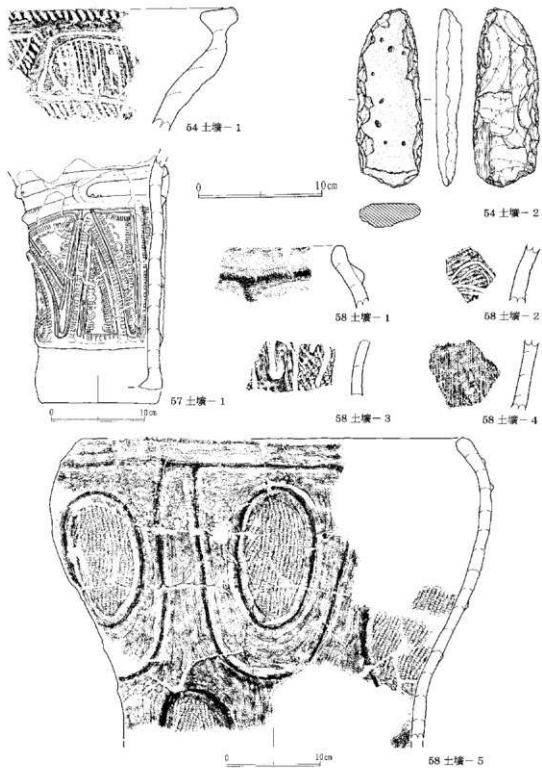
第57图 土壤出土遗物 (5)



第58圖 土壤出土遺物(6)



第59圖 土壙出土遺物 (7)



第60圖 土壤出土遺物(8)



58 土塊-6



58 土塊-7



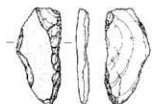
58 土塊-8



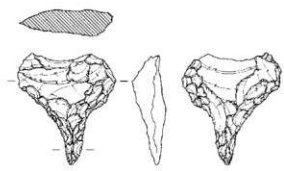
58 土塊-9



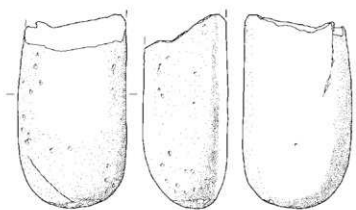
63 土塊-1



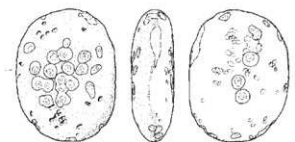
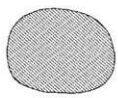
52 土塊-1



61 土塊-1



62 土塊-1



62 土塊-2



第61圖 土塊出土遺物(9)

第9号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面は単節縄文RLを横位に施文。D.石英、黒色鉱物、チャート。E.橙色。F.破片。
2	多孔石	A.残存長21.4、残存幅17.1、厚さ8.3、重さ4550g。C.全体的に磨耗。表面に4穴。裏面の凹穴は磨耗により輪郭不明瞭。D.輝石安山岩。F.破片。

第13号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面は単節縄文RLを横位に施文。D.石英、雲母、黒色鉱物、チャート。E.橙色。F.破片。
---	-----	--

第17号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面は単節縄文LRを横位に施文→縦位沈線・縄文磨消。D.石英、黒色鉱物。E.灰褐色。F.破片。
---	-----	---

第18号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	A.口径23.1、残存高19.3。B.粘土紐積み上げ。C.外面はキサミを有する跡状の縦位降帯により4区画され。区画内は半杖竹管状工具による平行沈線と連続爪形文で囲繞し。内部を平行沈線文・連続爪形文・縦位綾杉文等により充填。D.白色粒、褐色粒。E.内外一暗茶褐色。F.1/2。
2	打製石斧	A.長さ11.7、幅4.3、厚さ2.4、重さ154.2g。C.直接打撃による両面調整。左側縁の一部に敲打痕。両側縁に顕著な磨耗痕。片面に自然面を残す。D.ひん岩。F.完成形。

第19号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面は前面に櫛歯状工具による縦位条線を施文後、横位の縦位沈線文を施す。D.石英、チャート、雲母、片岩。E.明褐色。F.破片。
2	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面は蓮華文を施文した降帯で横位に区画。区画内は爪形刺突→半杖竹管状工具による平行沈線。D.石英、チャート、雲母、褐色粒。E.灰黄褐色。F.破片。
3	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.連続爪形文の施された縦位・弧状の降帯→縦位の単沈線。D.石英、チャート、雲母、片岩、黒色鉱物。E.暗褐色。F.破片。

第20号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	A.口径19.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部無文。口縁部と胴部は王位降帯により区分。胴部は降帯により2分割され。連続爪形文を施した降帯により楕円形に区画される。区画内は半杖竹管状工具による縦位の平行沈線を充填、降帯縁には単沈線。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.1/4。
2	鉢	B.粘土紐積み上げ。C.内外面丁寧なミガキ。文様は、胴部に単沈線・連続爪形文・蓮華文を有する幅広い横位降帯。降帯下には単沈線。D.チャート、黒色鉱物。E.明赤褐色。F.1/4。
3	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.連続爪形文の施された縦位降帯→半杖竹管状工具による縦位平行沈線。D.石英、片岩、チャート、黒色鉱物。E.明赤褐色。F.破片。
4	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.棒状工具による刺突が施された横位降帯→同様の降帯で楕円形状に区画→降帯縁に単沈線。D.雲母、片岩、チャート、黒色鉱物。E.暗褐色。F.破片。
5	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.基部に渦巻状・環状の貼付を有する鶏頭冠状把手。鶏頭冠下のブリッジはコイル状に飾られ、基部に環状の貼付を有する。D.チャート、黒色鉱物、赤色粒。E.明赤褐色。F.把手破片。
6	浅 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.内外面は丁寧なミガキ。D.雲母、チャート、黒色鉱物。E.明褐色。F.口縁部破片。

第26号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部と頸部は横位降帯で隔される。口縁部文様帯には横位・斜位の結節沈線を施文する。頸部にはヒタ状圧痕を施す。D.チャート、黒色鉱物。E.明赤褐色。F.口縁部破片。
---	-----	---

第39号土壌出土遺物観察表

1	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.キザミを有する隆帯により文様帯を区画。区画内は半裁竹管状工具による平行沈線文・連続爪形文・蓮華文等を施文。D.雲母、片岩。E.赤褐色。F.破片。
2	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.キザミを有する隆帯に沿って半裁竹管状工具による平行沈線文が施され、空白部には連続爪形文・蓮華文を施文。D.雲母、片岩。E.灰褐色。F.破片。
3	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ナデ。D.チャート、片岩、黒色鉱物。E.明赤褐色。F.破片。
4	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.横位隆帯に蓮華文、縦位隆帯に連続爪形文を施す。縦位隆帯に沿って半裁竹管状工具による平行沈線が施される。D.チャート、雲母、片岩。E.暗褐色。F.破片。
5	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.横位隆帯に沿って半裁竹管状工具による平行沈線・蓮華文が施される。D.チャート、雲母、片岩。E.赤褐色。F.破片。
6	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(RL)を縦位に施文。D.チャート。E.橙色。F.破片。
7	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部と頸部を蓮華文を有する横位隆帯により隔す。口縁部文様帯には環状突起・爪形刺突文・半裁竹管状工具による平行沈線が施される。D.チャート、雲母、片岩。E.赤褐色。F.破片。

第40号土壌出土遺物観察表

1	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.隆帯と沈線により渦巻状に区画。区画内は単節縄文(RL)を横位に施文。D.石英、チャート、黒色鉱物、褐色粒。E.灰黄褐色。F.口縁部破片。
---	----	--

第41号土壌出土遺物観察表

1	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部に環状把手。口縁部文様帯は連続爪形文で飾られた隆帯により不定形に区画され、区画内に半裁竹管状工具による平行沈線・三叉文・連続爪形文が施文される。隆帯連結部には環状突起が配される。頸部無文。D.片岩、雲母。E.明赤褐色。F.口縁部1/4。
2	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.隆帯に沿って半裁竹管状工具による平行沈線が施される。隆帯には一部キザミ。D.チャート、雲母、片岩。E.黒褐色。F.破片。

第42号土壌出土遺物観察表

1	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部文様帯に単列の結節沈線を横位・縦位に施文する。D.チャート、片岩、雲母。E.明赤褐色。F.口縁部破片。
2	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.櫛歯状工具による刺突文。D.雲母、片岩。E.黒褐色。F.破片。

第43号土壌出土遺物観察表

1	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.把手付近の外面には連続爪形文・単沈線を有する環状突起、双環状突起、内面には連続爪形文・単沈線を有する環状突起を眼鏡字様に配する。D.チャート、片岩。E.赤褐色。F.口縁部破片。
2	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部文様帯は弧状・斜位の隆帯により区画される。区画内には半裁竹管状工具による平行沈線・爪形の刺突文・隆帯により飾られる。頸部無文。D.チャート、雲母、片岩。E.赤褐色。F.口縁部破片。
3	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.地文に単節縄文(RL)を施す。連続爪形文を有した垂下隆帯に沿って半裁竹管状工具による平行沈線を施す。横位・縦位の波状単沈線を施す。D.石英、チャート、雲母、片岩。E.暗赤褐色。F.胴部下半のみ。
4	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.連続爪形文を有する横位・斜位の隆帯と、幅広い単沈線が施される。D.チャート。E.赤褐色。F.破片。

第44号土壌出土遺物観察表

1	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.胴部上半には隆帯で繋がる環状突起・単沈線・三叉文・沈刺が施される。胴部下半は無文。D.チャート、黒色鉱物。E.明赤褐色。F.1/2。G.No2と同一個体。
2	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部に双環状の把手。把手と口縁部文様帯は、隆帯と単沈線により飾られる。D.チャート、黒色鉱物。E.明赤褐色。F.口縁部破片。G.No1と同一個体。

第45号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	A.口径28.2、器高37.1、底径12.8。B.粘土紐積み上げ。C.内外面ミガキ。底部外面ナデ。文様帯は横位・波状の隆帯により三角形の交互配列で区画され、区画内は隆帯に沿って蓮華文が施される。D.片岩、白色粒、黒色粒。E.内外一茶褐色。F.2/3。
2	打製石片	A.長さ15.0、幅5.5、厚さ3.3、重さ345.4g。C.直接打撃による両面調整。D.凝灰質砂岩。F.完形。
3	打製石片	A.残存長(13.4)、幅4.1、厚さ1.1、重さ114.6g。C.直接打撃による両面調整。両面に磨耗痕。D.緑色岩類。F.基部折損。

第46号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.幅広の隆帯と単沈線で施文。隆帯には一部連続爪形文が施される。D.雲母、片岩、黒色鉱物。E.暗赤褐色。F.破片。
---	-----	---

第47号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.半裁竹管状工具による斜位平行沈線を施す。D.チャート。E.褐色。F.破片。
---	-----	---

第49号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面丁寧なミガキ。D.片岩、チャート。E.暗赤褐色。F.破片。G.No2・3と同一個体。
2	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.内外面丁寧なミガキ。D.片岩。E.暗赤褐色。F.破片。G.No1・3と同一個体。
3	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.内外面ミガキ。D.チャート、片岩。E.暗褐色。F.1/5。G.No1・2と同一個体。

第50号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.内外面丁寧なミガキ。文様は、口縁部と胴部は連続爪形文・半裁竹管状工具による刺突文を有した横位隆帯により隔される。D.チャート、雲母、片岩。E.暗赤褐色。F.破片。G.No2と同一個体。
2	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.内外面丁寧なミガキ。文様は、口縁部と胴部は連続爪形文・半裁竹管状工具による刺突文を有した横位隆帯により隔される。D.チャート、雲母、片岩。E.暗赤褐色。F.破片。G.No1と同一個体。
3	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(RL)を地文とする。連続爪形文・単沈線を有した隆帯と単沈線を施す。D.チャート、雲母、片岩。E.暗赤褐色。F.破片。G.No5と同一個体。
4	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.隆帯(部分的に連続爪形文・単沈線を施す)貼り付け→単節縄文(RL)を施文→単沈線。D.片岩、黒色鉱物。E.暗赤褐色。F.破片。G.内面煤付着。
5	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(RL)を地文とする。連続爪形文・単沈線を有した隆帯及び環状突起と単沈線を施す。内面丁寧なミガキ。D.チャート、雲母、片岩。E.暗赤褐色。F.破片。G.No3と同一個体。
6	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口唇部より隆帯が垂下。D.チャート、雲母、片岩。E.褐色。F.破片。
7	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.キザミを有する隆帯・半裁竹管状工具による平行沈線・蓮華文・三角押文により施文される。D.雲母、片岩。E.赤褐色。F.破片。
8	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部文様帯に2条の横位単沈線を施し、沈線間に波状の単沈線を描く。胴部には単節縄文(RL)を横位施文。D.チャート、雲母、片岩。E.褐色。F.破片。
9	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.胴部には単節縄文(RL)を縦位施文。D.チャート、雲母、片岩。E.赤褐色。F.破片。G.内外面及び断面に煤付着。

第51号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.縦位隆帯一縦位・横位の単沈線。D.石英、チャート、片岩。E.黒褐色。F.破片。
---	-----	---

第52号土壌出土遺物観察表

1	スクレイパー	A.長さ37.8、幅3.6、厚さ1.1、重さ25.8g。C.薄型の横長剥片の一個縁に加工を施し刃部とする。D.頁岩。F.完形。
---	--------	---

第53号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面丁寧なミガキ。D.片岩、チャート。E.暗赤褐色。F.破片。G.No2・3と同一個体。
2	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.内外面丁寧なミガキ。D.片岩。E.暗赤褐色。F.破片。G.No1・3と同一個体。
3	多孔石 (台石)	A.残存長34.2、幅18.6、厚さ6.9、重さ8690g。C.表裏面に多くの凹穴。裏面は磨耗により平滑。D.緑色片類。F.一部欠損。

第54号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口唇部連続刺突。口縁部より連続刺突を有する垂下隆帯。2条一組の横位単沈線にて区画し、沈線間を斜位沈線で充填する。単沈線で楕円形に区画し、区画内を半裁竹管状工具による平行沈線で充填する。D.チャート、雲母、片岩。E.暗赤褐色。F.口縁部破片。
2	打製石斧	A.長さ14.2、幅4.8、厚さ1.8、重さ193.2g。C.直接打撃による両面調整。左側縁の一部に敲打痕。刃部周辺に磨耗痕。片面に自然面を残す。D.凝灰岩。F.完形。

第57号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.胴部文様帯を横位隆帯により2段に分割。下段は連続爪形文が施された縦・斜位隆帯により区画される。区画内には隆帯に沿った半裁竹管状工具による平行沈線・連続爪形文・爪形文が施される。D.雲母、片岩。E.明赤褐色。F.1/2。
---	-----	---

第58号土壌出土遺物観察表

1	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.横位弧状の隆帯。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗黄色。F.破片。
2	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(LR)を横位に施した後単沈線を施す。D.チャート、黒色鉱物。E.暗赤褐色。F.破片。
3	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.縦位単沈線。D.チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。
4	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.櫛歯状工具による縦位条線。D.チャート、黒色鉱物。E.暗褐色。F.破片。
5	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部と胴部は横位隆帯により隔される。胴部はU字状の隆帯により区画され、区画内には単節縄文(R・L)・楕円形状の隆帯が施される。D.チャート、黒色鉱物。E.明赤褐色。F.1/2。
6	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.指頭状工具による沈線で弧状に区画。区画内は単節縄文(R・L)を横位に施す。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗黄色。F.破片。
7	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.指頭状工具による沈線で弧状に区画。区画内は単節縄文(R・L)を横位に施す。D.石英、チャート、片岩、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。
8	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(LR)を横位に施した後、縦位単沈線を施す。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。
9	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(RL)を横位に施す。D.チャート、片岩、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。

第61号土壌出土遺物観察表

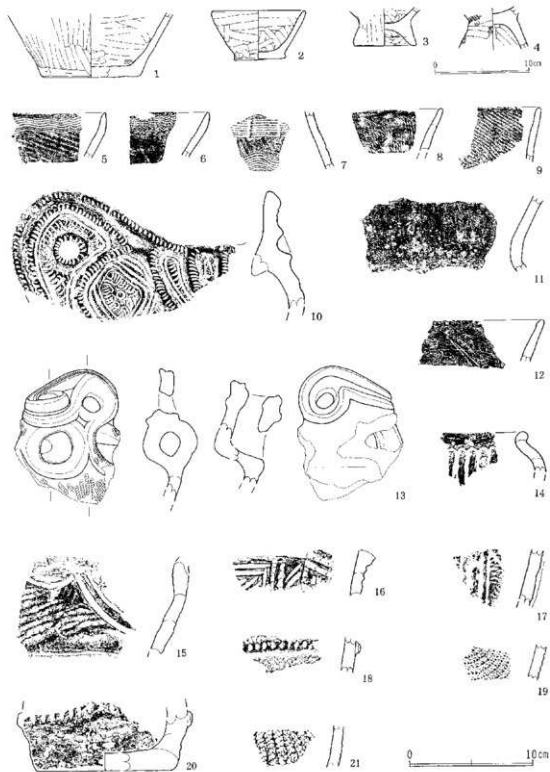
1	石 錐	A.長さ2.9、幅2.5、厚さ0.9、重さ3.75g。C.先端部は磨耗によりやや丸い。D.黒色安山岩。F.完形。
---	-----	--

第62号土壌出土遺物観察表

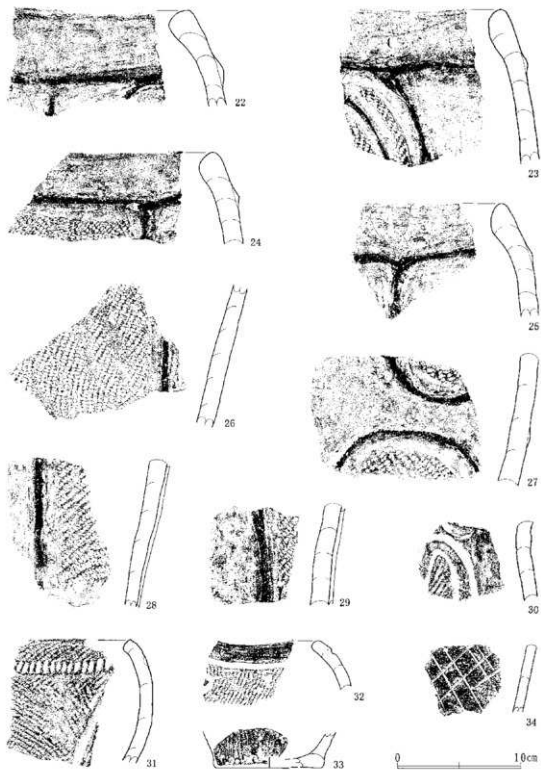
1	磨 石	A.残存長15.3、幅8.6、厚さ6.7、重さ1480.0g。C.表裏面に磨耗痕。下端部に敲打痕。D.安山岩。F.上半部折損。
2	多孔石	A.長さ20.9、幅15.6、厚さ6.7、重さ2055.0g。C.表面17穴・裏面3穴、小さい凹穴多数。D.安山岩。F.完形。

第63号土壌出土遺物観察表

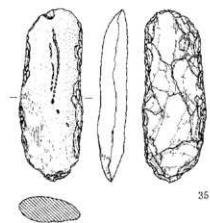
1	スクレイパー	A.長さ5.0、幅3.5、厚さ1.6、重さ34.4g。C.剥片の三側縁を加工して刃部とする。両側縁に微細な刺突痕。片面に自然面を残す。D.頁岩。F.完形。
---	--------	---



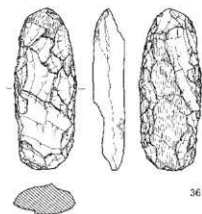
第62图 表採・調査区内出土遺物(1)



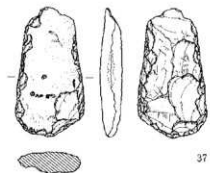
第63图 表採・調査区内出土遺物(2)



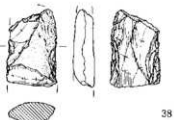
35



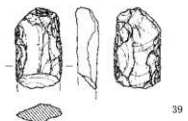
36



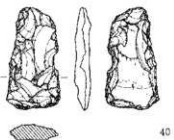
37



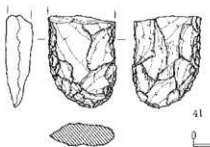
38



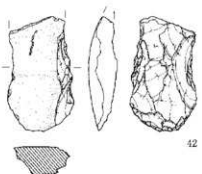
39



40



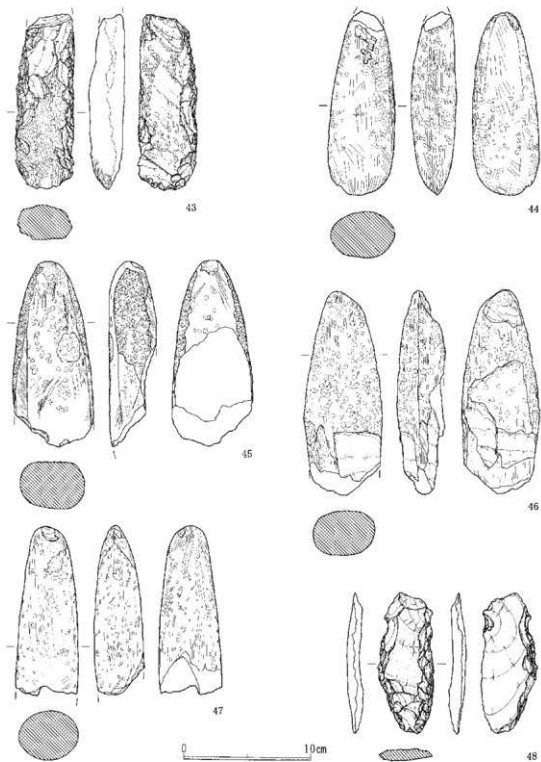
41



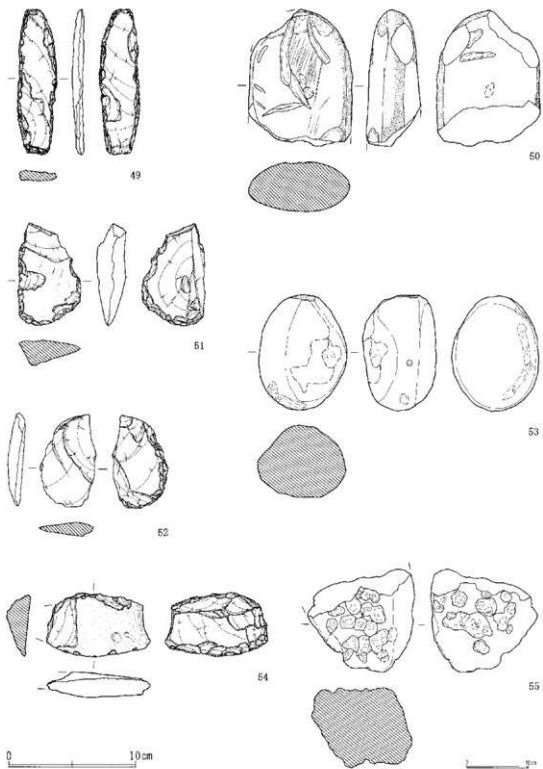
42

0 10cm

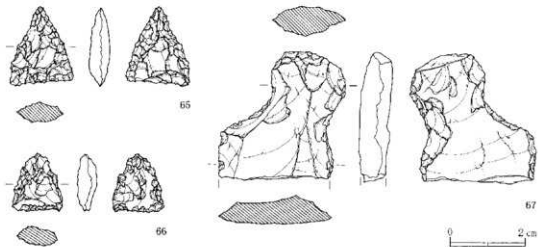
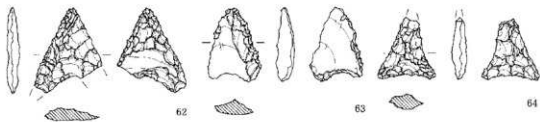
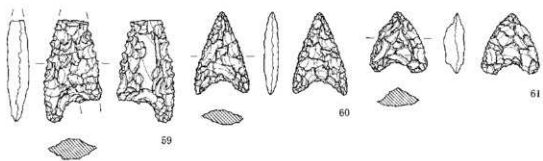
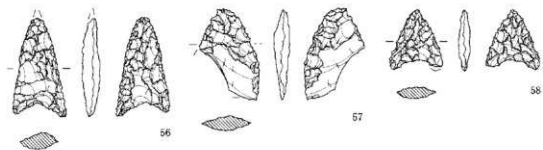
第64图 表採・調査区内出土遺物(3)



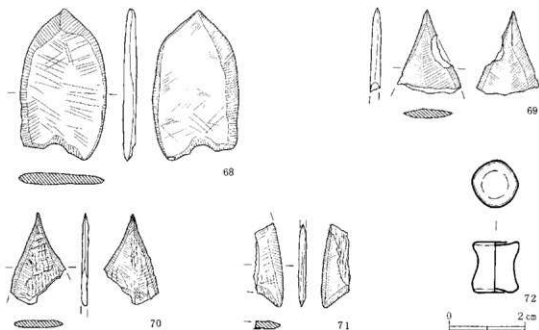
第65図 表採・調査区内出土遺物(4)



第66图 表採・調査区内出土遺物(5)



第67図 表採・調査区内出土遺物(6)



第68図 表採・調査区内出土遺物(7)

採集・調査区内出土遺物観察表

1	鏃	A.底径(9.8)。B.粘土紐積み上げ。C.胴部下半外面篋ナデの後下端ケズリ、内面ナデ。底部外面ケズリ。D.チャート、黒色粒。E.内外-暗黄褐色。F.胴部下半~底部破片。H.表採。
2	小形鏃	A.口径9.7、器高5.3、底径5.5。B.粘土紐積み上げ。C.外面篋ナデ。口縁部内面ヨコナデ、体部内面篋ナデ。D.チャート、黒色粒。E.内外-暗黄褐色。F.2/3。H.表採。
3	台付鏃	A.台端径6.4。B.粘土紐積み上げ。台部貼付。C.台部内外面篋ナデ。D.チャート、片岩。E.内外-暗褐色。F.台部のみ。H.表採。
4	台付鏃	B.粘土紐積み上げ。台部貼付。C.台部外面ハケの後篋ナデ、内面篋ナデ。D.角四石、チャート。E.内外-褐色。F.台部破片。H.表採。
5	鏃	B.粘土紐積み上げ。C.外面ハケの後7本歯の櫛描波状文、内面ミガキ。口唇部キザミ。D.角四石、チャート。E.内外-明褐色。F.口縁部破片。H.第1号溝跡。
6	鏃	B.粘土紐積み上げ。C.外面櫛描波状文、内面ミガキ。D.黒色粒、白色粒。E.外-赤色、内-暗赤褐色。F.口縁部破片。G.口縁部内外面赤色塗彩。H.第1号溝跡。
7	鏃	B.粘土紐積み上げ。C.外面ハケの後8本歯の等間隔止櫛描波状文と同一工具による櫛描波状文、内面ミガキ。D.角四石、チャート。E.外-明赤褐色、内-暗褐色。F.破片。H.表採。
8	深 鏃	B.粘土紐積み上げ。C.外面無節Rの然糸文。D.チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。H.第1号溝跡。
9	鏃	B.粘土紐積み上げ。C.外面及び口唇部に単節縄文(RL)。内面ミガキ。D.黒色粒、白色粒。E.外-黒褐色、内-明赤褐色。F.破片。H.第1号溝跡。
10	深 鏃	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部文様帯は口唇部から垂下する連続爪形文を有する際帯により区画。区画内には蘆葉文・半葦竹管状工具による平行沈線・円形竹管文・連続爪形文を施す。口唇部連続爪形文。D.石英、片岩、チャート。E.暗褐色。F.口縁部破片。H.擾乱内。
11	鏃	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ナデの後ミガキ。頸部外面に櫛描文(簾状文?)の痕跡あり。D.チャート、黒色粒。E.外-明黄褐色、内-黒褐色。F.口縁部破片。H.擾乱内。
12	鏃	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。D.片岩、チャート。E.外-暗赤褐色、内-暗黄褐色。F.口縁部破片。H.表採。

13	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.環状把手成形後、単節縄文(R L)を充填。内面丁寧なミガキ。D.片岩、雲母、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.口縁部把手破片。G.赤色塗彩が部分的に残る。H.複乱内。
14	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口唇部に横位降帯。半裁竹管状工具による縦位平行沈線。D.チャート、黒色鉱物。E.黒褐色。F.口縁部破片。H.第5号倒木痕。
15	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(L R)を縦位に施文。口縁部に弧状、頸部に横位単沈線を施す。D.石英、チャート。E.明黄褐色。F.破片。H.第2号倒木痕。
16	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.縦位・横位の単沈線及び結節沈線を施す。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.明黄褐色。F.破片。H.第5号倒木痕。
17	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.縦位降帯により区画。区画内は爪形文を充填。降帯脇には半裁竹管状工具による平行沈線。D.石英、チャート、片岩。E.明黄褐色。F.破片。H.第5号倒木痕。
18	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(L R)を横位施文。キサミを有する降帯を横位施文。D.チャート、片岩、黒色鉱物。E.暗赤褐色。F.破片。H.第2号倒木痕。
19	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.半裁竹管状工具による集合沈線一結節浮線文。D.石英、黒色鉱物。E.暗褐色。F.破片。H.第2号倒木痕。
20	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.キサミを有する降帯を横位施文。D.チャート、雲母、片岩、黒色鉱物。E.黒褐色。F.底部破片。H.第2号倒木痕。
21	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.複節縄文(R L R)を横位施文。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗灰褐色。F.破片。H.第2号倒木痕。
22	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部を横位降帯で区画し、横位降帯から垂下する降帯で弧状に区画。D.石英、チャート、片岩、黒色鉱物。E.橙色。F.口縁部破片。H.調査区内。
23	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部を横位降帯で区画し、それから垂下する降帯で弧状に区画。区画内は単節縄文(R L)を横位施文。D.石英、チャート、片岩、黒色鉱物。E.橙色。F.口縁部破片。H.調査区内。
24	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部を横位降帯で区画し、横位降帯から垂下する降帯で区画し、区画内は単節縄文(R L)を横位施文。D.石英、チャート、片岩、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.口縁部破片。H.調査区内。
25	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部を横位降帯で区画し、横位降帯から垂下する降帯で区画。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.口縁部破片。H.調査区内。
26	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(L R)を横位施文。縦位降帯。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗黄色。F.破片。H.調査区内。
27	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.弧状の降帯で区画。区画内には単節縄文(R L)を横位施文。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗黄色。F.破片。H.調査区内。
28	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(L R)を横位施文。縦位降帯。D.チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。H.調査区内。
29	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(L R)を横位施文。縦位降帯。D.チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。H.調査区内。
30	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単沈線により弧状に区画。区画内には単節縄文(R L)を横位施文。D.石英、チャート、片岩、黒色鉱物。E.暗黄色。F.破片。H.第3号倒木痕。
31	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(L R)を横位・縦位に施文。口縁部には横位の連続刺突。D.チャート、片岩。E.暗黄褐色。F.破片。H.調査区内。
32	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文(R L)を横位施文。口縁部に横位、胴部に弧状の単沈線を施す。D.チャート、雲母、黒色鉱物。E.黒褐色。F.破片。H.第2号倒木痕。
33	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.外面丁寧なミガキ。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.黒褐色。F.底部破片。H.第2号倒木痕。
34	深 鉢	B.粘土紐積み上げ。C.沈線により格子目状の文様を施す。D.チャート、黒色粒。E.暗黄褐色。F.破片。H.表採。
35	打製石斧	A.長さ13.6、幅5.1、厚さ2.3、重さ196.3g。C.直接打撃による両面調整。刃部周辺に顕著な磨耗痕。片面に自然面を残す。D.ひん岩。F.完形。H.表採。

36	打製石斧	A.長さ12.8,幅5.9,厚さ2.4,重さ183.6g。C.直接打撃による両面調整。全体に磨耗している。片面に自然面を残す。D.片岩。F.完形。H.複乱内。
37	打製石斧	A.長さ10.2,幅5.5,厚さ1.8,重さ115.9g。C.直接打撃による両面調整。右側縁に敲打痕。片面に自然面を残す。D.ひん岩。F.完形。H.表採。
38	打製石斧	A.残存長6.1,幅4.0,厚さ1.7,重さ56.4g。C.直接打撃による両面調整。表面に顕著な磨耗痕。片面に自然面を残す。D.ひん岩。F.1/2。H.表採。
39	打製石斧	A.残存長6.5,幅3.6,厚さ1.5,重さ50.43g。C.直接打撃による両面調整。表面の一部に磨耗痕。片面に自然面を残す。D.頁岩。F.1/2。H.複乱内。
40	打製石斧	A.長さ8.1,幅3.8,厚さ1.3,重さ47.4g。C.直接打撃による両面調整。片面に自然面を残す。D.頁岩。F.完形。H.表採。
41	打製石斧	A.残存長7.3,幅5.1,厚さ2.1,重さ99.4g。C.直接打撃による両面調整。表面の一部に磨耗痕。片面に自然面を残す。D.ひん岩。F.1/2。H.複乱内。
42	打製石斧	A.残存長8.9,幅5.2,厚さ2.3,重さ112.7g。C.直接打撃による両面調整。片面に自然面を残す。D.安山岩。F.1/2。H.複乱内。
43	打製石斧	A.残存長13.8,幅4.3,厚さ2.8,重さ281.9g。C.直接打撃による両面調整。全体に敲打痕・磨耗痕が顕著。片面に自然面を残す。D.緑色岩類。F.3/4。H.表採。
44	磨製石斧	A.残存長14.5,幅5.2,厚さ3.6,重さ412.9g。C.剥離痕・敲打痕が残存。刃部周辺はよく研磨されている。D.緑色岩類。F.ほぼ完形。H.表採。
45	磨製石斧	A.残存長14.6,幅6.3,厚さ3.7,重さ454.8g。C.表裏面は研磨による調整。両側縁の状半部は敲打痕のみ。D.安山岩。F.下半部折損。H.複乱内。
46	磨製石斧	A.残存長16.1,幅6.1,厚さ3.6,重さ480.1g。C.研磨はやや粗い。全体に敲打痕が残存。折損後に研磨を施した痕跡あり。D.緑色岩類。F.刃部折損。H.複乱内。
47	磨製石斧	A.残存長13.4,幅4.9,厚さ3.9,重さ405.7g。C.全体によく研磨されている。D.緑色岩類。F.下半部折損。H.表採。
48	スクレイパー	A.長さ11.1,幅4.4,厚さ1.3,重さ63.5g。C.薄型の縦長剥片の両側縁に加工を施し刃部とする。右側縁に微細剥離痕。片面に自然面を残す。D.頁岩。F.完形。H.第5号住居跡周辺。
49	スクレイパー	A.長さ11.5,幅3.2,厚さ0.9,重さ39.3g。C.薄型剥片の二側縁を直接打撃による両面調整。D.粘板岩。F.完形。H.表採。
50	磨石	A.残存長さ10.7,幅8.0,厚さ3.9,重さ470.7g。C.表面に擦痕。表裏面に磨耗痕と敲打痕。D.安山岩。F.下半部折損。H.表採。
51	スクレイパー	A.長さ8.1,幅5.0,厚さ2.4,重さ78.1g。C.横長剥片の周縁を加工し刃部とする。片面に自然面を残す。D.頁岩。F.完形。H.表採。
52	スクレイパー	A.長さ7.3,幅4.5,厚さ1.3,重さ33.4g。C.薄型の縦長剥片の側縁に加工を施し刃部とする。片面に自然面を残す。D.頁岩。F.完形。H.第5号住居跡周辺。
53	磨石	A.長さ9.1,幅6.9,厚さ5.7,重さ441.9g。C.全体に顕著な磨耗痕。上下端・側縁に敲打痕。D.安山岩。F.完形。H.複乱内。
54	スクレイパー	A.長さ5.1,幅8.2,厚さ2.1,重さ82.4g。C.縦長剥片の両側縁に加工を施し刃部とする。刃部縁に微細剥離。片面に自然面を残す。D.頁岩。F.左端部折損。H.表採。
55	多孔石	A.残存長16.3,幅16.7,厚さ13.5,重さ3050.0g。C.全体に凹穴多数。D.輝石安山岩。F.上半部折損。H.第1号埋設土器周辺。
56	石 鏃	A.残存長2.6,幅1.6,厚さ0.5,重さ1.22g。C.凹基無茎鏃。浅いU字状の袈りを持つ三角鏃。D.チャート。F.先端部欠損。H.表採。
57	石 鏃	A.長さ2.4,幅1.6,厚さ0.4,重さ1.12g。C.調整粗い。D.チャート。F.2/3。H.表採。
58	石 鏃	A.長さ1.7,幅1.4,厚さ0.3,重さ0.43g。C.凹基無茎鏃。浅いU字状の袈りを持つ三角鏃。D.チャート。F.右脚端部折損。H.表採。

59	石 鐮	A.残存長2.2、幅1.5、厚さ0.51、重さ1.92g。C.凹基無茎鐮。浅いU字状の袢りを持つ三角鐮。D.黒曜石。F.先端部・右脚折損。H.表採。
60	石 鐮	A.長さ2.2、幅1.4、厚さ0.3、重さ0.86g。C.凹基無茎鐮。浅いU字状の袢りを持つ三角鐮。D.チャート。F.完形。H.表採。
61	石 鐮	A.長さ1.6、幅1.5、厚さ0.65、重さ0.85g。C.凹基無茎鐮。浅いU字状の袢りを持つ三角鐮。D.チャート。F.完形。H.表採。
62	石 鐮	A.残存長2.25、幅1.8、厚さ0.35、重さ0.79g。C.凹基無茎鐮。浅いU字状の袢りを持つ三角鐮。D.黒色頁岩。F.両脚部欠損。H.表採。
63	石 鐮	A.残存長1.9、幅1.4、厚さ0.45、重さ1.01g。C.凹基無茎鐮。調整粗い。D.チャート。F.完形。G.未製品の可能性あり。H.表採。
64	石 鐮	A.残存長1.6、幅1.5、厚さ0.4、重さ0.61g。C.凹基無茎鐮。浅いU字状の袢りを持つ三角鐮。D.チャート。F.先端部欠損。H.表採。
65	石 鐮	A.長さ2.1、幅1.65、厚さ0.6、重さ1.58g。C.平基無茎鐮。D.チャート。F.完形。H.表採。
66	石 鐮	A.長さ1.5、幅1.3、厚さ0.5、重さ0.72g。C.平基無茎鐮。D.黒曜石。F.完形。H.表採。
67	石 造	A.残存長3.3、残存幅3.0、厚さ0.8、重さ8.74g。C.縦長剥片の両側縁に加工を施し刃部とする。D.チャート。F.2/3。H.表採。
68	磨製石鐮	A.長さ4.0、幅2.3、厚さ0.3、重さ4.45g。C.表裏面ともやや粗い調整痕。D.千枚岩。F.完形。H.表採。
69	磨製石鐮	A.残存長2.2、残存幅1.7、厚さ0.25、重さ0.64g。C.表裏面とも研磨。D.粘板岩。F.下半部折損。H.表採。
70	磨製石鐮	A.残存長2.4、残存幅1.3、厚さ0.2、重さ0.53g。C.表裏面とも研磨。D.粘板岩。F.1/2。H.表採。
71	磨製石鐮	A.残存長2.2、残存幅0.7、厚さ0.2、重さ0.41g。C.表裏面とも研磨。D.粘板岩。F.片脚部のみ。H.表採。
72	耳 飾	A.直径1.4、高さ1.4。B.手捏ね。C.外面ナテ。D.角閃石、チャート。E.暗赤褐色。F.ほぼ完形。H.表採。

(恋河内昭彦)

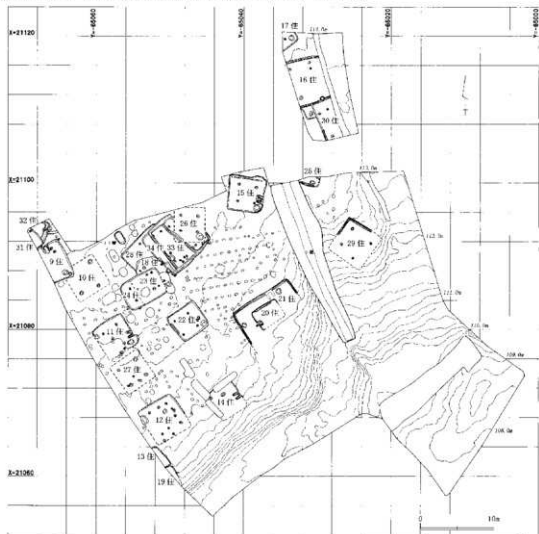


第Ⅳ章 塩谷下大塚遺跡E地点の発掘調査

第1節 遺跡の概要

塩谷下大塚遺跡は、上武山地から半島状に延びた児玉丘陵の一支丘の先端部付近にあたり、標高115m付近に立地する縄文時代から古墳時代の集落跡である。

発掘調査は、平成14年度の県営中山間総合整備事業（篠の池下地区）に先立つ埋蔵文化財保存事業として実施したものである。埼玉北部用水児玉幹線水路建設に伴って「塩谷地区遺跡」として調査した地点をA地点(菅谷・駒宮1973)、児玉町教育委員会により個人住宅建設に伴い調査をした地点をB地点(恋河内1990)、農道改良工事に伴い調査をした地点をC地点、及び本報告のE地点、それ以前に児玉町遺跡調査会によりアパート建設に伴い調査をした地点をD地点(徳山2000)など、5次にわたり発掘調査が実施されている(第2図)。



第69図 塩谷下大塚遺跡E地点全体図

更に発掘調査は、ほ場整備事業が施工される範囲の中でも取り分け削平される範囲について限定して実施した。しかし、調査を実施した範囲は、丘陵先端付近の平坦面であるほかに、表土が浅く、耕作が行われていたため、遺構の遺存状態はあまり良好ではなかった。

今回報告するE地点で検出された遺構は、住居跡が26軒、土壇1基、堀跡1条である。縄文時代の遺構は、住居跡2軒である。住居跡は、中央北側で検出された。遺存状態が悪く検出された形状から、C地点で見られた前期中葉頃のものと思われる。

古墳時代の遺構は、住居24軒、土壇は1基である。時期は、古墳時代前期1軒、中期から後期23軒である。前期の住居跡は調査区の西側にある。中期から後期の住居跡は、調査区に全面展開している。遺構の重複関係が見られることから、ある程度の時間幅をもつ継続的な集落であったことが窺える。

中世の遺構は、堀跡が検出されているが遺物が少ないため、明確な時期は不明であるが、中世以降から近世前半頃ではないかと考えられる。

出土遺物は、和泉・鬼高期の土師器が主体のほか、弥生土器、縄文土器などが出土している。

第2節 検出された遺構と遺物

1. 住居跡

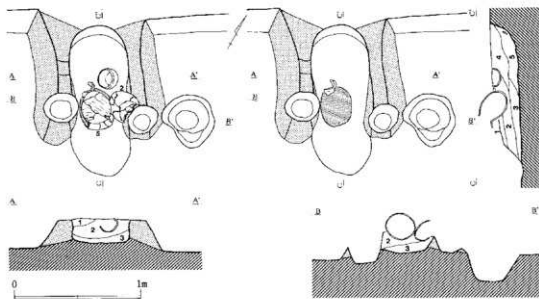
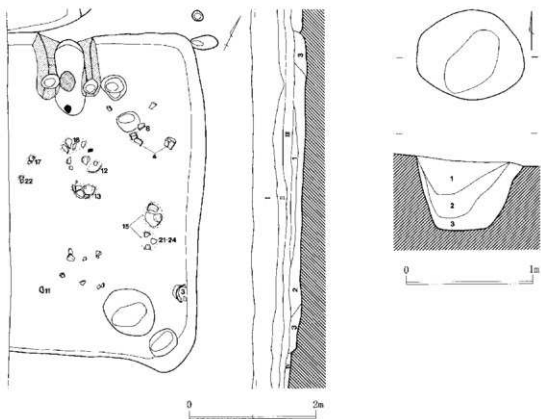
第9号住居跡（第70図、図版35-1）

本住居跡は、調査区の西側に位置している。南側には第11号住居跡が近接している。重複する第10・31・32号住居跡を切っている。住居跡の西側が調査区外であるため本住居跡の全容は不明であるが、遺構の遺存状態は比較的良好である。

平面形は、調査区内で検出された住居跡の壁とコーナー部分より、東南のコーナーに張り出しをもつ、形の整った方形もしくは長方形を呈すると考えられる。規模は、南北方向5.44m、東西3.12mを測れる。

壁は、南壁と東壁は緩やかに立ち上がるが、北壁はやや垂直に立ち上がる。確認面からの深さは20cm程である。各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックと暗褐色土を主体とする貼り床である。全体的にやや軟質であるが、住居の中央部は硬くしまっている。比較的平坦であるが、住居の中央部に比べると、住居周辺部の壁際は若干窪んでいる。貯蔵穴は、東南のコーナー付近に位置している。規模は84cm×72cmで楕円形の形態を呈している。床面からの深さは、55cm程測る。遺物は、何も出土していない。

カマドは、住居北側壁の中央からやや東壁よりの位置に、壁に対して直角に構築されている。すでに天井部は崩壊し、煙道部は削平されており、燃焼部だけが残存している。残存する部分での規模は、全長125cm、最大幅105cmである。両袖ともに後世のビットにより切られているが、左右とも明灰褐色粘質土を住居の壁に貼り付け、袖幅は左右ともに33cm程あり比較的厚く作られている。燃焼部は、比較的良く焼けて赤色化しており、中央やや奥の左側寄りの位置に、土製支脚（No.18）が据えられている。焚口部の掘り込みは浅く、燃焼面はカマド構築当初は住居床面とほぼ同じ高さ



第70图 第9号住居跡

であったが、焚口部から煙道部に向かっている。土器の据え方は、No2とNo5の甕を横に並べた2個併置きである。

出土遺物は、甕・小形甕・高坏・台付甕・小形甕・坏(第71・72図)などが、カマド内およびカマド周辺の住居北東壁付近の床面や覆土中から比較的多く出土している。これらの土器は、比較的完形に近いものが多く、その出土状態から本住居内で使用されていたものが、住居の廃絶に伴って遺棄されたと考えられる。

第9号住居址土層説明

- 第I層：茶褐色土層 浅間山系A軽石を多量に含む。ローム粒子・マンガン粒子を少量含む。しまりは強いが、粘性はほとんどない。現耕作土。
- 第II層：暗褐色土層 浅間山系A軽石・白色粒・マンガン粒子を多量に、ローム粒子・ローム小ブロック・砂礫を少量含む。しまりは強いが、粘性は弱い。
- 第III層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒子・ローム小ブロック・マンガン粒子・褐色シルト粒を多量に含む。しまり・粘性共に強い。
- 第IV層：黄褐色土層 ソフトローム層 白色粒子を均一、灰茶褐色土層を多く含む。しまり、粘性はやや強い。
- 第1層：黒褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒子を疎らに含む。ロームブロック・焼土粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。
- 第2層：暗灰褐色土層 白色粒子を均一、ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
- 第3層：褐色土層 ローム粒子を均一、マンガン粒・焼土粒子を微量含む。しまり、粘性やや強い。

第9号住居址カマド土層説明

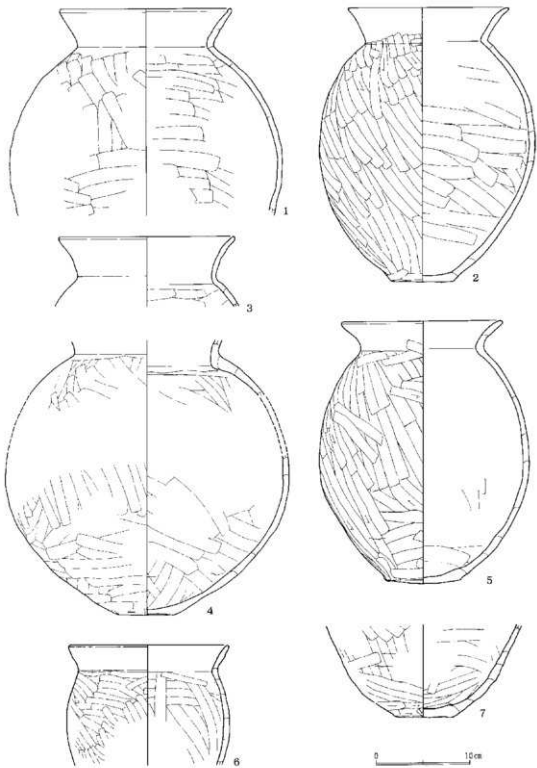
- 第1層：暗褐色土層 ローム粒を均一に含む。しまりはやや弱い、粘性は普通。
- 第2層：暗赤褐色土層 暗褐色土を主体とし、焼土ブロック粒、粘土粒を少量含む。しまりはやや弱い、粘性は普通。
- 第2'層：暗赤褐色土層 粘土粒、ローム小ブロックを均一に含む。
- 第3層：暗赤褐色土層 暗褐色土を主体とし、焼土小ブロックを少量含む。しまりは弱く、粘性はなし。
- 第4層：暗褐色土層 ローム粒を少量含む。

第9号住居址貯蔵穴土層説明

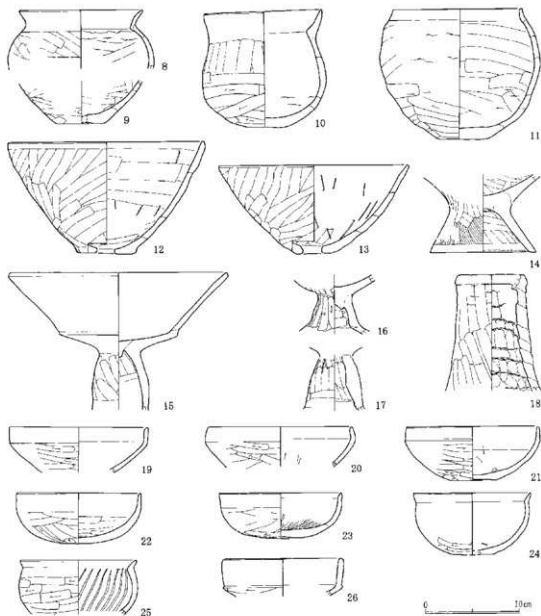
- 第1層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、ロームブロック・炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共に強い。
- 第2層：暗褐色土層 ローム粒子を多量、ローム小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
- 第3層：暗褐色土層 ローム粒子を多量、ロームブロックを微量に含む。しまり、粘性共に強い。

第9号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口径(18.0)。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面縦ナデ。D.片岩、黒色粒。E.外-暗褐色、内-暗黄褐色。F.口縁部~胴部上半。H.覆土。
2	甕	A.口径(16.9)、器高29.0、底径6.7。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦ケズリの後下半縦ナデ。内面縦ナデ。底部外面縦ケズリ。D.片岩、チャート、角閃石。E.外-橙色、内-明赤褐色。F.ほぼ完形。H.カマド内。
3	甕	A.口径(18.3)。B.粘土継積み上げ。C.口縁部ヨコナデ。胴部内外面縦ナデ。D.片岩、チャート。E.内外-暗褐色。F.口縁部破片。H.床面直上。
4	甕	A.底径5.8。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面縦ナデ。D.片岩、チャート。E.外-暗褐色、内-暗黄褐色。F.1/3。H.床面付近。
5	甕	A.口径(16.6)、器高27.7、底径7.8。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦ケズリ。内面縦ナデ。底部外面縦ケズリ。D.片岩、チャート。E.外-黒褐色、内-灰黄褐色。F.3/4。H.カマド内。
6	甕	A.口径(16.7)。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面縦ナデ。D.片岩、白色粒。E.外-暗褐色、内-褐色。F.胴部上半のみ。H.覆土。
7	甕	A.底径6.0。B.粘土継積み上げ。C.胴部内外面縦ナデ。底部外面縦ケズリ。D.片岩、チャート。E.内外-灰褐色。F.胴部下半のみ。H.覆土。
8	小形甕	A.口径(13.0)。B.粘土継積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面縦ナデ。D.片岩、チャート。E.外-褐色、内-灰褐色。F.口縁部~胴部上半のみ。H.床面直上。



第71图 第9号住居跡出土遺物(1)



第72図 第9号住居跡出土遺物(2)

9	甕	A. 底径(5.0). B. 粘土紐積み上げ. C. 胴部内外面篋ナデ. D. 片岩、チャート. E. 内外一暗赤褐色. F. 底部破片. H. 覆土。
10	小形甕	A. 口径12.3, 器高12.3, 底径4.1. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ, 胴部外面篋ケズリ, 内面篋ナデ. 底部内外面篋ナデ. D. 片岩、チャート. E. 外一暗褐色, 内一黒褐色. F. 2/3. H. カマ下内。
11	鉢	A. 口径13.6, 器高13.8, 底径5.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部外面篋ナデの後下半ケズリ, 内面篋ナデ. 底部外面篋ケズリ. D. 片岩、白色粒. E. 外一暗褐色, 内一暗赤褐色. F. 完形. H. 覆土。
12	小形甕	A. 口径20.6, 器高11.8, 底径6.1. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 胴部内外面篋ナデ. D. 片岩、チャート. E. 内外一暗赤褐色. F. 2/3. H. 床面直上。

13	小形甕	A.口径19.8、器高9.4、底径4.4。B.粘土紐積み上げ。C.内外面瓦ナデ。D.片岩、チャート。E.外-暗黄褐色、内-暗褐色。F.完形。H.床面直上。
14	台付甕	A.台端部径(11.0)。B.粘土紐積み上げ。C.胴部内外面瓦ナデ。台部外面ハケ、内面瓦ナデ。台端部ヨコナデ。D.片岩、角四石。E.外-暗黄褐色、内-黄灰色。F.台部破片。H.覆土。
15	高 环	A.口径22.8。B.粘土紐積み上げ。C.环部内外面ヨコナデ。脚部外面瓦ナデ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-明赤褐色。F.2/3。H.床面付近。
16	高 环	B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面瓦ナデ、内面瓦ナデ。脚部内外面ヨコナデ。D.角四石、チャート。E.内外-明赤褐色。F.1/3。H.床面付近。
17	高 环	B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面瓦ナデの後ミガキ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-明赤褐色。F.脚部のみ。H.床面付近。
18	土製支脚	A.上端径(6.8)。B.粘土紐輪積み。C.内外面ナデ。D.片岩、白色粒。E.外-暗黄褐色、内-暗褐色。F.1/3。H.二次焼成を受けている。H.覆土。
19	环	A.口径(14.6)。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面瓦ナデ、内面瓦ナデ。D.片岩、チャート。E.外-明赤褐色、内-明褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
20	环	A.口径(15.0)。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面瓦ナデ、内面瓦ナデ。D.白色粒、赤褐色粒。E.内外-暗褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
21	环	A.口径(13.8)、器高5.7、底径(4.8)。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面瓦ナデ、内面瓦ナデ。D.石英、黒色粒。E.内外-赤褐色。F.1/6。H.床面付近。
22	环	A.口径(13.0)、器高5.4。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面瓦ナデ、内面瓦ナデ。D.角四石、白色粒。E.外-暗褐色、内-褐色。F.1/6。H.床面付近。
23	环	A.口径12.8、器高4.9、底径3.0。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面瓦ナデ、内面ナデの後ミガキ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-明赤褐色。F.2/3。H.覆土。
24	环	A.口径(12.3)、器高6.5、底径(4.4)。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後下廻瓦ナデ、内面瓦ナデ。D.片岩、チャート。E.外-明赤褐色、内-灰黄褐色。F.1/3。H.床面付近。
25	环	A.口径(12.2)。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面ナデの後瓦ナデ、内面ナデの後縦位ミガキ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-明赤褐色。F.1/4。H.覆土。
26	环	A.口径(12.4)。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面瓦ナデ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-明赤褐色。F.口縁部破片。H.覆土。

第10号住居跡 (第74図、図版35-5)

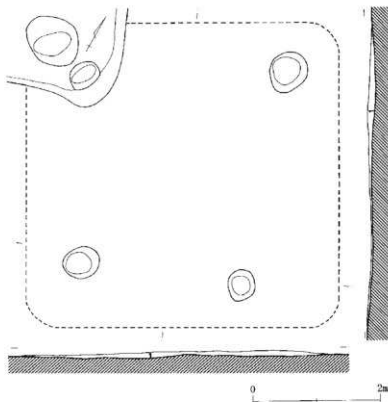
本住居跡は、調査区の西側に位置している。北側には第31・21号住居跡、南側には第11号住居跡が近接している。重複する第9号住居跡に切られている。本住居跡は、遺存状態はかなり悪く、すでに住居跡の床面付近まで削平され、明瞭な掘り込みもほとんど確認できず、かろうじて床面と柱穴と思われるピットが残存していたような状態であり、その全容は不明である。

平面形は、残存する床面と柱穴と思われるピットから推測すると、方形を呈すると思われる。規



第73図 第10号住居跡出土遺物

模は、一辺が4.9m位と考えられる。壁は、ほとんど残存していないが、確認面からの深さは2cm程度である。各壁下には、壁溝は見られない。床面は、ロームブロックと暗褐色土を主体とする貼り床である。貼り床は、比較的平坦には作られているが、壁



第74図 第10号住居跡

に近くなるにつれ、住居周辺部の壁際は若干窪んでいる。覆土は、暗褐色土を主体にして、ローム粒子、白色粒子などを含む。

出土遺物は、遺存状態がかなり良くないため、弥生代後期から古墳時代前期と思われる土器片が少量出土しただけである。

第10号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒子を疎らに含む。ロームロームブロック・焼土粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。

第10号住居跡出土遺物観察表

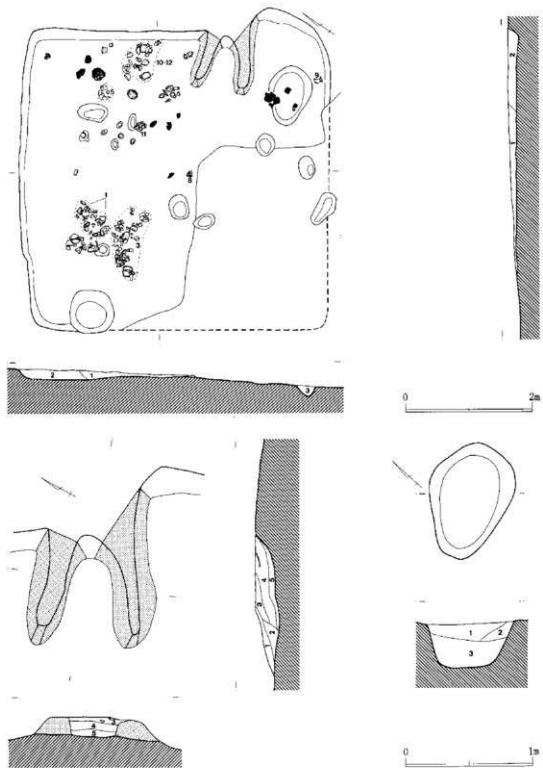
1	壺	A.口径(10.8)。B.粘土細積み上げ。C.口縁部外面ハケの後ヨコナデ、内面ヨコナデ。胴部外面ハケの後ミガキ、内面竈ナデ。D.チャート、黒色粒。E.内外-暗黄褐色。F.口縁~胴上半のみ。H.床面直上。
2	甕	B.粘土細積み上げ。C.胴部外面ハケの後肩部横線、内面ナデ。D.角閃石、チャート。E.内外-暗赤褐色。F.胴部破片。H.床面直上。

第11号住居跡 (第75図、図版35-6・7)

本住居跡は、調査区の西側に位置している。北側には第9号住居跡が、南側には第27号住居跡が近接している。住居跡の南西側の一部は床面付近まですでに削平され、かろうじて住居跡が残っていたような状態で、さらにカマドの右側なども擾乱をうけているため、遺存状態は良好ではなく、全容は不明である。

平面形は、残存する住居の壁とコーナー部より、方形を呈していると思われる。規模は、南東から北西方向は4.74m、北東から南西方向は5mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは18cmを測る。各壁下には、壁溝は見られない。

床面は、ロームブロックと暗褐色土を主体にした貼り床である。貼り床は、比較的平坦に作られているが、住居の中央部に比べると、住居周辺部の壁際は若干窪んでいる。全体的にやや軟質であるが、カマドの前と住居中央はかなり硬くしまっている。貯蔵穴は、カマドの右側に位置し、規模



第75图 第11号住居跡

は65cm×90cmで楕円形の形状を呈している。床面からの深さは、34cm程ある。南壁には、一部であるが白色粘土が貼り付けられていた。

カマドは、住居北東壁のやや右寄りの位置に、壁に対して垂直気味に構築されている。すでに天井部は崩壊し、煙道部は削平されており、燃焼部だけが残存している。残存する部分での規模は、全長146cm、最大幅100cmである。袖は、明褐色粘質土を住居の壁に被覆し、袖幅は左右ともに33cm～35cm程あり比較的厚く作られている。燃焼部は、焼けて赤色化している。焚口部の掘り込みは浅く、燃焼面はカマド構築当初は住居床面とほぼ同じ高さで、焚口部から煙道部に向かっている。

出土遺物は、壺・甕・小形甕・大形甕・高坏・坏などが、住居内中央の床面、カマド、および貯蔵穴の周辺などから比較的多く出土している。これらの土器は、比較的完形に近いものも多く、その出土状態から本住居内で使用されたものが、住居の廃絶に伴って遺棄されたと考えられる。

第11号住居土層説明

第1層：暗褐色土層 ローム粒子を多量、ローム小ブロックを均一、炭化物粒子・ロームブロックを少量、白色粒子を微量含む。しまり、粘性共に強い。

第2層：暗褐色土層 ローム粒子をやや均一、ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子を少量、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共に強い。

第3層：暗褐色土層 ローム粒子を多量に、ロームブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。

第11号住居カマド土層説明

第1層：灰褐色土層 ローム粒子を多量、焼土粒子を均一、焼土小ブロック・炭化物粒子を少量含む。しまりはあるが、粘性はあまりない。

第2層：暗灰褐色土層 ローム粒子を多量、焼土粒子を均一、炭化物小ブロックを少量含む。しまりはあるが、粘性はあまりない。

第3層：暗赤褐色土層 焼土粒子を均一、焼土ブロックを多量、灰褐色粒子を含む。しまりはあるが、粘性はほとんどない。

第4層：暗褐色土層 焼土粒子を均一、焼土ブロック・ロームブロックを少量含む。しまりはあるが、粘性はほとんどない。

第5層：暗茶褐色土層 焼土粒子を均一、焼土小ブロック・ローム粒子を少量含む。しまりはあるが、粘性はほとんどない。

第11号住居貯蔵穴土層説明

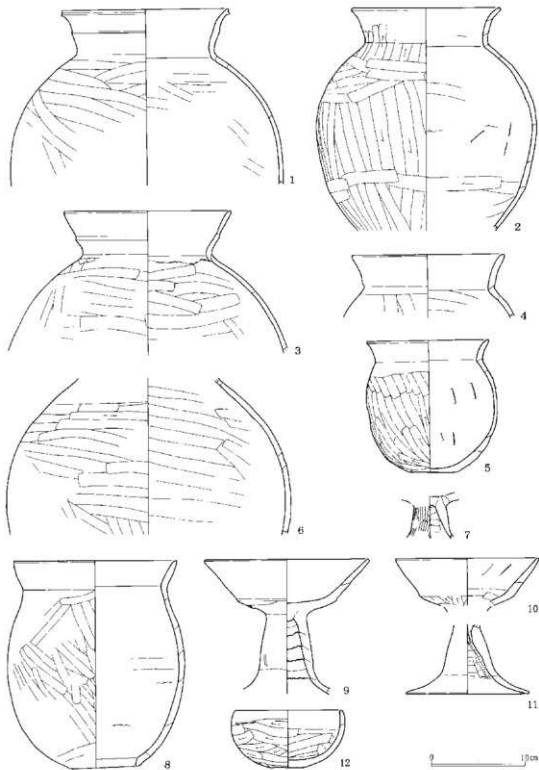
第1層：暗褐色土層 ローム粒を多量、ローム小ブロックを均一、ロームブロック・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。

第2層：白色シルト層 貼付。ロームブロック・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。

第3層：黒褐色土層 ローム粒子を均一、炭化物ブロック・ロームブロック・ローム小ブロック少量含む。しまり、粘性共に強い。

第11号住居跡出土土物観察表

1	壺	A.口径(17.3)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部内外面縦ナテ。D.チャート、黒色粒。E.外-黒褐色、内-黄灰色。F.口縁～胴上半のみ。H.床面直上。
2	甕	A.口径(15.4)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部外面縦ケズリ後ナテ、内面縦ナテ。D.片岩、チャート。E.外-暗褐色、内-褐色。F.1/3。H.床面直上。
3	壺	A.口径(17.4)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部外面縦ケズリ、内面縦ナテ。D.片岩、チャート。E.外-暗黄褐色、内-黒褐色。F.口縁～胴上半のみ。H.床面直上。
4	甕	A.口径16.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部内外面縦ナテ。D.チャート、黒色粒。E.内外-暗褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
5	小形甕	A.口径12.8。器高13.9。底径5.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部外面縦ナテ後下半ケズリ、内面縦ナテ。D.片岩、チャート。E.内外-暗褐色。F.2/3。H.床面直上。
6	壺	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面縦ケズリ、内面縦ナテ。D.片岩、チャート。E.外-暗黄褐色、内-褐灰色。F.胴上半のみ。H.覆土。

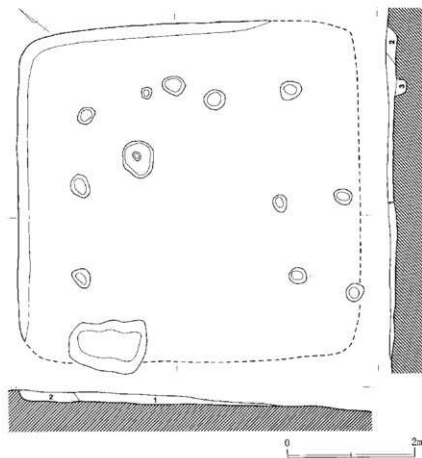


第76图 第11号住居跡出土遺物

7	高 坏	B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面ミガキ、内面葺ナデ。D.チャート、黒色粒。E.内外一暗赤褐色。F.脚部破片。H.覆土。
8	大形 甕	A.口径(17.3)、器高21.9、底径7.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面葺ナデ。D.片岩、チャート。E.外一橙色、内一暗褐色。F.2/3。H.床面直上。
9	高 坏	A.口径(17.4)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部内外面ナデ。脚部外面ナデの後ミガキ、内面ナデ。脚部内外面ヨコナデ。D.角閃石、白色粒。E.内外一橙色。F.1/4。H.貯蔵穴内。
10	高 坏	A.口径(15.1)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。坏部外面葺ケズリ、内面葺ナデ。D.片岩、チャート。E.内外一明赤褐色。F.口縁部破片。H.床面直上。
11	高 坏	A.脚端部径(13.0)。B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面ナデ、内面葺ケズリ。脚端部内外面ヨコナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一橙色。F.脚部のみ。H.床面直上。
12	坏	A.口径11.2、器高6.1、底径3.6。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面葺ケズリ、内面葺ナデ。D.片岩、チャート。E.外一暗褐色。F.2/3。H.床面直上。

第12号住居跡 (第77図、図版36-1)

本住居跡は、調査区の西側に位置している。北側には第11号住居跡が、東側には第14号住居跡が近接している。本住居跡は、すでに住居跡の床面付近まで削平されており、かろうじて住居跡が



残存していたような状態であった。

平面形は、残存していた北西から北東壁とコーナー部分から推測する

第12号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層

ローム粒子を多量に含む。ロームブロック・炭化物粒子・炭化物小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。

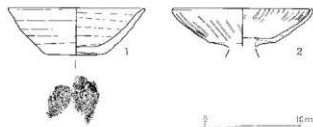
第2層：暗褐色土層

ローム粒子を均一、ローム小ブロック・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。

第3層：暗褐色土層

ローム粒子を多量、ローム小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。

第77図 第12号住居跡



第78図 第12号住居跡出土遺物

比較的平坦に作られているが、住居の中央部に比べると、住居周辺部の壁際は若干窪んでいる。また、全体的に硬くしまっているが、住居周辺部の壁際はやや軟質である。覆土は、暗褐色土を主体として、ローム粒子、ローム小ブロックを含む。

出土遺物は、住居周辺部の覆土中より須恵器や土師器が少量だが出土している。

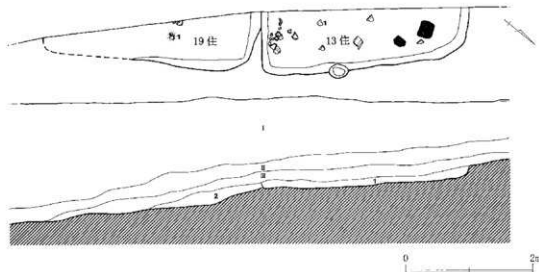
第12号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器坏	A.口径14.4、器高5.0、底径5.8、B.口縁成形。C.体部回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.雲母、白色粒。E.外-暗黄褐色、内-橙色。F.ほぼ完形。H.覆土。
2	高 坏	A.口径(14.6)。B.粘土凝積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデの後ミガキ。D.チャート、黒色粒。E.内外-明赤褐色。F.坏部破片。H.覆土。

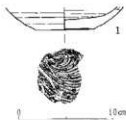
第13号住居跡 (第79図、図版36-2)

本住居跡は、調査区の西側に位置している。北側には第12号住居跡が隣接する。重複する第19号住居跡を切っている。住居跡のほとんどが調査区外であるため、本住居跡の全容は不明であるが、遺構の遺存状態は、比較的良好である。

平面形は、調査区内で検出された住居跡の壁とコーナー部分より、方形ないしは長方形を呈して



第79図 第13・19号住居跡



第80図 第13号住居跡出土遺物

いると思われる。規模は、南東から北西方向は3.3m、南西から北東方向は1.05mを測る。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cm程である。壁下に、壁溝はみられない。

床面は、ロームブロックと暗褐色土を主体にした貼り床である。貼り床は、比較的平坦に作られているが、住居跡の中央付近から壁周辺が若干高くなっているようである。調査区内で検出された部分が周辺部の壁際に近いめかやや軟質である。覆土は、暗褐色土を主体としてローム粒子、白色粒子・マンガン粒子・褐色シルト粒などを含む。

出土遺物は、住居周辺部の覆土中より須恵器や土師器の破片が出土している。

第13・19号住居跡土層説明

- 第1層：茶褐色土層 浅間山系A軽石を多量に含む。ローム粒子・マンガン粒子を少量含む。しまりは強いが、粘性はほとんどない。現耕作土。
- 第2層：暗褐色土層 浅間山系A軽石・白色粒・マンガン粒子を多量に、ローム粒子・ローム小ブロック・砂礫を少量含む。しまりは強いが、粘性は弱い。
- 第3層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒子・ローム小ブロック・マンガン粒子・褐色シルト粒を多量に含む。しまり・粘性共に強い。
- 第1層：暗褐色土層 ローム粒子を多量、ローム小ブロックを均一に、焼土粒子・マンガン粒子を微量に含む。しまり・粘性共に強い。
- 第2層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒子・ローム小ブロック・マンガン粒子・褐色シルト粒を多量に含む。しまり・粘性共に強い。

第13号住居跡出土遺物観察表

1	須恵器環	A.底径(6.2)。B.ロクロ成形。C.体部回転ナデ。底部外面回転糸切り。D.雲母、白色粒。E.内外一棕色。F.1/4。H.覆土。
---	------	---

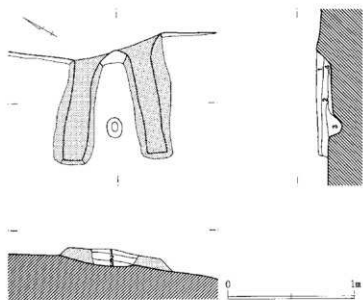
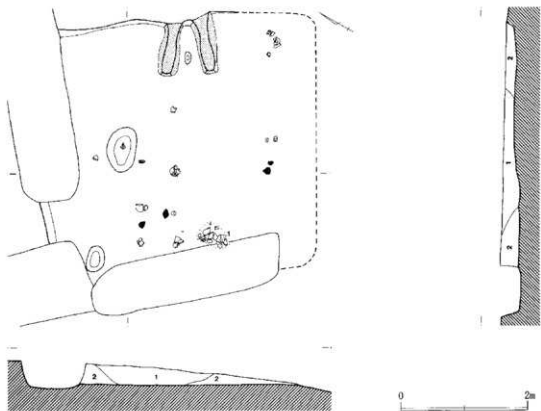
第14号住居跡 (第81図、図版36-3)

本住居跡は、調査区の南側に位置している。西側には第12・13・19号住居跡が、北側には第22号住居跡、東側には第20・21号住居跡が近接している。すでに住居跡の床面付近まで削平されており、かろうじて住居跡が残存していたような状態である。さらに攪乱をうけているため、あまり遺存状態は良好ではなく、その全容は不明である。

平面形は、残存していた部分から推測すると方形を呈していると思われる。規模は、南西方向は4.2m、北東方向は、4.4mを測る。壁は、残存部から推測すると緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは30cm程である。壁下には壁溝はみられない。

床面は、ロームブロックと暗褐色土を主体にした貼り床である。貼り床は、比較的平坦に作られているが、住居の中央部やカマド周辺に比べると、住居周辺部の壁際は若干窪んでいる。また、住居の中心部や、カマドの周辺は硬くしまっているが、住居周辺部の壁際は比較的柔らかい。覆土は、暗褐色土を主体としてローム粒子、ローム小ブロックを含む。

カマドは、住居北西壁の中央の位置に、壁に対してやや斜めに構築されている。すでに天井部は崩壊し、煙道部は削平されており、燃焼部だけが残存している。残存する部分での規模は、全長1m10cm、最大幅94cmである。袖は、明褐色粘質土を住居の壁に被覆し、袖幅は左右ともに32cm程あり比較的厚く作られている。燃焼部は、焼けて赤色化している。焚口部の掘り込みは浅く、燃焼面



第81图 第14号住居跡

第14号住居跡土層説明

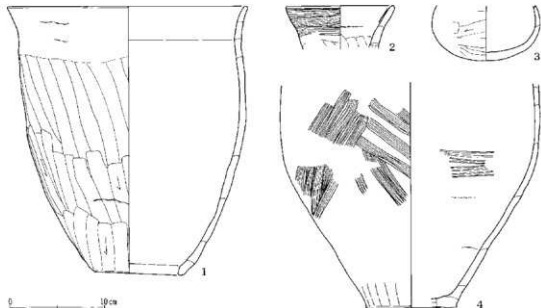
- 第1層：暗褐色土層 ローム粒子を多量、ローム小ブロックを均一、ロームブロックを少量、焼土粒子を微量含む。しまりは、粘性共に強い。
- 第2層：暗褐色土層 ローム粒子を多量、ローム小ブロックを均一、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。

第14号住居カマド土層説明

- 第1層：暗褐色土層 灰褐色土を多く含む、焼土ブロック、焼土粒子、炭化物小ブロックを少量含む。しまりは強いが、粘性はほとんどない。
- 第2層：暗褐色土層 焼土粒子を多量、焼土ブロック、ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。しまりは強いが、粘性はほとんどない。
- 第3層：茶褐色土層 ローム粒子、焼土粒子を均一、炭化物粒子を少量含む。しまりは強いが、粘性はほとんどない。
- 第4層：暗茶褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を均一、ロームブロック（径5mm）を少量含む。しまりは強いが、粘性はあまりない。

はカマド構築当初は住居床面とはほぼ同じ高さで、焚口部から煙道部に向かっている。

出土遺物は、壺・小形甕・大形甕・高坏・坏などが、住居周辺の壁およびカマドの周辺の床面付近などから比較的多く出土している。これらの土器は、比較的完形に近いものも見られる。その出土状態から本住居内で使用されていたものが、住居の廃絶に伴って遺棄されたと考えられる。



第82図 第14号住居跡出土遺物

第14号住居跡出土遺物観察表

1	大形甕	A.口径25.3、器高28.3、底径9.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面縦ケズリ、内面ナデ。D.片岩、白色粒。E.外-橙色、内-暗黄褐色。F.1/2。H.床面付近。
2	壺	A.口径11.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ハケの後下半ナデ、内面ヨコナデ後下半ナデ。D.チャート、白色粒。E.外-赤褐色、内-橙色。F.1/5。H.カマド内。
3	小形壺	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面縦ケズリ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-明褐色。F.1/4。H.カマド内。
4	甕	A.底径(9.6)。B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面縦ナデの後4本歯の櫛描縦走羽状文を施す。内面ハケの後ナデ。D.チャート、白色粒。E.外-暗黄褐色、内-暗褐色。F.1/3。H.覆土。

第15号住居跡（第83図、図版36-7）

本住居跡は、調査区の北側に位置している。西側には第26号住居跡が、東側には第1号堀跡が近接している。すでに住居跡の床面付近まで削平されており、かろうじて住居跡が残存していたような状態であるが、本地点での遺構の遺存状態は比較的良好である。

平面形は、北東コーナー付近に張り出しをもつ、比較的整った方形を呈している。規模は、東西方向は5.4m、南北方向は4.44mを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは12cmである。壁溝は、住居北壁下だけに見られる。

床面は、ロームブロックと黒褐色土を主体にした貼り床である。貼り床は、住居の中央部に比べると、起伏をもち住居周辺部は若干窪んでいる。また、住居の中央部やカマドの周辺は硬くしまっているが、全体的には比較的柔らかい。覆土は、暗褐色土を主体としローム粒子、ローム小ブロックを含む。

貯蔵穴は、南東のコーナー付近に位置している。規模は76cm×87cmの楕円形の形態を呈している。床面からの深さは、深さは38cm程測る。

カマドは、住居東壁の中央から南寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に構築されている。すでに天井部は崩壊し、煙道部は削平されており、燃焼部だけが残存している。残存する部分での規模は、全長111.2cm、最大幅112.4cmである。袖は、明褐色粘質土を住居の壁に被覆し、袖幅は左右ともに31cmから37cm程あり比較的厚く作られている。燃焼部は、焼けて赤色化している。焚口部の掘り込みはやや深く、燃焼面はカマド構築当初は住居床面とほぼ同じ高さで、焚口部から煙道部に向かっている。

出土遺物は、甕・高坏・坏・長頸甕など比較的多く出土している。住居周辺の壁およびカマドの周辺の床面付近などから比較的多く出土している。これらの土器は、比較的完形に近いものも多く、その出土状態から本住居内で使用されたものが、住居の廃絶に伴って遺棄されたと考えられる。

第15号住居跡土層説明

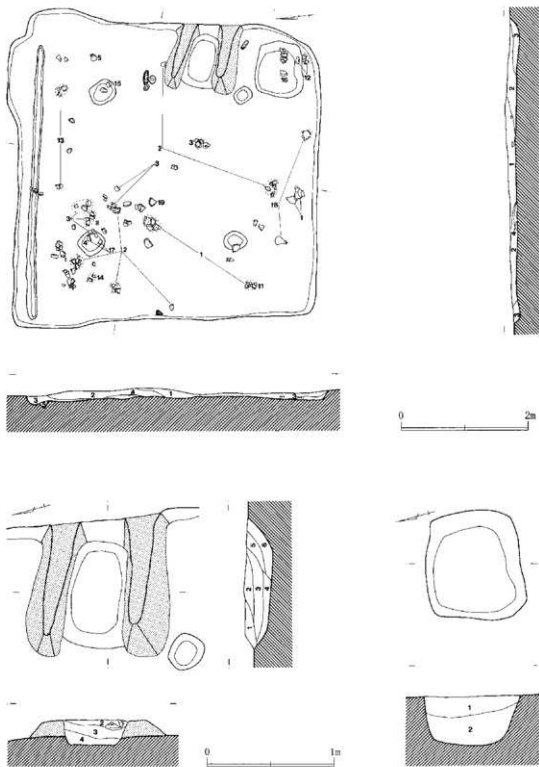
- 第1層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロックを微量、ロームブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
- 第2層：暗褐色土層 ローム小ブロックを均一、ロームブロック・白色粒子を少量、炭化物粒子を微量含む。しまり、粘性共に強い。
- 第3層：暗褐色土層 ローム粒子を多量、ローム小ブロックを均一、焼土粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。
- 第4層：暗褐色土層 炭化物粒子を均一、ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
- 第5層：暗黒褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。

第15号住居跡貯蔵穴土層説明

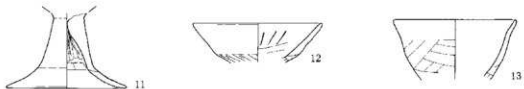
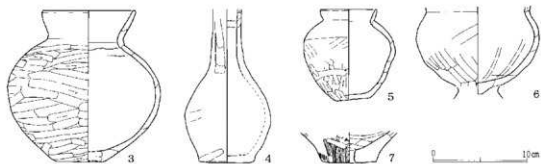
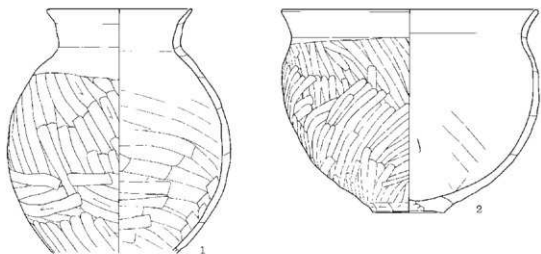
- 第1層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロック、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共に強い。
- 第2層：黒褐色土層 ローム粒子・ローム小ブロックを多量、ロームブロックを少量含む。

第15号住居跡カマド土層説明

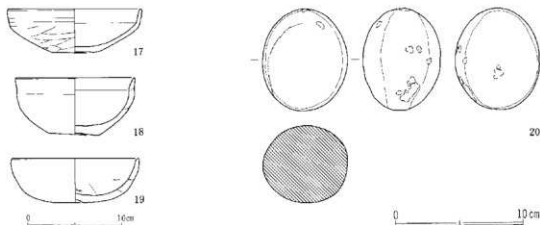
- 第1層：暗灰褐色土層 焼土粒子を多量に、白色粒子・ローム粒子・炭化物粒子を少量含む。しまりは強いが、粘性はほとんどない。
- 第2層：暗茶褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロック・炭化物小ブロックを少量、灰白色粘土粒子を少量含む。しまりは強いが、粘性はほとんどない。
- 第3層：暗褐色土層 ローム粒子・焼土粒子を多量、ローム小ブロックを少量、炭化物粒子を少量含む。しまりは強いが、粘性はほとんどない。
- 第4層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、炭化物小ブロックを多量に、ローム小ブロックを少量含む。しまりは強いが、粘性はほとんどない。
- 第5層：暗黒褐色土層 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を少量含む。しまりはやや弱い、粘性はやや強い。



第83图 第15号住居跡



第84图 第15号住居跡出土遺物(1)



第85図 第15号住居跡出土遺物(2)

第15号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口径(15.4)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部外面窠ケズリ後上半ナテ、内面窠ナテ。D.片岩、チャート。E.内外一暗褐色。F.2/3。H.覆土。
2	鉢	A.口径(26.7)。器高21.5。底径(7.6)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部内外面窠ナテ底部外面窠ケズリ。D.片岩、チャート。E.外一黒褐色。内一暗黄褐色。F.1/2。H.覆土。
3	小形壺	A.口径9.7。器高16.0。底径(5.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部外面窠ケズリ、内面窠ナテ。底部外面窠ケズリ。D.角閃石、チャート。E.内外一暗褐色。F.2/3。H.覆土。
4	長頸壺	A.底径5.8。B.粘土紐積み上げ。C.内外面窠ナテ。底部外面窠ケズリ。D.雲母、チャート。E.内外一暗黄褐色。F.2/3。H.覆土。
5	小形甕	A.口径5.8。器高9.7。底径3.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部外面窠ケズリの後ナテ、内面窠ナテ。底部外面ケズリ。D.黒色粒、チャート。E.内外一暗赤褐色。F.ほぼ完全。H.覆土。
6	台付鉢	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面窠ケズリ、内面ナテ。D.角閃石、チャート。E.内外一褐色。F.1/6。H.覆土。
7	小形甕	A.底径5.7。B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ハケの後ナテ、内面窠ナテ。D.黒色粒、チャート。E.外一褐色。内一明褐色。F.底部のみ。H.覆土。
8	高 坏	A.口径(14.7)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面窠ケズリ後ヨコナテ。坏部外面窠ケズリ、内面ナテ。D.片岩、黒色粒。E.内外一暗赤褐色。F.坏部破片。H.カマド内。
9	高 坏	A.口径14.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナテ。坏部外面窠ケズリ、内面ナテ。胴部内外面ナテ。D.雲母、チャート。E.外一褐色。内一暗黄褐色。F.1/2。H.カマド内。
10	高 坏	A.口径15.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナテ。坏部外面窠ケズリ。内面ナテ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一暗褐色。F.坏部のみ。H.カマド内。
11	高 坏	A.器端部径(12.7)。B.粘土紐積み上げ。C.胴部内外面ナテ。裾部内外面ヨコナテ。D.黒色粒、白色粒。E.内外一褐色。F.脚部のみ。H.覆土。
12	高 坏	A.口径(13.6)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。坏部外面窠ケズリ、内面ナテ。D.黒色粒、チャート。E.内外一明赤褐色。F.坏部破片。H.覆土。
13	坏	A.口径(13.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面窠ナテ。D.片岩、チャート。E.内外一暗褐色。F.口縁部～体部。H.床面付近。
14	坏	A.口径(11.6)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面窠ナテ。D.雲母、白色粒。E.内外一明赤褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
15	坏	A.口径(12.4)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部外面窠ナテ、内面窠ナテ後ミガキ。D.片岩、白色粒。E.外一褐色。内一暗褐色。F.口縁部破片。H.床面付近。

16	坏	A.口径12.2、器高5.6、底径(5.2)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面縦ケズリ、内面縦ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一明赤褐色。内一暗褐色。F.1/3。H.貯蔵穴内。
17	坏	A.口径(14.2)、器高4.6、底径(4.8)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面縦ナデ、内面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外一明赤褐色。内一褐色。F.1/6。H.覆土。
18	坏	A.口径12.6、器高6.1、底径5.4。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面磨耗。D.黒色粒、チャート。E.外一褐色、内一暗赤褐色。F.2/3。H.覆土。
19	坏	A.口径(13.3)、器高4.7。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面磨耗、内面縦ナデ。D.片岩、チャート。E.内外一褐色。F.1/6。H.床面付近。
20	磨石	A.長さ8.0、幅6.6、厚さ6.1、重さ409.4g。C.全体に磨耗。上部部・右側縁に敲打痕。D.安山岩。F.完形。H.覆土。

第16号住居跡 (第86図、図版37-3)

本住居跡は、北側調査区に位置している。北側には第17号住居跡が近接している。重複する第30号住居跡を切っている。住居跡の西側が調査区外にあり、さらに擾乱されているため、本住居跡の全容は不明であるが、遺構の遺存状態は、比較的良好である。

平面形は、検出された住居跡の部分から推測すると、方形ないしは長方形を呈していると思われる。規模は、東西方向は4.4m、南北方向は6.5mを測る。壁は、やや垂直気味に立ち上がり、確認面からの深さは40cm程である。北壁下には幅22cm～34cm、深さが10cm程、南壁には幅が14cm、深さ4cm程の壁溝が巡っている。

床面は、ロームブロックと黒褐色土を主体とした貼り床である。貼り床は、比較的平坦に作られている。全体的に堅いが、住居周辺部の壁際になると若干柔らかい。覆土は、暗褐色土を主体とし、ローム粒子、ロームブロック、炭化物などを含む。

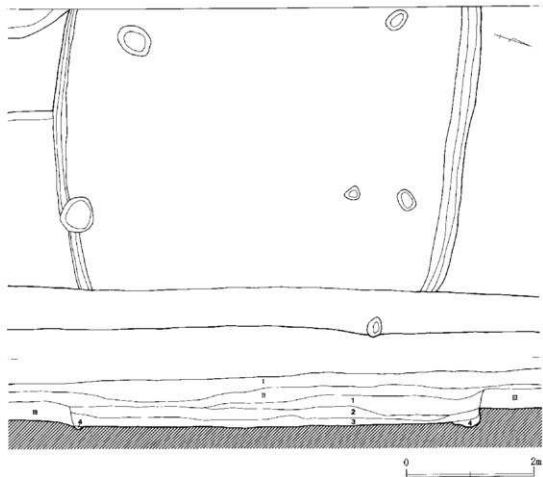
出土遺物は、高坏や須恵器高台付坏などが出土している。

第16号住居跡土層説明

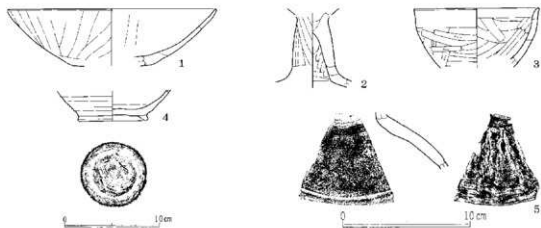
- 第1層：茶褐色土層 浅間山系A軽石を多量に含む。ローム粒子・マンガン粒子を少量含む。しまりは強いが、粘性はほとんどない。現耕作土。
- 第2層：暗褐色土層 浅間山系A軽石・白色粒・マンガン粒子を多量に、ローム粒子・ローム小ブロック・砂礫を少量含む。しまりは強いが、粘性は弱い。
- 第3層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒子・ローム小ブロック・マンガン粒子・褐色シルト粒を多量に含む。しまり・粘性共に強い。
- 第1層：茶褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒子・焼土小ブロックを少量、ローム小ブロック(径3mm)を微量に含む。しまりやや弱く、粘性やや強い。
- 第2層：暗灰褐色土層 白色粒子を均一、ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
- 第3層：褐色土層 ローム粒子を均一、マンガン粒を微量に含む。しまり、粘性共にやや強い。
- 第4層：赤褐色土層 ローム粒・マンガン粒・炭化物粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。
- 第5層：暗黄褐色土層 灰褐色土多量、ローム粒子均一、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物を少量含む。しまり、粘性共に強い。

第16号住居跡出土遺物観察表

1	高坏	A.口径(22.0)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部及び坏部内外面縦ナデ。D.黒色粒、チャート。E.内外一明赤褐色。F.1/3。H.覆土。
2	高坏	B.粘土組織み上げ。C.脚部内外面ナデ。裾部内外面ヨコナデ。D.雲母、チャート。E.内外一明赤褐色。F.脚部のみ。G.内外面に黒斑あり。H.覆土。
3	坏	A.口径(13.1)。B.粘土組織み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面縦ケズリ、内面ナデ。D.白色粒。E.内外一褐色。F.口縁部破片。H.覆土。
4	須恵器高台付坏	A.高台部径(7.4)。B.クワロ成形。高台部貼り付け。C.底部外面回転系切り、内面回転ナデ。高台部回転ナデ。D.黒色粒、チャート。E.内外一灰黄色。F.1/3。H.覆土。



第86图 第16号住居跡

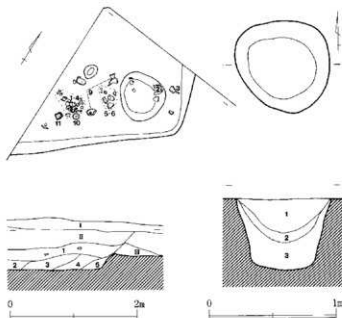


第87图 第16号住居跡出土遺物

第17号住居跡 (第88図、図版37-4)

調査区の北側に位置している。南側には第16号住居跡が近接している。住居跡のほとんどが調査区外であるため、その全容は不明であるが、遺構の遺存状態は、比較的良好である。

平面形は、調査区内で検出された住居跡の壁とコーナー部から推測すると、方形ないしは長方形を呈していると思われる。規模は、東西方向は2.9m、南北方向は2.12mである。壁は、傾斜して



第88図 第17号住居跡

立ち上がり、確認面からの深さは22cm程である。

床面は、ロームブロックと黒褐色土を主体とした貼り床である。比較的平坦に作られている。比較的柔らかいが、住居の中心部は硬い貼り床である。

覆土は、茶褐色土を主体としている。白色粒子、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。

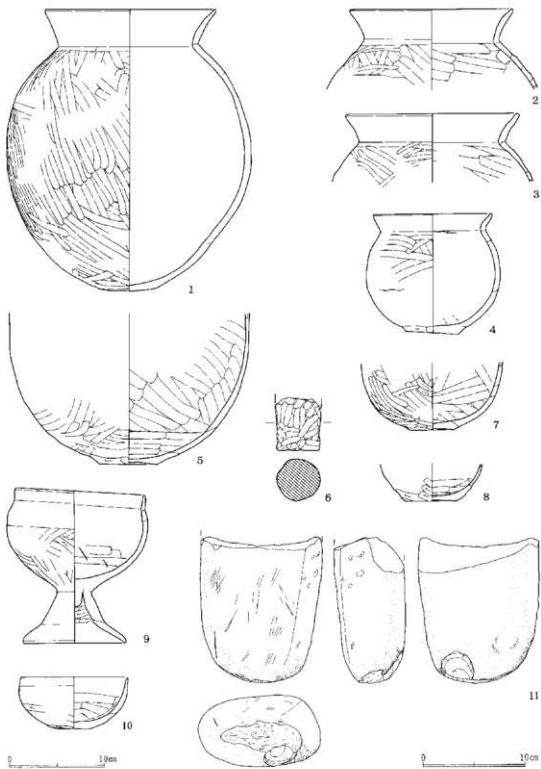
貯蔵穴は、南東のコーナー付近に位置している。規模は75cm×75cmの楕円形の形態を呈している。床面からの深さは、深さは55cm程測る。

第17号住居跡土層説明

- 第1層：茶褐色土層 浅間山系A軽石を多量に含む。ローム粒子・マンガン粒子を少量含む。しまりは強いが、粘性はほとんどない。現耕作土。
- 第2層：暗褐色土層 浅間山系A軽石・白色粒・マンガン粒子を多量に、ローム粒子・ローム小ブロック・砂礫を少量含む。しまりは強いが、粘性は弱い。
- 第3層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒・ローム小ブロック・マンガン粒子・褐色シルト粒を多量に含む。しまり・粘性共に強い。
- 第4層：ソフトローム層 白色粒子を均一、灰茶褐色土層を多く含む。しまり、粘性やや強い。
- 第1層：茶褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒・焼土小ブロックを少量、ローム小ブロック(径3mm)を微量に含む。しまりやや弱く、粘性やや強い。
- 第2層：暗灰褐色土層 ローム粒子を均一、ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
- 第3層：褐色土層 ローム粒子を均一、マンガンを微量に含む。しまり、粘性共にやや強い。
- 第4層：赤褐色土層 ローム粒・マンガン粒・炭化物粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。
- 第5層：暗黄褐色土層 灰褐色土多量、ローム粒子均一、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物を少量含む。しまり、粘性共に強い。

第17号住居跡貯蔵穴土層説明

- 第1層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロック、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共に強い。
- 第2層：黒褐色土層 ローム粒子を多量、ロームブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
- 第3層：黒褐色土層 ローム粒子均一、ロームブロックを少量、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共に強い。



第89图 第17号住居跡出土遺物

出土遺物は、甕・小形甕・土製支脚・小形甕・坏・台付鉢・砥石などが住居周辺部の壁際や、貯蔵穴周辺から出土している。

第17号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口径(18.0)、器高29.7、底径6.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面跔ナデ。底部外面跔ケズリ、内面跔ナデ。D.片岩、チャート。E.内外一灰黄褐色。F.2/3。H.床面直上。
2	甕	A.口径(17.2)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面跔ナデ。D.片岩、チャート。E.外一灰褐色、内一黒褐色。F.口縁部破片。H.床面直上。
3	甕	A.口径(18.3)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面跔ナデ。D.片岩、チャート。E.外一明赤褐色、内一褐灰色。F.口縁部破片。H.床面付近。
4	小形甕	A.口径(18.0)、器高29.7、底径6.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面跔ナデ。底部外面跔ケズリ、内面跔ナデ。D.片岩、チャート。E.内外一灰黄褐色。F.2/3。H.床面付近。
5	甕	A.底径6.1。B.粘土紐積み上げ。C.胴部内外面跔ナデ。底部外面跔ケズリ、内面跔ナデ。D.片岩、チャート。E.外一明赤褐色、内一暗褐色。F.胴部下半のみ。H.床面直上。
6	土製支脚	A.最大径4.5。B.手握む。C.外面ナデ。D.チャート、白色粒。E.外一暗褐色。F.1/3。H.床面直上。
7	小形甕	A.底径4.5。B.粘土紐積み上げ。C.胴部及び底部外面跔ケズリ、内面跔ナデ。D.黒色粒、チャート。E.外一灰褐色、内一灰黄褐色。F.胴部下半のみ。H.覆土。
8	坏	A.底径5.4。B.粘土紐積み上げ。C.体部外面ナデの後下半跔ケズリ、内面跔ナデ。D.角閃石、チャート。E.内外一明赤褐色。F.体部下半のみ。H.覆土。
9	台付鉢	A.口径13.6、器高16.5、底径10.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部内外面跔ナデ。台部外面ナデ、内面跔ケズリ。台端部ヨコナデ。D.雲母、白色粒。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
10	坏	A.口径11.3、器高5.5、底径3.4。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面跔ケズリ、内面跔ナデ。D.片岩、黒色粒。E.外一灰褐色、内一褐色。F.完形。H.床面直上。
11	砥石	A.残存長14.5、幅12.1、厚さ7.1、重さ1825.6g。C.全体に磨耗痕。表面に擦痕。下端部敲打痕。D.砂岩。F.上半部折損。H.床面直上。

第18号住居跡 (第90図、図版37-6)

本遺構は、調査区の中央付近に位置している。西側には、第10号住居跡、南側には第22号住居跡が近接する。重複する第23・28号住居跡を切っている。本住居跡は、すでに床面付近まで削平されており、かろうじて住居跡が残存していた状態で、さらに攪乱されているため、遺構の遺存状態は良好ではない。

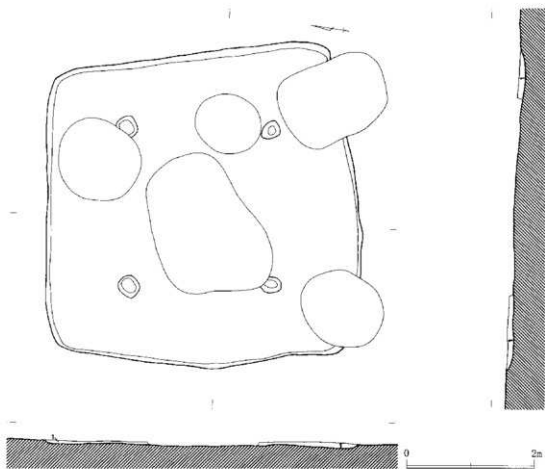
平面形は、方形さみの形態を呈している。規模は、東西方向は5m、南北方向は5mである。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cm程度である。住居跡の各壁下に、壁溝はみられない。

床面は、ロームブロックと黒褐色土が混ざった暗黄褐色土を埋め戻した貼り床である。比較的平坦だが、中央より周辺部の壁際は若干窪んでいる。主柱穴は、4本主柱穴で、住居のほぼ対角線上に配置されている。カマドや貯蔵穴は、検出されなかった。覆土は、暗褐色土を主体としている。

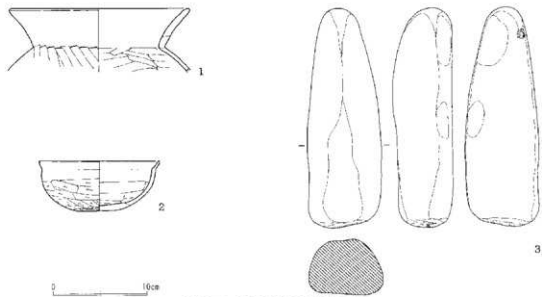
出土遺物は、住居周辺部の覆土中より土師器が出土している。

第18号住居跡土層説明

第1層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロックを多量、ロームブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。



第90圖 第18号住居跡



第91圖 第18号住居跡出土遺物

第18号住居跡出土物観察表

1	甕	A.口径(19.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部内外面縦ナデ。D.黒色粒、チャート。E.内外-暗褐色。F.口縁部破片。H.床面直上。
2	坏	A.口径12.8、器高5.4、底径3.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面縦ケズリ、内面縦ナデ。D.黒色粒、雲母。E.内外-暗赤褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
3	磨石 (敲石)	A.長さ23.2、幅7.9、厚さ5.8、重さ1817.7。C.上端を除き磨面は平滑。上下端に敲打痕。D.安山岩。F.完形。H.床面直上。

第19号住居跡 (第79図、図版37-7)

調査区の西側に位置している。重複する第13号住居跡に切られている。住居跡のほとんどが調査区外であるため、本住居跡の全容は不明であるが、遺構の遺存状態は、比較的良好である。

平面形は、調査区内で検出された住居跡部分の壁とコーナー部より、方形ないしは長方形を呈していると思われる。規模は、北西～南東方向は3.44m、北東～南西方向は0.9mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cm～20cm程である。

床面は、ロームブロックと黒褐色土を混ぜた貼り床で、かなり起伏をもっている。覆土は、暗褐色土層を主体としている。

出土遺物は、住居周辺部の覆土中より土師器の坏(No1)が1点出土しただけである。



第92図 第19号住居跡出土遺物

第19号住居跡出土物観察表

1	坏	A.口径(12.0)、器高4.4、底径4.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面縦ケズリ、内面縦ナデ。D.チャート、角閃石。E.内外-橙色。F.1/3。H.覆土。
---	---	---

第20号住居跡 (第93図 図版37-8)

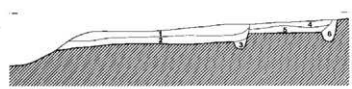
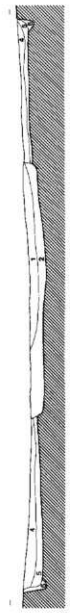
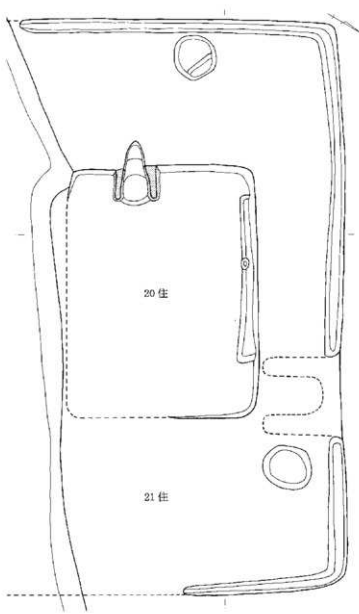
本遺構は、調査区の南側中央付近に位置している。東側には第1号堀跡が近接している。重複する第21号住居跡を切っている。住居跡の南西側はすでに掘平されており、遺構の遺存状態はあまり良好とは言えない。

平面形は、残存する部分から推測すると長方形を呈していたものと思われる。規模は、北西～南東方向は3.4m、北東～南西方向は4mである。

壁は、垂直気味に立ち上がり、確認面からの深さは28cm程である。北壁下には、一部であるが幅20cm、深さ10cm程の壁溝がある。床面は貼り床で、平坦に作られている。支柱穴や貯蔵穴は検出されなかった。覆土は、灰褐色土を主体としている。

カマドは、住居西壁の中央から南東側寄りの位置に、壁に対してほぼ直角に構築されている。すでに天井部は崩壊し、煙道部は削平されており、燃焼部だけが残存している。残存する部分での規模は、全長1m、最大幅75cmである。袖は、黄褐色ローム粘土ブロックを盛り上げて構築されている。燃焼部は、住居床面を若干掘り下げて火床にしている。

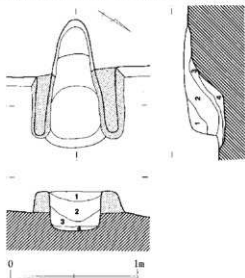
出土遺物は、カマド周辺の覆土中から完形の坏が出土している。



第93图 第20·21号住居跡

第20・21号住居跡土層説明

- 第1層：明褐色土層 ローム粒子均一、ローム小ブロックを少量、炭化物粒子・焼土小ブロックを微量に含む。しまり、粘性共に強い。
 第2層：明褐色土層 炭化物小ブロックを疎ら、ローム粒子・炭化物粒子・焼土ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
 第3層：灰褐色土層 ローム粒子均一、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。
 第4層：暗灰褐色土層 ロームブロックを疎ら、ローム粒子・炭化物粒子・焼土ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
 第5層：灰褐色土層 ローム粒子均一、焼土ブロック・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。
 第6層：灰褐色土層 ローム粒子均一、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。



第94図 第20号住居跡カマド

第20号住居跡カマド土層説明

- 1層：明褐色土層 炭化物粒子均一、焼土粒子を少量、ローム粒子・焼土小ブロックを微量に含む。しまりはやや弱く、粘性は強い。
 2層：明褐色土層 炭化物小ブロックを均一、炭化物粒子・焼土ブロックを少量含む。しまりはやや弱く、粘性は強い。
 3層：灰褐色土層 焼土ブロックを均一、焼土粒子・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。
 4層：灰色土層 焼土粒子均一、ローム粒子・ローム小ブロックを少量、炭化物粒子を微量に含む。しまり、粘性共に強い。



第95図 第20号住居跡出土遺物

第20号住居跡出土遺物観察表

1	坏	A.口径12.5.器高6.0. B.粘土紐積み上げ. C.口縁部内外面ヨコナテ. 体部内外面縦ナテ. D. チャート, 黒色粒. E. 外-明赤褐色, 内-暗褐色. F. 完形. H. 床面付近.
2	坏	A.口径12.7. 器高3.8. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナテ. 体部外面縦ケズリ, 内面縦ナテ. D. 白色粒, 黒色粒. E. 外-橙色, 内-明赤褐色. F. 完形. H. 床面付近.

第21号住居跡 (第93図)

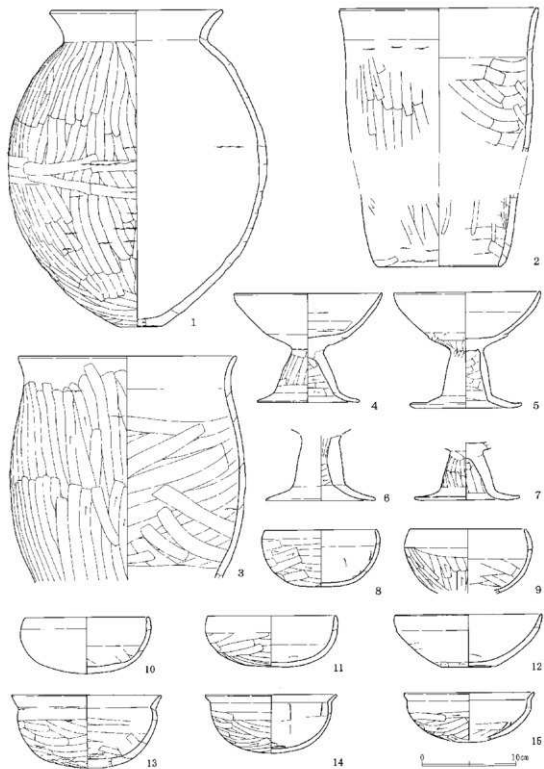
本遺構は、調査区の中央に位置している。北側には第15号住居跡が、東側には第1号堀跡が接続している。重複する第20号住居跡に切られている。遺構の遺在状態は、あまり良好ではない。

平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形を呈していたものと思われる。規模は、南西～北東方向が9.1m、北西～南東方向は4.8mまで測れる。壁は、垂直気味に立ち上がり、確認面からの深さは20cm程である。壁下には、幅20cm、深さ10cm程の壁溝がある。

床面は平坦に作られている。壁溝は、幅は22cm、深さ10cm程である。覆土は、灰褐色土を主体としている。貯蔵穴は、カマド右側の住居北東コーナー部付近に位置している。規模は、80cm×68cmの楕円形の形態を呈している。

カマドは、明確に検出はできなかったが、住居跡の北西側壁の中央やや北側寄りの壁際付近に焼土と粘土ブロックの分布が見られることから、そこに構築されていたものと推測される。

出土遺物は、カマド周辺の覆土中から完形の坏が出土している。



第96图 第21号住居跡出土遺物

第21号住居跡出土土物観察表

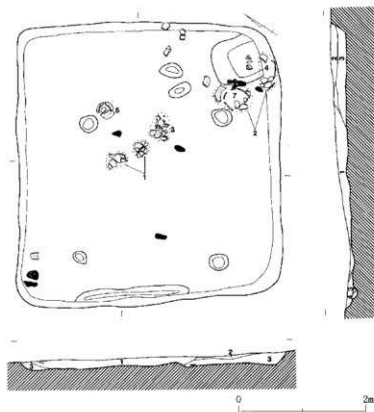
1	甕	A.口径18.3、器高33.5、底径(4.6)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部内外面竈ナテ。D.片岩、チャート。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。H.床面付近。
2	大形甕	A.口径(21.0)、底径(13.0)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部外面竈ケズリの後下端ナテ、内面竈ナテ。D.片岩、チャート。E.内外一暗黄褐色。F.破片。H.覆土。
3	大形甕	A.口径(23.1)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部外面竈ケズリ、内面竈ナテ。D.片岩、チャート。E.外一暗黄褐色、内一灰黄褐色。F.胴部上半のみ。H.床面付近。
4	高 坏	A.口径15.5、器高11.5、脚端部径10.8。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。脚部内外面竈ナテ、内面竈ケズリ。脚部内外面ヨコナテ。D.角閃石、チャート。E.内外一明赤褐色。F.ほぼ完形。H.床面付近。
5	高 坏	A.口径15.5、器高12.2、脚端部径11.9。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。脚部内外面竈ナテ。脚部内外面ヨコナテ。D.黒色粒、チャート。E.外一赤色、内一明赤褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
6	高 坏	A.脚端部径11.5。B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面竈ナテ、内面竈ケズリ、脚部内外面ヨコナテ。D.雲母、黒色粒。E.内外一明赤褐色。F.脚部のみ。H.床面直上。
7	高 坏	A.脚端部径11.1。B.粘土紐積み上げ。C.脚部内外面ナテ。脚部内外面ヨコナテ。D.黒色粒、チャート。E.外一暗赤褐色、内一明赤褐色。F.脚部のみ。H.床面付近。H.覆土。
8	坏	A.口径(11.8)、器高6.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部外面竈ケズリ、内面竈ナテ。D.片岩、黒色粒。E.内外一赤褐色。F.1/3。H.床面直上。
9	坏	A.口径12.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部外面竈ケズリ、内面竈ナテ。D.片岩、チャート。E.外一暗赤褐色、内一赤褐色。F.1/2。H.覆土。
10	坏	A.口径13.0、器高6.0。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部外面摩滅により不明、内面竈ナテ。D.片岩、チャート。E.内外一明赤褐色。F.完形。H.床面直上。
11	坏	A.口径13.5、器高5.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部外面竈ケズリ、内面竈ナテ。D.片岩、チャート。E.内外一褐色。F.ほぼ完形。H.床面直上。
12	坏	A.口径15.4、器高5.6、底径5.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面竈ナテ。底部外面竈ケズリ。D.片岩、角閃石。E.内外一赤褐色。F.完形。H.床面直上。
13	坏	A.口径15.7、器高7.7。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部内外面竈ナテ。D.チャート、黒色粒。E.外一褐色、内一赤褐色。F.4/5。H.カマド内。
14	坏	A.口径13.9、器高6.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部外面竈ケズリ、内面竈ナテ。D.雲母、チャート。E.内外一明赤褐色。F.完形。H.床面直上。
15	坏	A.口径(13.8)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部外面竈ケズリ、内面竈ナテ。D.片岩、黒色粒。E.内外一明赤褐色。F.1/3。H.床面直上。

第22号住居跡 (第97図、図版38-1)

本遺構は、調査区の西側に位置している。北側には第23・24号住居跡が、西側には第11号住居跡が、東側には第20・21号住居跡が近接している。本住居跡は、すでに床面付近まで削平されており、かろうじて住居跡が残存している状態のため、遺存状態はあまり良好ではない。

平面形は、比較的形の整った方形を呈している。規模は、北西～南東方向は4.1m、北東～南西方向は4.4mである。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは12cm程である。西壁下の一部であるが、幅が14cm～20cm、深さは10cm程の壁溝が巡っている。

床面は、ロームブロックと黒褐色土を混ぜた貼り床で、中央はやや高く住居周囲の壁の方は低くなっている。覆土は、暗褐色土を主体とし、ローム粒子均一、マンガン粒子を少量、焼土粒子を微量に含む。貯蔵穴は、東コーナーのそばにある。規模は、76cm×74cmの楕円形の形態を呈している。



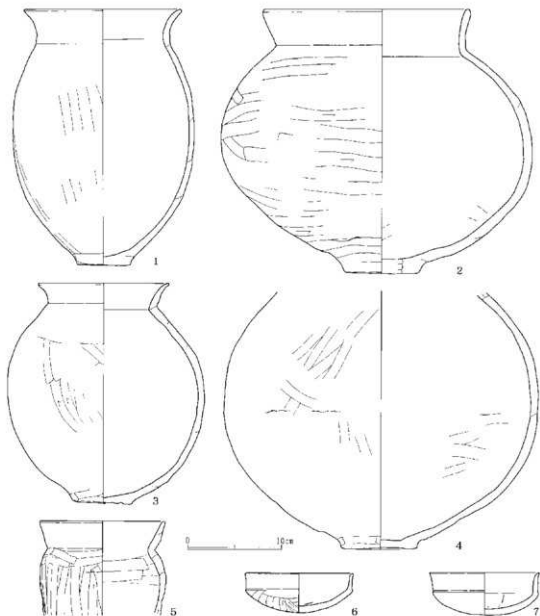
第97図 第22号住居跡

床面からの深さは、30cm～40cm程である。

出土遺物は、甕・小形甕・坏などが住居周辺部の壁際や、貯蔵穴周辺から出土している。

第22号住居跡出土遺物観察表

1	甕	A.口径(16.2)、器高27.0、底径(5.6)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ケズリ、内面篋ナデ。底部外面篋ケズリ。D.角閃石、白色粒。E.外-暗褐色、内-暗褐色。F.1/3。H.覆土。
2	甕	A.口径21.4、器高28.0、底径(7.6)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ケズリ、内面篋ナデ。底部外面ナデ。D.黒色粒、白色粒。E.外-橙色、内-黄灰色。F.2/3。H.覆土。
3	甕	A.口径(13.9)、器高23.5、底径6.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ケズリ、内面ナデ。底部外面篋ケズリ。D.片岩、チャート。E.内外-暗赤褐色。F.1/3。H.覆土。
4	甕	A.底径8.0。B.粘土紐積み上げ。C.胴部内外面篋ナデ。底部外面篋ケズリ。D.角閃石、雲母。E.外-褐色、内-暗赤褐色。F.口縁部～胴部上半欠失。H.覆土。
5	小形甕	A.口径13.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面篋ケズリ後篋ナデ、内面篋ナデ。D.チャート、黒色粒。E.外-明赤褐色、内-暗赤褐色。F.胴部上半のみ。H.覆土。
6	坏	A.口径(11.4)、器高4.2。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面篋ケズリ、内面篋ナデ。D.白色粒、黒色粒。E.内外-橙色。F.3/4。H.覆土。
7	坏	A.口径11.6、器高4.5。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナデ。体部外面篋ケズリ、内面篋ナデ。D.雲母、黒色粒。E.外-暗赤灰色、内-暗褐色。F.完形。H.覆土。



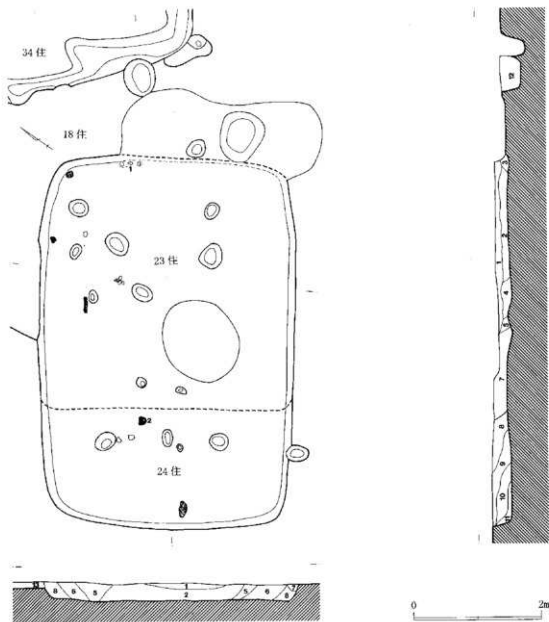
第98図 第22号住居跡出土遺物

第23号住居跡 (第99図、図版38-3・4)

調査区の北側に位置している。西側には第9・10号住居跡が、南側には第22号住居跡が近接している。重複する第18号住居跡と第24号住居跡を切っている。

平面形は、コーナー部がやや丸みをもつ方形ぎみの形態を呈している。規模は、東西方向が3.9m、南北方向が4.2mである。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは30cm程である。

床面は、ロームブロックを含む暗黄褐色土を埋め戻した貼り床で、比較的平坦に作られているが、



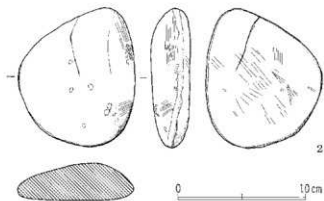
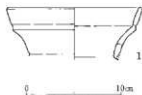
第99図 第23・24号住居跡

中央付近が若干起伏をもっている。覆土は、黒褐色土を主体としている。住居跡内からはピットがいくつか検出されているが、カマド・支柱穴・貯蔵穴などの住居内施設と考えられるものは、検出されなかった。

出土遺物は、住居の覆土中より少量の土器片と自然石を利用した砥石が出土しただけである。

第23・24号住居跡土層説明

- 第1層：第18号住居跡の貼床部。黒褐色土を少量混入したロームブロックを主体とした層。しまり、粘性が非常に強い。
 第2層：黒暗褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロックを多量、ロームブロック・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。
 第3層：黒褐色土層 ローム粒子を多量に、ローム小ブロックを均一、ロームブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
 第4層：黒灰色土層 ローム小ブロックを均一、ロームブロックを多量に、炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性弱い。
 第5層：黒褐色土層 ローム粒子を少量、ロームブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
 第6層：黒褐色土層 ローム粒子を均一、ロームブロック（径1.5cm）を少量含む。しまり、粘性共に強い。
 第7層：黒褐色土層 ローム小ブロック（径5mm）を少量、白色粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。
 第8層：黒褐色土層 ローム粒子を非常に多く、ローム小ブロックを均一、暗褐色土層をいくらか多く含む。しまり、粘性共に強い。
 第9層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロックを少量、ロームブロック・炭化物粒子を微量含む。しまり、粘性共に強い。
 第10層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロック・ロームブロック・黒灰色ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。
 第11層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、ローム小ブロック・炭化物粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。暗褐色土粒をやや多く混入する。
 第12層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、黒灰色ブロックを均一、ローム小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。



第100図 第23号住居跡出土遺物

第23号住居跡出土遺物観察表

1	壺	A.口径(14.0)。B.粘土縦積み上げ。C.口縁部内外面ココナテ。D.チャート、黒色粒。E.内外一橙色。F.口縁部破片。H.覆土。
2	砥石	A.長さ22.0、幅18.2、厚さ5.9、重さ3250.0g。C.右側縁・表面の一部に擦痕。D.砂岩。F.完形。H.覆土。

第24号住居跡（第99図、図版38-3・4）

重複する第23号住居跡に、住居跡の東側半分を切られている。

平面形は、残存する部分から推測すると、長方形か方形を呈していたものと思われる。規模は、南北方向は3.9m、東西方向は、1.84mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは30cm程である。床面は、比較的平坦に作られているが、若干南に傾斜している。カマド・支柱穴・貯蔵穴などの住居内施設は検出されなかった。覆土は、暗褐色土を主体としている。

出土遺物は、土器片が少量出土しただけである。

第25号住居跡 (第101図、図版38-5)

本遺構は、調査区の東側に位置している。東側には第29号住居跡が近接している。重複する第1号堀跡により切られている。住居跡のほとんどが調査区外であるため、その全容は不明であるが、遺構の遺存状態は、比較的良好である。

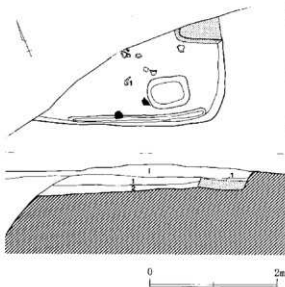
平面形は、調査区内で検出されたコーナー部分や貯蔵穴から推測すると、方形ないしは長方形を呈していると思われる。規模は、東西方向は3.3m、南北方向は1.9mを測る。

壁は垂直気味に立ち上がり、確認面からの深さは30cm程度ある。南壁下には、幅12cm、深さ5cm程の壁溝が一部ではあるが見られる。

床面は、ロームブロックと暗褐色土を主体とする貼り床である。平坦に作られているが、西側にやや傾斜している。覆土は、褐色土を主体としている。貯蔵穴は、東南コーナーの付近にある。規模は、76cm×74cmの楕円形の形態を呈している。床面からの深さは、50cm程である。

カマドは、調査区の壁際に袖の部分と思われるが一部だけが確認できた。暗灰褐色の粘土を住居の壁に直接貼り付けて構築している。袖幅は、12cm程あり比較的厚く作られている。

出土遺物は、覆土中から土器片が少量出土しただけである。



第101図 第25号住居跡

第25号住居跡土層説明

- 第1層：暗褐色土層 浅間山系A軽石を多量に含む。ローム粒子・マンガン粒子を少量含む。しまり、粘性ほとんどない。現耕作土。
- 第1層：茶褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒子を少量、ローム小ブロック・焼土小ブロックを微量に含む。しまりはやや弱く、粘性やや強い。
- 第2層：暗灰褐色土層 白色粒子を均一、ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。



第102図 第25号住居跡出土遺物

第25号住居跡出土遺物観察表

1	産	A.口径(15.8)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部内外面縦ナテ。D.片岩、チャート。E.外-暗褐色、内-黄褐色。F.口縁部破片。H.床面付近。

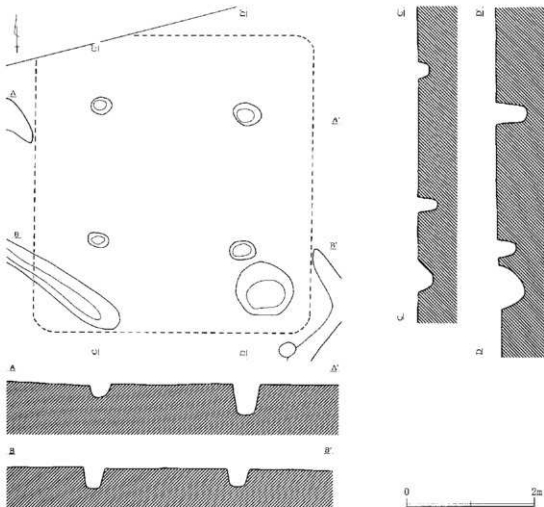
第26号住居跡 (第103図、図版38-6)

本住居跡は、調査区の中央付近に位置している。西側には第10号住居跡が、東側には第15号住居跡が近接している。重複する第33号住居跡を切っている。本住居跡は、すでに床面付近まで削平されており、かろうじて住居跡が残存していたため、遺構の遺存状態は良好ではない。

平面形は、残存する部分から推測すると方形ぎみの形態を呈していたものと思われる。規模は、南北方向が4.40m、東西方向が4.20mである。

床面は、すでに掘平されているが、ロームブロックを含む暗黄褐色土を埋め戻して作られたようである。住居内から検出された4本のピットは、主柱穴と考えられるもので、住居のほぼ対角線上に配置されている。貯蔵穴は、住居東南側のコーナー部分付近にある。規模は、90cm×82cmの楕円形の形態を呈して、床面からの深さは、50cm程である。床面からの深さは、50cm程である。

出土遺物は、住居跡の周辺から土器片が少量出土しただけである。



第103図 第26号住居跡

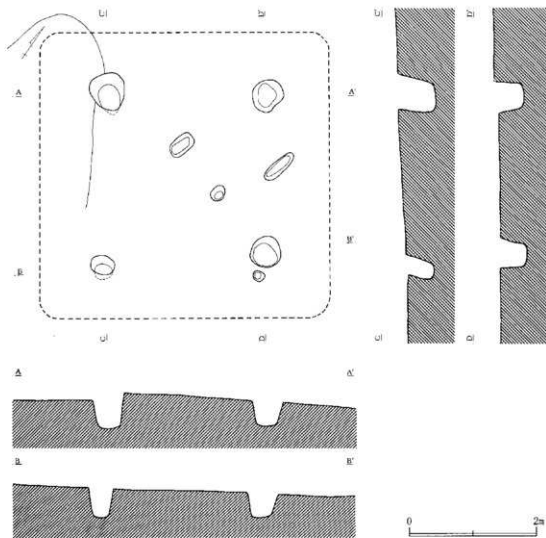
第27号住居跡 (第104図、図版38-7)

本住居跡は、調査区の西側に位置している。北側には第11号住居跡が、南側には第12号住居跡が近接している。本住居跡は、すでに床面付近まで削平されており、かろうじて住居跡の掘り方の痕跡が認められた程度であるため、遺構の遺存状態は良好ではない。

平面形は、掘り方の痕跡から推測すると方形ぎみの形態を呈していたものと思われる。規模は、東西方向は4.55m、南北方向は4.5mを測る。壁や床面ははすでに削平されている。

住居内施設の痕跡としては、支柱穴が残存している。いわゆる4本支柱穴で、住居の対角線上に配置されているものと思われる。

出土遺物は、住居跡の周辺から土器片が少量出土しただけである。



第104図 第27号住居跡

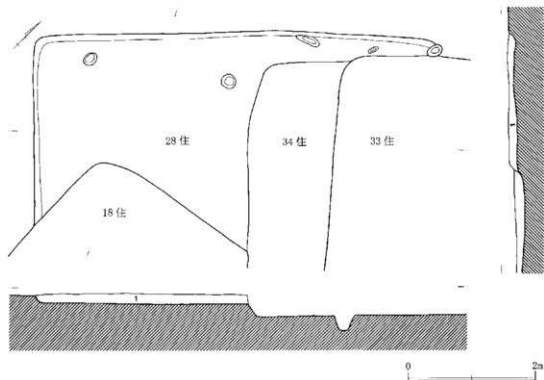
第28号住居跡 (第105図、図版38-8)

本遺構は、調査区の北西側に位置している。西側には第10号住居跡が、東側には第26号住居跡が近接している。重複する第18号住居跡と第34号住居跡に切られている。本住居跡は、住居の大半を重複す多くの住居跡に切られているため、遺構の遺存状態は良好ではなく、遺構の全容も不明である。

平面形は、残存する部分から推測すると、方形か長方形ぎみの形態を呈していたものと思われる。規模は、南西～北東方向は6.4m、南東～北西方向は3.5mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは15cmある。

床面は、ロームブロックと暗褐色土を主体とする貼り床で、比較的平坦に作られている。残存する部分からは住居内施設は検出されなかった。覆土は、ローム粒子やロームブロックを微量含む暗灰褐色土を主体としている。

出土遺物は、覆土中から縄文時代前期の土器片が少量出土しているが、本遺構に伴うものか不明である。



第105図 第28号住居跡

第28号住居跡土層説明

第1層：暗灰褐色土層 白色粒子を均一、ローム粒子・ローム小ブロックを少量含む。しまり、粘性共に強い。

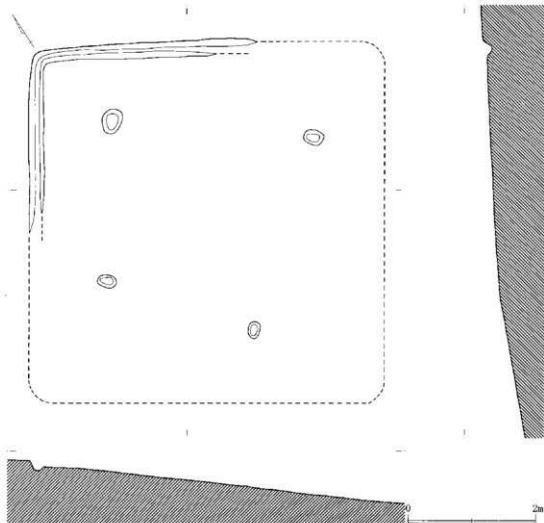
第29号住居跡 (第106図、図版39-1)

本住居跡は、調査区の東側に位置している。西側には第1号掘り跡が近接している。住居跡の南側大半はすでに掘平されており、残存しているのは住居の北側コーナー部付近だけである。

平面形は、残存する部分から推測すると、方形気味の形態を呈していたものと思われる。規模は、一辺が5.5m程度の住居と推測される。壁は、北側コーナー部で10cm程度残存している。やや傾斜して立ち上がり、壁下には幅24cm、深さ10cm程の壁溝が巡っている。

床面は、ロームブロックを均一に含む暗黄褐色土を埋め戻した貼り床で、比較的平坦に作られていたようである。住居跡内からは4本のピットが検出されているが、支柱穴と考えられるような規則性は見られない。カマドや貯蔵穴等の住居内施設の痕跡は見られなかった。覆土は、褐色土を主体としている。

遺物は、何も出土しなかった。



第106図 第29号住居跡

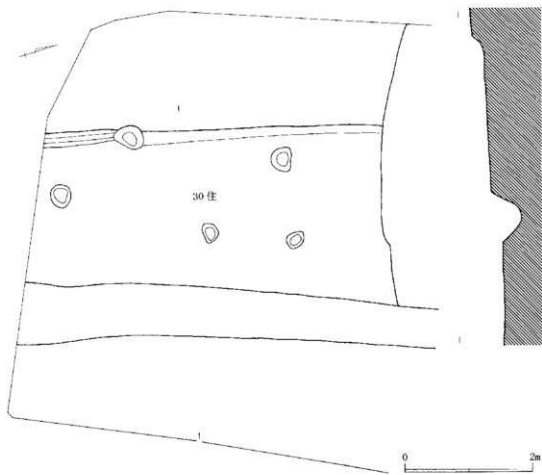
第30号住居跡（第107図、図版39-2）

本住居跡は、調査区の北側に位置している。本住居跡は、南側が調査区外であり、北側を第16号住居跡に切られているため、その全容は不明である。

平面形は、住居の西壁しか残存していないが、残存する部分から推測すると、方形か長方形ぎみの形態を呈していたものと思われる。規模は、南北方向が5.82mまで、東西方向が2.84mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは10cm程である。西側壁下の一部に、幅20cm、深さ10cm程の壁溝が見られる。

床面は、ロームブロックと暗褐色土を主体とする貼り床である。比較的平坦に作られているが、若干東に傾斜している。全体的にやや軟質で、覆土は、暗褐色土を主体としている。住居内施設は、明確ではない。

出土遺物は、覆度中より土器片が少量出土しただけである。



第107図 第30号住居跡

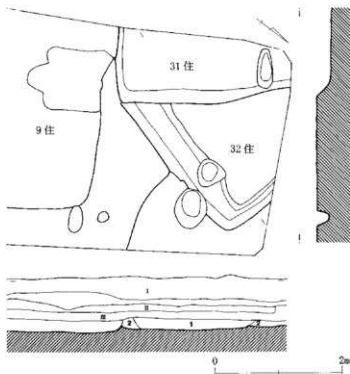
第31号住居跡 (第108図、図版39-3)

本住居跡は、調査区の北西側に位置している。南側には第11号住居跡が近接している。重複する第9号住居跡に切れ、第32号住居跡を切っている。本住居跡は、半分以上が調査区外であるため、その全容は不明であるが、遺存状態は比較的良好である。

平面形は、調査区内で検出された部分から推測すると、方形ないしは長方形を呈していたと思われる。規模は、南東～北西方向は2.8mまで、南西～北東方向は1.15mまで測れる。壁は、緩やかに立ち上がるようである。確認面からの深さは18cm程である。壁下には、壁溝はみられない。

床面は、ロームブロックと暗褐色土を主体とする貼り床である。比較的平坦に作られている。住居の壁際のためか全体的にやや軟質で、覆土は、暗褐色土を主体としている。

出土遺物は、覆土中から土器の少破片がごく少量出土しただけである。



第108図 第31・32号住居跡

第31号住居跡土層説明

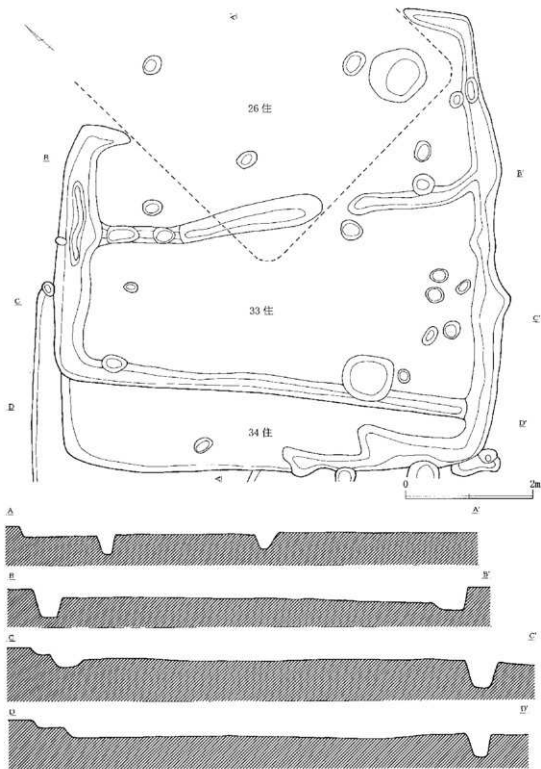
第1層：黒褐色土層 ローム粒子を均一、ロームブロックを多量に含む。しまり、粘性共に強い。
第2層：暗褐色土層 ローム粒子・ローム小ブロックを多量に含む。しまり、粘性共に強い。

第32号住居跡 (第108図、図版39-4)

調査区の北西側に位置している。南側には第9号住居跡が近接している。重複する第31号住居跡に切られている。本住居跡は、すでに床面付近まで削平されており、かろうじて残存していたような状態である。遺存状態は、非常に良くない。

平面形は、遺構の遺存状態は非常に良くないため明確ではないが、残存する部分から推測すると、方形ないしは長方形を呈していると思われる。規模は、南北方向は2.7m、東西方向は3mである。床面は、ロームブロックを主体とする貼り床である。比較的平坦に作られている。全体的にやや軟質である。

出土遺物は、土師器の破片がごく少量出土しただけである。



第109圖 第33・34号住居跡

第33号住居跡 (第109図、図版39-5・6)

調査区の北西側に位置している。南側には第9号住居跡が近接している。重複する第34号住居跡を切っている。本住居跡は、すでに床面付近まで削平されており、かろうじて住居跡が残存していた状態であり、遺存状態は、非常に良くない。

平面形は、遺構の遺存状態は非常に良くないため明確ではないが、残存する部分から推測すると、方形もしくは長方形を呈していると思われる。規模は、北東～南西方向は6.3m、北西～南東方向は6.82mである。

壁は、かろうじて残存するが、北東側壁はすでに削平されているため不明である。確認面からの深さは、残存する壁からは、20cm程度である。壁下には、幅25cm～50cmで深さが30cm程と、幅25cm～40cmで深さが30cm程の壁溝が見られることから、本住居は拡張したと考えられる。覆土は黒灰褐色土層を主体とし、ローム土の小ブロックを多量に含む。

床面は、ロームブロックを主体とする貼り床である。比較的平坦に作られている。全体的にやや軟質である。

出土遺物は、縄文時代前期中葉期の少破片がごく少量出土しただけである。

第34号住居跡 (第109図、図版39-5・6)

調査区の北西側に位置している。南側には第9号住居跡が近接している。重複する第33号住居跡に切られている。本住居跡は、すでに床面付近まで削平されており、かろうじて残存していたような状態である。遺存状態は、非常に良くない。

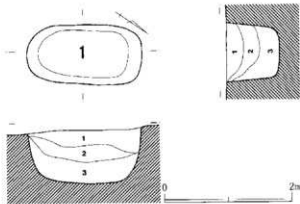
平面形は、遺構の遺存状態は非常に良くないため明確ではないが、残存する部分から推測すると、方形もしくは長方形を呈していると思われる。規模は、北西～南東方向は6.8m、北西～南東方向は1.24mまで測れる。壁は、かろうじて残存するが、南東側壁はすでに削平されているため不明である。確認面からの深さは15cm程度である。壁下には、幅20cm～60cmで、深さが30cm程の壁溝が見られる。床面は、ロームブロックを主体とする貼り床である。比較的平坦に作られている。全体的にやや軟質である。覆土は、暗褐色土を主体とし、ローム粒子、ローム小ブロックを多量に含む。出土遺物は、縄文時代前期中葉期の少破片がごく少量出土しただけである。

2. 土 壇

第1号土壇 (第110図)

本土壇は、調査区の西側に位置している。南側には第18号住居跡が近接する。遺構の遺存状態は、比較的良好である。

平面形は、各コーナーが丸味を帯びた長方形を呈する。規模は、長軸1.8m、短



第110図 第1号土壇

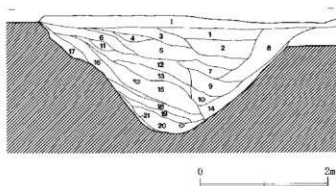
軸93cmを測る。壁は緩やかに立ち上がり、確認面からの深さは、83cmを測る。底面は比較的平坦である。覆土は、黒褐色土を主体としている。ロームブロックを均一、焼土粒子を少量含む。

本土壌の時期は、遺物が出土していないため明確ではないが、覆土の状態から縄文時代の所産と考えられる。

3. 堀 跡

第1号堀跡(第111図、図版39-8)

調査区の東側に位置する。西側には第15号住居跡が、東側には第29号住居跡が隣接する。重複する第25号住居跡を切っている。調査区内で検出されたのは、堀跡の南側の一部分だけと考えられるため、本堀跡の全容は不明であるが、堀の上幅が4.30m以上ある比較的しっかりとした堀跡のようである。調査区内では、北西から南東方向に向かって直線的な流路をとっている。



第111図 第1号堀跡土層断面図

調査区内で検出された範囲では、壁は全体的に直線的に立ち上がり、確認面からの深さは1.90mである。底面でのレベル差は見られない。底面は狭く、平坦である。

覆土は、暗褐色土を主体としている。小石や細砂などの堆積は認められず、白色粒・ローム粒子・炭化物粒を少量含むが、マンガンの凝集層などもないことから、恒常的な流水や滞水状態はなかったものと推測され、排水と区画を目的とした堀跡であったことが窺われる。

出土遺物は、覆土中から須恵器の破片が1片と、わずかに出土しているだけである。本堀跡の時期は、本堀跡に伴う遺物がないため明確ではないが、覆土の状態から中世以降から近世前半頃ではないかと考えられる。

第1号堀跡土層説明

第1層：暗褐色土層 浅間山系A軽石を多量に含む。ローム粒子・マンガン粒子を少量含む。しまり、粘性ほとんどない。現耕作土。

第1層：暗褐色土層 ローム粒子を均一、白色粒子を多量、炭化物小ブロック・マンガン粒子を少量含む。しまり、粘性共に強い。

第2層：暗褐色土層 白色粒を均一、ローム粒を多量、マンガン粒・小石を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。

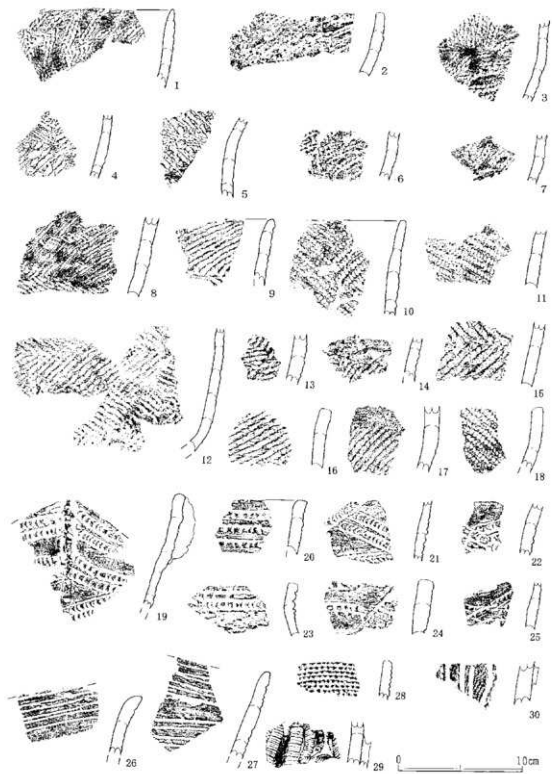
第3層：暗褐色土層 白色粒・ローム粒・マンガン粒・炭化物粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。

第4層：暗褐色土層 白色粒・ローム粒を均一、マンガン粒・炭化物粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。

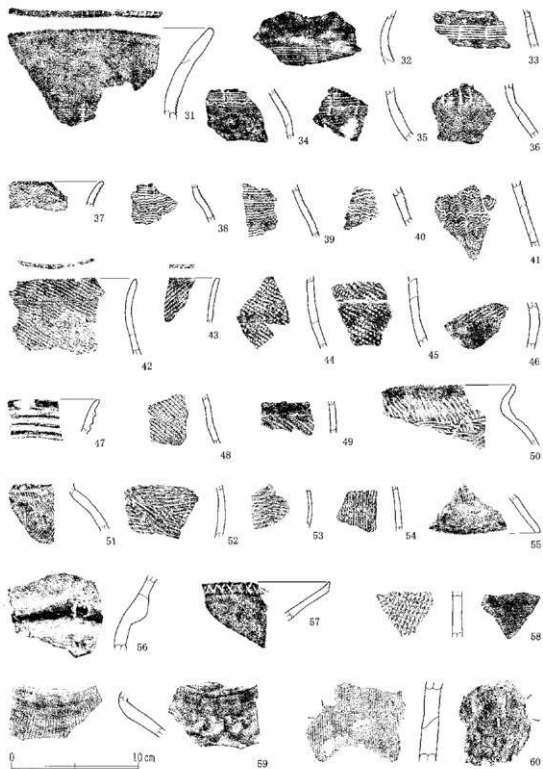
第5層：暗褐色土層 白色粒・ローム粒・マンガン粒を均一、炭化物粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。

第6層：暗褐色土層	ローム粒・マンガン粒を多量に、白色粒・炭化物粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。
第7層：暗褐色土層	ローム粒を均一、白色粒・マンガン粒・炭化物粒を少量含む。しまり、粘性共に非常に強い。
第8層：暗褐色土層	ローム粒・マンガン粒を均一に、白色粒・炭化物粒を少量含む。しまり、粘性共に非常に強い。
第9層：暗褐色土層	ローム粒・炭化物粒を均一に、白色粒・マンガン粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。
第10層：暗褐色土層	ローム粒・マンガン粒・炭化物粒を均一に、白色粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。
第11層：暗褐色土層	ローム粒を均一、マンガン粒・炭化物粒・白色粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。
第12層：暗褐色土層	ローム粒・マンガン粒を均一、白色粒・炭化物粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。
第13層：暗褐色土層	ローム粒・マンガン粒・炭化物粒を均一に、白色粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。
第14層：褐色土層	ローム粒を均一、白色粒・マンガン粒・炭化物粒を少量含む。しまり、粘性共に非常に強い。
第15層：暗褐色土層	ローム粒を均一、白色粒・マンガン粒・炭化物粒を少量含む。しまり、粘性共にやや強い。
第16層：褐色土層	ローム粒を均一、マンガン粒・炭化物粒・白色粒を少量含む。しまり強く粘性弱い。
第17層：褐色土層	ローム粒を均一、白色粒・マンガン粒を少量含む。しまりは強く、粘性は弱い。
第18層：褐色土層	ローム粒均一、マンガン粒・炭化物粒を少量含む。しまり、粘性はやや強い。
第19層：褐色土層	ローム粒を均一、マンガン粒を少量含む。しまり、粘性やや共に強い。
第20層：暗褐色土層	ローム粒を均一、マンガン粒を少量含む。しまり、粘性共に非常に強い。
第21層：褐色土層	ローム粒を均一、マンガン粒を少量含む。しまり、粘性共に非常に強い。

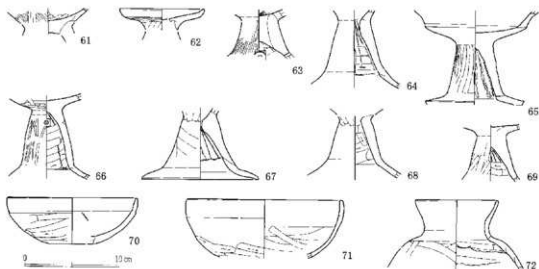




第112圖 遺構外出土遺物(1)



第113圖 遺構外出土遺物(2)



第114図 遺構外出土遺物(3)

遺構外出土遺物観察表

1	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.無節Rの燃糸文。D.繊維、石英、チャート。E.暗褐色。F.破片。
2	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.無節Rの燃糸文。D.繊維、チャート。E.暗褐色。F.破片。
3	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.無節Rの燃糸文。D.繊維、石英、片岩。E.暗褐色。F.破片。
4	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.附加糸縄文。単節縄文LRにrの燃り紐を附加。D.繊維、石英、チャート、黒色鉱物。E.橙色。F.破片。
5	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.附加糸縄文。単節縄文LRにrの燃り紐を附加。D.繊維、チャート。E.暗黄褐色。F.破片。
6	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.無節縄文Rの燃糸文。D.繊維、チャート。E.褐色。F.破片。
7	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.無節縄文Rの燃糸文。D.繊維、石英。E.暗褐色。F.破片。
8	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.無節RとLの羽状縄文。D.繊維、石英。E.暗褐色。F.破片。
9	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.無節RとLの羽状縄文。D.繊維、チャート。E.黄褐色。F.破片。
10	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.無節RとLの羽状縄文。D.繊維、石英、チャート、片岩、黒色鉱物。E.暗褐色。F.破片。
11	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文RLを横位施文。D.繊維、チャート。E.暗黄褐色。F.破片。
12	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節RLとLRの羽状縄文。D.繊維、チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。
13	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.無節RとLの羽状縄文。D.繊維、チャート。E.暗黄褐色。F.破片。
14	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.無節RとLの羽状縄文。D.繊維、チャート、片岩、黒色鉱物。E.暗赤褐色。F.破片。
15	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節RLとLRの羽状縄文。D.繊維、石英、チャート、赤色粒。E.褐色。F.破片。
16	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.無節縄文Lを横位施文。D.繊維、チャート、片岩、赤色粒、黒色鉱物。E.褐色。F.破片。
17	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.無節縄文Lを横位施文。D.繊維、チャート、片岩、赤色粒、黒色鉱物。E.黒褐色。F.破片。
18	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.単節縄文RLを横位施文。D.繊維、チャート。E.黄褐色。F.破片。
19	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.キザミを有する棒状の器付→半葦竹管状工具による平行沈線→平行沈線内連続爪形文。D.繊維、石英、チャート、片岩、黒色鉱物。E.暗赤褐色。F.破片。

20	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.半裁竹管状工具による平行沈線→平行沈線内連続爪形文。D.繊維、チャート、片岩。E.暗赤褐色。F.破片。
21	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.半裁竹管状工具による平行沈線→平行沈線内連続爪形文。D.繊維、石英、チャート。E.暗赤褐色。F.破片。
22	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.半裁竹管状工具による平行沈線→平行沈線内連続爪形文。D.繊維、チャート、片岩。E.黒褐色。F.破片。
23	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.集節Rの樞糸文を横位施文。半裁竹管状工具による平行沈線→平行沈線内連続爪形文。D.繊維、チャート、片岩、黒色鉱物。E.暗赤褐色。F.破片。
24	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.半裁竹管状工具による平行沈線→平行沈線内連続爪形文。D.繊維、チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。
25	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.半裁竹管状工具による平行沈線→平行沈線内連続爪形文。D.繊維、石英。E.暗褐色。F.破片。
26	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.覆位沈線→横位半裁竹管状工具による平行沈線。D.繊維、石英、チャート、片岩、黒色鉱物。E.明赤褐色。F.破片。
27	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.半裁竹管状工具による平行沈線。D.繊維、チャート、片岩。E.暗褐色。F.破片。
28	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.結節浮線文。D.石英、チャート、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。
29	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.隆帯施に幅広工具による連続刺突。三角押文と三叉文を施す。D.石英、チャート。E.明褐色。F.破片。
30	深鉢	B.粘土紐積み上げ。C.地文に単節縄文RL→隆帯に幅広単沈線を沿わせる。D.石英、チャート、雲母、黒色鉱物。E.暗黄褐色。F.破片。
31	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口唇部キサミ。口縁部外面ヨコナテ、内面ヨコナテ後ミガキ。頸部柳描簾状文。D.片岩、チャート。E.外一明赤褐色、内一暗褐色。F.破片。
32	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナテ、内面ヨコナテ後ミガキ。頸部7本歯の3連止柳描簾状文。D.黒色粒、チャート。E.内外一黄褐色。F.破片。
33	甕	B.粘土紐積み上げ。C.頸部6本歯の等間隔止柳描簾状文、内面ハケ。D.片岩、白色粒。E.外一黒褐色、内一暗褐色。F.破片。
34	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面5本歯の柳描簾状文の後柳描波状文、内面ナテ。D.黒色粒、チャート。E.外一暗黄褐色、内一明褐色。F.破片。
35	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面7本歯の等間隔止柳描簾状文の後柳描波状文、内面不明。D.角四石、チャート。E.外一黄褐色、内一暗黄褐色。F.破片。
36	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面8本歯の3連止柳描簾状文、内面不明。D.石英、黒色粒。E.外一暗褐色、内一褐色。F.破片。
37	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面柳描波状文、内面麗ナテ。D.黒色粒、白色粒。E.外一暗黄褐色、内一灰黄褐色。F.破片。
38	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面柳描簾状文の後柳描波状文、内面ミガキ。D.黒色粒、白色粒。E.外一黒褐色、内一暗黄褐色。F.破片。
39	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面柳描簾状文の後柳描波状文、内面ハケ。D.白色粒。E.外一黒褐色、内一暗黄褐色。F.破片。
40	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面柳描波状文、内面ハケの後ミガキ。D.黒色粒、チャート。E.内外一暗灰黄色。F.破片。
41	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面柳描波状文、内面不明。D.片岩、黒色粒。E.内外一褐色。F.破片。
42	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面単節縄文RL、内面ミガキ。D.片岩、チャート。E.内外一赤褐色。F.破片。
43	甕	B.粘土紐積み上げ。C.口唇部・口縁部外面単節縄文LR、内面ナテ。D.白色粒、黒色粒。E.内外一明赤褐色。F.破片。
44	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面単節縄文RL、内面ミガキ。D.白色粒、黒色粒。E.外一暗褐色、内一暗赤褐色。F.破片。
45	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面単節縄文RL、内面ナテ。D.白色粒、黒色粒。E.外一暗黄褐色、内一明赤褐色。F.破片。

46	壺	B.粘土紐積み上げ。C.外面単節縄文LR施文後ミガキ、内面ナテ。D.チャート、白色粒。E.内外-黒褐色。F.破片。
47	壺	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ヨコナテ、内面ナテ。D.チャート、黒色粒、白色粒。E.外-暗褐色、内-黒褐色。F.破片。
48	甕	B.粘土紐積み上げ。C.外面単節縄文RL、内面ミガキ。D.片岩、黒色粒。E.内外-灰黄褐色。F.破片。
49	壺	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面結節縄文LR、内面篋ナテ。D.チャート、黒色粒。E.外-明赤褐色、内-暗褐色。F.破片。
50	甕	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ハケ、内面ハケの後ナテ。D.チャート、黒色粒。E.外-暗褐色、内-暗黄褐色。F.破片。
51	甕	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ハケ、内面篋ナテ。D.黒色粒、チャート。E.外-明赤褐色、内-暗褐色。F.破片。
52	甕	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ハケ、内面篋ナテ。D.チャート。E.外-赤褐色、内-灰褐色。F.破片。
53	甕	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ハケ、内面篋ナテ。D.チャート、黒褐色。E.内外-橙色。F.破片。
54	甕	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ハケ、内面篋ナテ。D.チャート。E.外-暗黄褐色、内-黒褐色。F.破片。
55	高 坏	B.粘土紐積み上げ。C.胴部内外面ハケの後ヨコナテ。D.チャート、黒色粒。E.内外-橙色。F.破片。
56	壺	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ハケの後ナテ、内面篋ナテ。D.チャート、黒色粒。E.外-橙色、内-明赤褐色。F.破片。
57	壺	B.粘土紐積み上げ。C.口縁部外面ナテ、内面篋ナテ。口唇部平坦面に縄文。D.チャート、黒色粒。E.外-明赤褐色、内-橙色。F.破片。
58	須恵器甕	B.口ロク成形。C.外面格子目状の叩き目、内面当て道具跡を残す。D.白色粒。E.内外-灰色。F.破片。
59	須恵器甕	B.口ロク成形。C.外面平行叩き目、内面当て道具跡を残す。D.白色粒。E.内外-灰色。F.破片。
60	円筒埴輪	B.粘土紐積み上げ。C.外面12本/2cmの一次縦ハケ、内面ナテ。D.角閃石、チャート。E.内外-橙色。F.破片。
61	台付甕	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ハケ、内面篋ナテ。D.黒色粒、チャート。E.内外-暗黄褐色。F.破片。
62	器 台	A.口径(8.9)。B.粘土紐積み上げ。C.器受部内外面ナテ。D.黒色粒、チャート。E.内外-橙色。F.器受部破片。
63	高 坏	B.粘土紐積み上げ。C.胴部外面ミガキ、内面篋ナテ。D.黒色粒、白色粒。E.外-暗黄褐色、内-黒褐色。F.脚部のみ。G.脚部に穿孔あり。
64	高 坏	B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面ナテ、内面篋ケズリ。裾部内外面ヨコナテ。D.雲母、白色粒。E.内外-明赤褐色。F.脚部のみ。
65	高 坏	B.粘土紐積み上げ。C.坏部内外面ナテ。脚部外面ミガキ、内面絞り目。裾部内外面ヨコナテ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-明赤褐色。F.1/2。
66	高 坏	B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面ミガキ、内面篋ケズリ。裾部内外面ヨコナテ。D.雲母、白色粒。E.内外-暗褐色。F.脚部のみ。
67	高 坏	A.脚端部径(12.3)。B.粘土紐積み上げ。C.脚部内外面篋ナテ。裾部内外面ヨコナテ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-暗黄褐色。F.脚部のみ。
68	高 坏	B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面ミガキ、内面篋ケズリ。裾部ヨコナテ。D.黒色粒、白色粒。E.内外-暗黄褐色。F.脚部のみ。
69	高 坏	B.粘土紐積み上げ。C.脚部外面篋ナテ、内面篋ケズリ。D.雲母、白色粒。E.内外-暗赤褐色。F.脚部のみ。
70	坏	A.口径(13.7)、器高4.9、底径(4.8)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部外面篋ケズリ、内面篋ナテ。D.チャート、黒色粒。E.外-暗褐色、内-橙色。F.1/5。
71	坏	A.口径(16.4)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。体部外面篋ケズリ、内面篋ナテ。D.片岩、黒色粒。E.外-暗褐色、内-暗赤褐色。F.1/6。
72	壺	A.口径(8.8)。B.粘土紐積み上げ。C.口縁部内外面ヨコナテ。胴部内外面篋ナテ。D.角閃石、白色粒。E.内外-明赤褐色。F.胴部上半のみ。

(松澤浩一)

参 考 文 献

- 恋河内昭彦 (1990) 『塩谷下大塚遺跡』 児玉町文化財調査報告書第11集
(1991) 『真鏡寺後遺跡Ⅲ —C・F・D地点の調査—』 児玉町文化財調査報告書第14集
- 坂本 和俊 (1981) 『金屋遺跡群』 児玉町文化財調査報告書第2集
- 菅谷浩之・駒宮史朗 (1973) 『枇杷橋遺跡』 埼玉県遺跡調査会報告第20集
- 徳山寿樹他 (2000) 『塩谷下大塚遺跡 —D地点の調査—』 児玉町遺跡調査会報告書第10集

写真図版



1. 道跡遠景(1)



2. 道跡遠景(2)



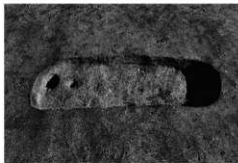
1. 金屋下別所遺跡B地点全景（北西より）



2. 金屋下別所遺跡B地点全景（南西より）



1. 第1号土壤



2. 第2号土壤



3. 第3号土壤



4. 第4号土壤



5. 第5号土壤



6. 第6号土壤



7. 第7号土壤



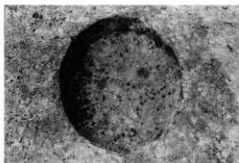
8. 第8号土壤



1. 第10号土坑



2. 第11号土坑



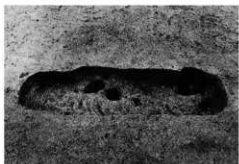
3. 第12号土坑



4. 第13号土坑



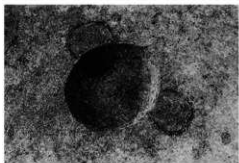
5. 第14号土坑



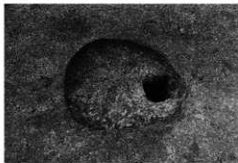
6. 第15号土坑



7. 第16号土坑



8. 第18号土坑



1. 第19号土坑



2. 第20号土坑



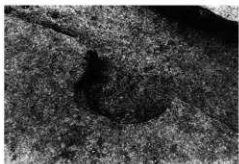
3. 第21号土坑



4. 第22号土坑



5. 第23号土坑



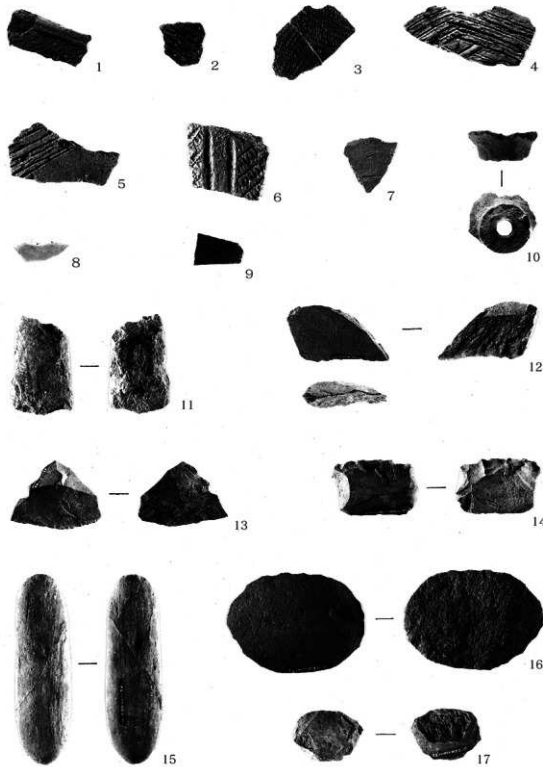
6. 第26号土坑



7. 第27号土坑



8. 第1号沟跡



金屋下别所遺跡B地点出土遺物



1. 塩谷平氏ノ宮遺跡全景



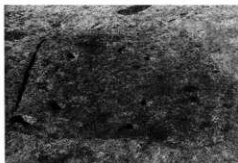
2. 塩谷平氏ノ宮遺跡調査区東側



1. 第1号住居跡



2. 第1号住居跡遺物出土状態



3. 第2号住居跡



4. 第2号住居跡遺物出土状態



5. 第3号住居跡



6. 第3号住居跡炉



7. 第4号住居跡



8. 第4・6号住居跡



1. 第5号住居跡



2. 第5号住居跡遺物出土状態



3. 第6号住居跡



4. 第6号住居跡遺物出土状態



5. 第7号住居跡



6. 第7号住居跡遺物出土状態



7. 第8号住居跡



8. 第8号住居跡遺物出土状態



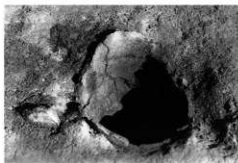
1. 第9号住居跡



2. 第9号住居跡遺物出土状態



3. 第10号住居跡



4. 第10号住居跡埋費



5. 第11号住居跡



6. 第11号住居跡遺物出土状態



7. 第12号住居跡



8. 第12号住居跡遺物出土状態



1. 第2号土坑



2. 第3号土坑



3. 第6号土坑



4. 第9号土坑



5. 第10号土坑



6. 第17号土坑



7. 第18号土坑



8. 第19号土坑



1. 第20号土坑



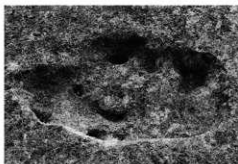
2. 第23号土坑



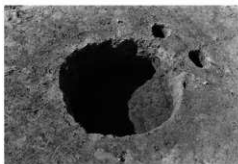
3. 第24号土坑



4. 第29・30号土坑



5. 第31号土坑



6. 第35号土坑



7. 第45号土坑



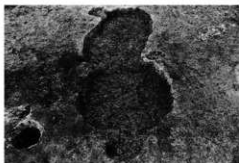
8. 第45号土坑遺物出土状態



1. 第46号土坑



2. 第49号土坑



3. 第50・51号土坑



4. 第57号土坑



5. 第58号土坑



6. 第60号土坑



7. 第1号土器埋設遺構



8. 第2号土器埋設遺構



塩谷平氏ノ宮遺跡第1号住居跡出土遺物 (1)



6



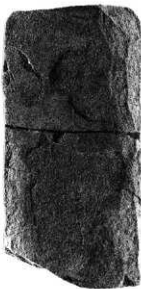
9



8



17



15



16

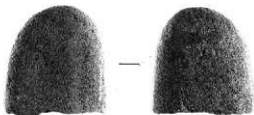


18

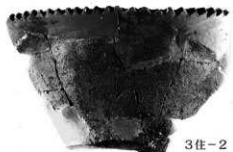
塩谷平氏ノ宮遺跡第1号住居跡出土遺物(2)



2住-1



2住-4



3住-2



3住-1



3住-4



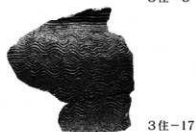
3住-7



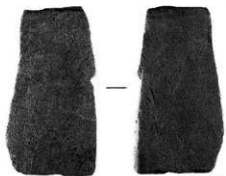
3住-5



3住-8



3住-17



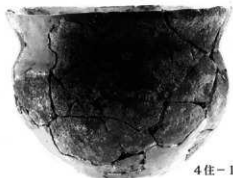
3住-18



3住-19



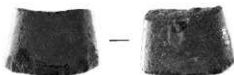
3住-21



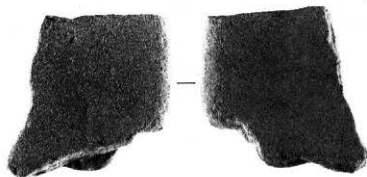
4住-1



4住



4住-2



4住-3



5住-27



1



2



4



3



5



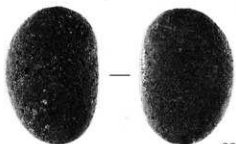
6



8



7



28

平氏ノ宮遺跡第5号住居跡出土遺物



5住-10



5住-11



5住-12



5住-15



5住-17



5住-18



5住-21



5住-22



5住-24



6住-1



6住-2



6住-3



6住-4



6住-5



1



2



3



4



9



13



10

平氏ノ宮遺跡第7号住居跡出土遺物



7住-13



7住-12



7住-14



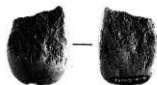
7住-8



7住-15



7住-7



7住-21



7住-22



8住-1



9住-1



9住-2



9住-3



9住-5



9住-6



9住-8



9住-9



9住-10



10住-1



11住-1



11住-2



11住-3



11住-4



11住-5



11住-6



11住-7



11住-8



11住-9



11住-10



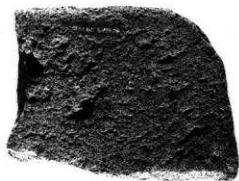
11住-11



12住-1



12住-2



12住-3



12住-4



第1号土器埋設遺構-1



第2号土器埋設遺構-1



第2号土器埋設遺構-2

平氏ノ宮遺跡第12号住居跡、第1・2号土器埋設遺構出土遺物



2土壙-1



4土壙-1



9土壙-1



13土壙-1



17土壙-1



19土壙-1



19土壙-2



19土壙-3



20土壙-5



20土壙-1



26土壙-1



39土壙-1



39土壙-2



40土壙-1



41土壙-2



41土壙-1



42土壙-1



42土壙-2



43土壙-2



43土壙-1



43土壙-3



44土壙-2



46土壙-1



47土壙-1



44土壙-1



49土壙-3



50土壙-1



50土壙-2



50土壙-3



50土壙-4



50土壙-5



50土壙-6



50土壙-7



50土壙-8



50土壙-9



54土壙-1



51土壙-1



53土壙-1



53土壙-2



57土壙-1



58土壙-1



58土壙-3



58土壙-4



58土壙-6



58土壙-5



3土壙-1



3土壙-2



9土壙-2



18土壙-2



45土壙-2



45土壙-3

平氏ノ宮遺跡土壙出土土器(4)、出土石器(1)



53土壙-3



54土壙-2



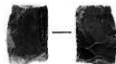
61土壙-1



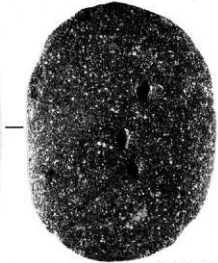
62土壙-1



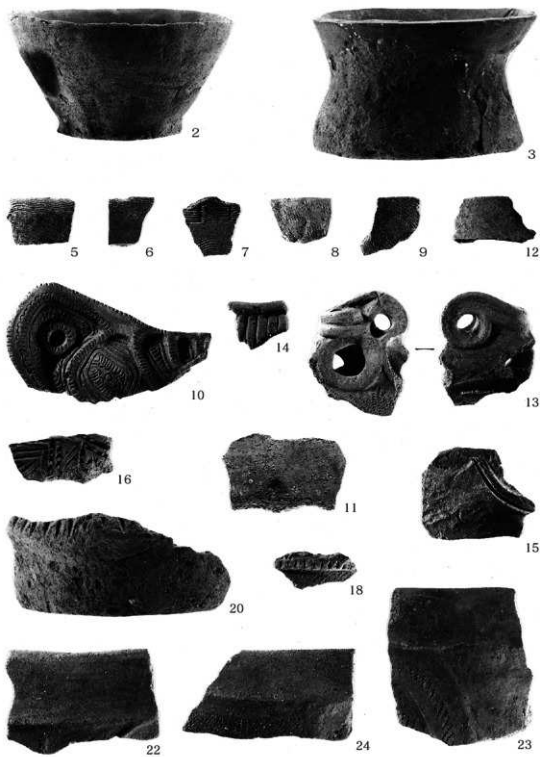
52土壙-1



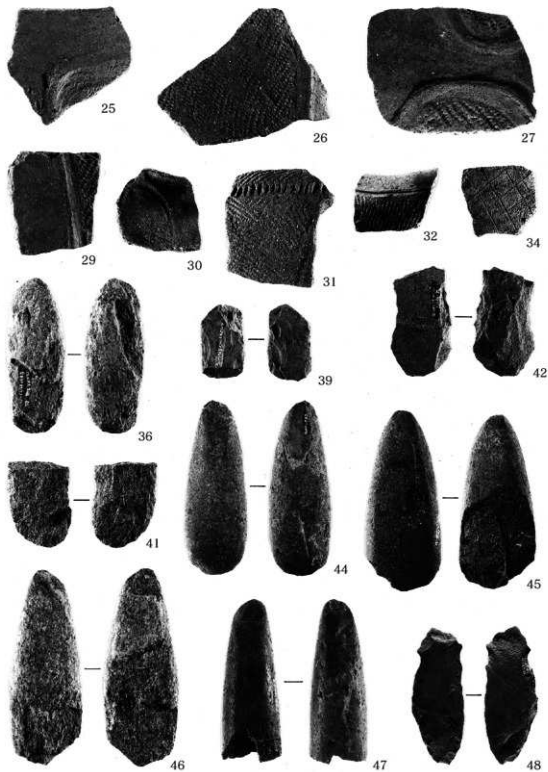
63土壙-1



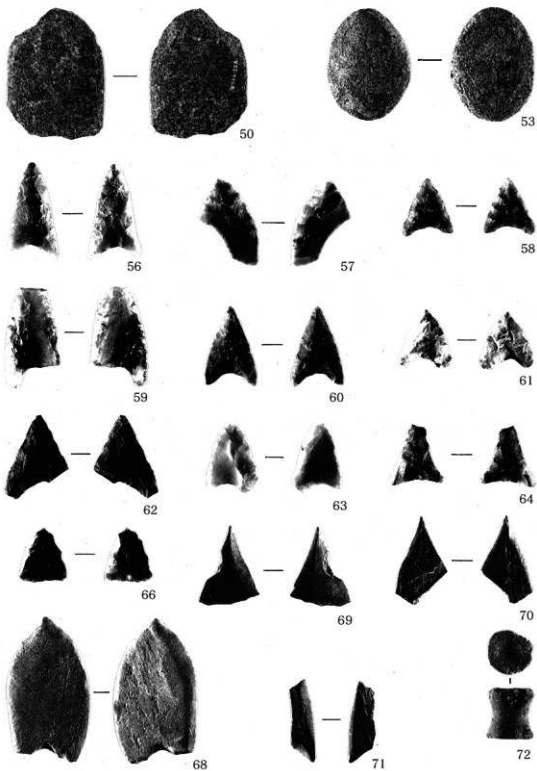
62土壙-2



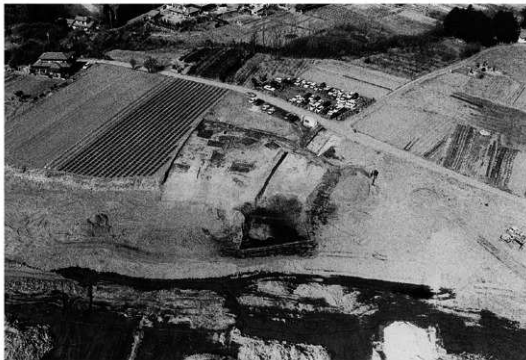
平氏ノ宮遺跡表探・調査区内出土遺物(1)



平氏ノ宮遺跡表探・調査区内出土遺物 (2)



平氏ノ宮遺跡表採・調査区内出土遺物 (3)



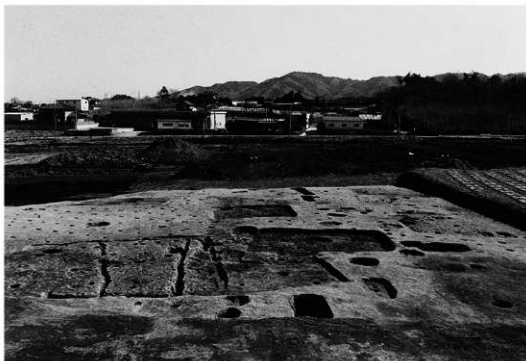
1. 塩谷下大塚遺跡E地点全景（南より）



2. 塩谷下大塚遺跡E地点全景（東より）



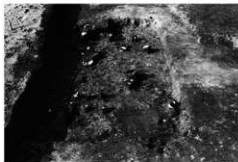
1. 塩谷下大塚遺跡E地点調査区東側（北より）



2. 塩谷下大塚遺跡E地点調査区西側（北より）



1. 第9号住居跡



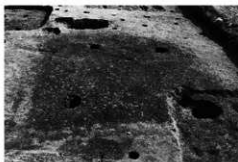
2. 第9号住居跡遺物出土状態



3. 第9号住居跡カマド



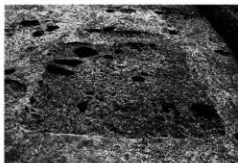
4. 第9号住居跡カマド遺物出土状態



5. 第10号住居跡



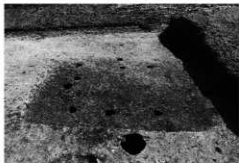
6. 第11号住居跡(東より)



7. 第11号住居跡(南より)



8. 第11号住居跡カマド



1. 第12号住居跡



2. 第13号住居跡



3. 第14号住居跡



4. 第14号住居跡カマ下



5. 第14号住居跡遺物出土状態 (1)



6. 第14号住居跡遺物出土状態 (2)



7. 第15号住居跡



8. 第15号住居跡カマ下



1. 第15号住居跡遺物出土状態 (1)



2. 第15号住居跡遺物出土状態 (2)



3. 第16号住居跡



4. 第17号住居跡



5. 第17号住居跡遺物出土状態



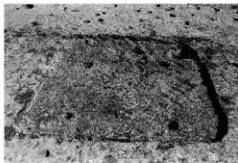
6. 第18号住居跡



7. 第19号住居跡



8. 第20号住居跡カマド



1. 第22号住居跡



2. 第22号住居跡遺物出土状態



3. 第23・24号住居跡（西より）



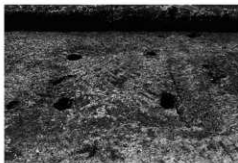
4. 第23・24号住居跡（南より）



5. 第25号住居跡



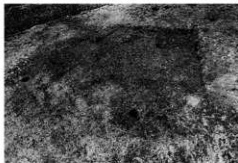
6. 第26号住居跡



7. 第27号住居跡



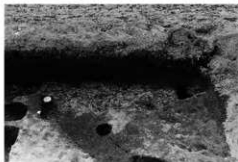
8. 第28号住居跡



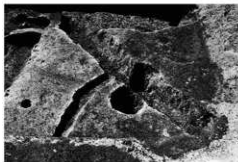
1. 第29号住居跡



2. 第30号住居跡



3. 第31号住居跡



4. 第32号住居跡



5. 第33・34号住居跡 (東より)



6. 第33・34号住居跡 (南より)



7. 第18・23・26・28・33・34号住居跡



8. 第1号掘跡土層断面



塩谷下大塚遺跡E地点第9号住居跡出土遺物 (1)



11



12



13



14



15



16



18



19



20



21



22

塩谷下大塚遺跡E地点第9号住居跡出土遺物(2)



9住-24



9住-25



9住-23



9住-26



10住-1



10住-2



11住-2



11住-1



11住-4

堀谷下大塚遺跡E地点第9・10・11号住居跡出土遺物



11住-5



11住-8



11住-9



11住-12



12住-1



12住-2



14住-2



14住-3

塩谷下大塚遺跡E地点第11・12・14号住居跡出土遺物



14住-1



14住-4



15住-4



15住-5



15住-6



15住-7



15住-8



15住-9



15住-10



15住-12



15住-11



15住-16



15住-17



15住-18



15住-19



16住-1



16住-4



16住-1



16住-3



16住-5



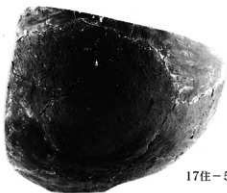
17住-1



17住-2



17住-3



17住-5



17住-4



17住-10



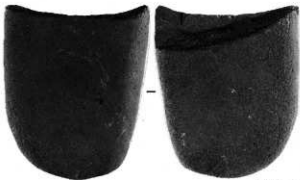
17住-8



17住-6



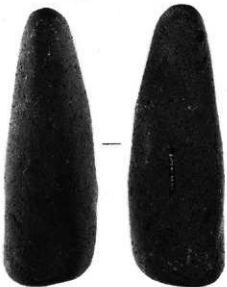
17住-9



17住-11



18住-1



18住-3



18住-2



19住-1



20住-1



20住-2



21住-1



21住-2



21住-4



21住-5



21住-6



21住-7



21住-3



21住-10



21住-12



21住-14



22住-6



21住-8



21住-9



21住-11



21住-13



21住-15



22住-7



22住-1



22住-2



22住-4



22住-3



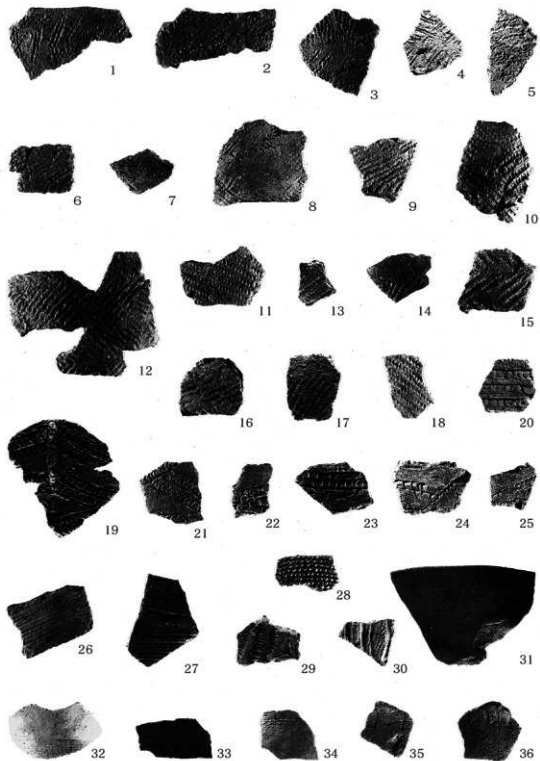
22住-5



23住-1



25住-1



塩谷下大塚遺跡E地点遺構外出土遺物 (1)



塩谷下大塚遺跡E地点遺構外出土遺物 (2)

報 告 書 抄 録

フリガナ	カナヤシモベッショイセキBチテン・シオヤヘイシノマイセキ・シオヤシモオツカイセキEチテン							
書 名	金屋下別所遺跡B地点・塩谷平氏ノ宮遺跡・塩谷下大塚遺跡E地点							
副 書 名	県営中山間地域総合整備事業(秋平・阿久原地区)ほ場整備(藤の池下地区)に伴う発掘調査報告書							
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書					巻 次	第1集	
編 著 者	恋河内昭彦、松澤浩一							
編集機関	本庄市教育委員会							
所 在 地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号 TEL 0495(25)1185							
発 行 日	2006(平成18)年3月15日							
所収遺跡	所 在 地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡					
金屋下別所 B地点	本庄市児玉町 金屋亀池下	112119	90	36°11'13"	139°6'40"	20021204 ? 20030116	1200	中山間 総合整備
塩谷平氏ノ宮	本庄市児玉町 塩谷平氏ノ宮他	112119	94	36°11'14"	139°6'23"	20021202 ? 20030228	2000	中山間 総合整備
塩谷下大塚 E地点	本庄市児玉町 塩谷下大塚他	112119	93	36°11'16"	139°6'36"	20030116 ? 20030228	1500	中山間 総合整備
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
金屋下別所 B地点		古 代	土壇27、溝1		縄文土器片(前・中期)、石器、須恵器片、内耳銅片、かわらけ片			
塩谷平氏ノ宮	集落	縄文時代(中期)	竪穴住居3、土壇29、土器埋設遺構2		縄文土器片(中期)、石器、耳飾(土製、玦状耳飾)			
	集落	弥生時代(後期)	竪穴住居5		弥生土器(後期)、石器(台石、有孔磨製石鏃)			
	集落	古墳時代(前期)	竪穴住居4		土器(前期)、土製紡績車			
塩谷下大塚 E地点	集落	縄文時代(前期)	竪穴住居2、土壇1		縄文土器片			
	集落	古墳時代(前後期)	竪穴住居24		土師器、須恵器片、埴輪片、磁石			
	集落	中 世	堀1					

組 織

発掘調査（平成14年度）

主体者	児玉町教育委員会			
	教 育 長	富 丘	文 雄	
事務局	社会教育課			
	課 長	清 水	満	
	課 長 補 佐	永 尾	清 一	
	文化財係長	鈴 木	徳 雄	
	主 任	恋 河 内	昭 彦	
	主 事	徳 山	寿 樹	
担当者	主 事	大 熊	季 浩	
"	主 事	松 澤	浩 一	

整理報告書（平成17年度、平成18年1月9日まで）

主体者	児玉町教育委員会			
	教 育 長	雉 岡	茂	
事務局	社会教育課			
	課 長	笠 原	義 晴	
	課 長 補 佐	鈴 木	徳 雄	
	文化財係長	恋 河 内	昭 彦	
	主 任	徳 山	寿 樹	
	主 事	大 熊	季 浩	
担当者	主 事	松 澤	浩 一	
"	主 事	松 澤	浩 一	

整理報告書（平成17年度、平成18年1月10日より）

主体者	本庄市教育委員会			
	教 育 長	福 島	巖	（平成18年2月17日まで）
	教 育 長	茂 木	孝 彦	（平成18年2月18日より）
事務局	事務局 長			
	文化財保護課 長	掛 前	川 由 雄	
	課 長 補 佐 兼 埋 蔵 文 化 財 係 長	鈴 木	徳 雄	
	主 査	太 田	博 之	
担当者	主 査	恋 河 内	昭 彦	
"	主 事	松 澤	浩 一	
	臨時職員	松 本	善 行	
	臨時職員	的 野	善 行	

本庄市埋蔵文化財調査報告書 第1集

金屋下別所遺跡B地点
塩谷平氏ノ宮遺跡
塩谷下大塚遺跡E地点

県営中山間地域総合整備事業(秋平・阿久原地区)
ほ場整備(篠の池下地区)に伴う発掘調査報告書

印刷 平成18年3月15日
発行 平成18年3月15日

編集機関 本庄市教育委員会
埼玉県本庄市本庄3丁目5番3号
印刷所 たつみ印刷株式会社
埼玉県深谷市東大沼356番地

